

平成17年度

社会教育主事のための  
社会教育計画  
「実践・事例編」

国立教育政策研究所  
社会教育実践研究センター

社会教育主事のための  
社 会 教 育 計 画  
「 実践・事例編 」

# 目次

## 「実践・事例編」

### 第1章 社会教育計画と学習プログラムの立案

第1節 社会教育計画及び学習プログラムの立案の手順と具体的視点	3
第2節 社会教育計画と学習プログラムの様式	9

### 第2章 社会教育計画の事例

第1節 事例1〔A市社会教育計画〕	21
第2節 事例2〔Y市社会教育計画〕	28
第3節 事例3〔K市S区社会教育計画〕	34

### 第3章 年間事業計画及び学習プログラムの事例

第1節 家庭教育計画	43
第2節 青少年教育計画	50
第3節 成人教育計画	56
第4節 女性教育計画	60
第5節 高齢者教育計画	64
第6節 生涯スポーツ振興計画	70
第7節 環境教育計画	76
第8節 人権教育計画	82
第9節 国際理解教育計画	87
第10節 健康教育計画	93
第11節 情報化に関する教育計画	97
第12節 高齢社会に関する教育計画	102
第13節 生涯学習によるまちづくり推進計画	108
第14節 学社連携・融合推進計画	115

## 参考

### 1 参加型学習の様々な手法

同志社女子大学教授 藤原 孝章 123

### 2 評価項目・指標の設定の視点と方法

八洲学園大学教授・筑波大学名誉教授 山本 恒夫 133

(平成17年3月現在)

## 「実践・事例編」

### 第1章 社会教育計画と学習プログラムの立案

# 第1節 社会教育計画及び学習プログラムの立案の手順と具体的視点

	段 階	手順・具体的視点	留意点及び参考事項
〇〇市の現状と課題の分析	1 市町村の概要 【分析シート1】	<p>モデルとなる市町村の地勢、地域条件、住民の生活状況、教育・文化的環境等を把握し、学習者にとってより有益な施策・事業を立案するための客観的条件・情報を得る。</p> <p>(1) 地勢・地域条件(人口・人口構成)等について箇条書きにする。                      (2) 住民の生活状況の特徴について箇条書きにする。                      (3) 教育・文化的環境について、学校等数・生涯学習関連施設数を記入する。また、教育・文化的環境の特徴について箇条書きにする。</p>	<p>■幅広い分野からの情報収集に努める。                      ■表記は箇条書きとし、ポイントを押さえたものとする。</p> <p>【資料・参考文献等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体史、自治体総覧</li> <li>・自治体振興計画(生涯学習振興計画、マスタープラン等)</li> <li>・中・長期教育計画</li> <li>・生涯学習推進計画、社会教育計画</li> <li>・教育要覧、社会教育要覧</li> <li>・学習意識調査等の調査報告書</li> <li>・各種の会議、審議会や委員会の答申、建議、調査報告等</li> <li>・施設要覧(公民館、図書館、博物館等の要覧、年報、事業報告書等)</li> </ul> <p>例) 地勢/人口の増減/少子化/高齢化/産業構造等                      例) 就労状況/余暇の過ごし方/昼夜の人口比率/交通状況等                      例) 学習関心/学習活動/NPO・ボランティア活動等</p>
	2 社会教育の現状と課題 【分析シート2】	<p>モデルとなる市町村のこれまでの取組状況を分析・整理し、今後取り組むべき諸施策・事業の方向性を体系的・構造的に押さえる。</p> <p>区分を設定し、記入する。</p> <p>区分の設定</p> <p>施策の整理</p> <p>現行の事業</p> <p>各事業の実施主体を( )内に記入する。</p> <p>現状の問題点・課題</p> <p>施策に照らし合わせ、現行の事業において解決すべき問題点や達成すべき課題を記入する。</p> <p>問題解決・課題達成のための方向性</p> <p>問題点を解決し、課題を達成するための方向性を記入する。</p>	<p>■区分は計画立案に適したものを設定する。</p> <p>■区分例</p> <p>「施策の体系による区分」                      推進体制(組織)の整備、学習機会の提供、指導者の養成、学習情報提供と学習相談体制の整備、社会教育施設の整備と充実、社会参加活動の支援等</p> <p>「発達段階別による区分」                      乳幼児、青少年、成人、高齢者等</p> <p>「生活関連領域別による区分」                      個人(余暇)生活に関すること、家庭生活に関すること、職業生活に関すること、地域・社会生活に関すること</p> <p>■社会教育行政として取り組んでいる施策を記入する。</p> <p>■次のように整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育行政：教育委員会及び社会教育行政施設(公民館、図書館、博物館、体育館等)が実施している事業</li> <li>・学校・関連行政・民間・団体等：学校、関連行政部局(福祉、農林水産、観光、建設、産業、環境等)の事業や、民間事業者(農協、漁協、カルチャーセンター等)、関連団体等(社会教育関係団体等)が実施している事業</li> </ul> <p>■現行の施策・事業の反省・評価という観点から、学習者の意識や学習活動の状況を分析する。                      ・各施策に基づいて問題を洗い出す場合、多面的に考察する。</p> <p>■事業の重複や不足している点を整理する。</p> <p>■ブレインストーミングやKJ法などを用いて分析、整理してもよい。</p> <p>■単なる問題点の裏返しではなく、問題を解決するために必要な方策について幅広く展望する。</p> <p>■長期的展望に立って解決する問題点・課題とある年度の計画に基づいて解決する短期的なものに分けて整理する。</p> <p>■複数の問題点・課題に対応する方策は、番号や矢印を使って対応がわかるようにする。</p>

	段 階	手順・具体的視点	留意点及び参考事項
中・長期計画の作成	I 総論の作成 【様式1】	計画策定の基本的な考え方を明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■社会教育計画は、社会教育行政の総合計画である。</li> <li>■社会教育は教育委員会の範疇であるが、社会教育行政は生涯学習社会構築の中核である。</li> <li>■地域の実情により計画が異なり、地域の実情にあった計画であることが求められる。</li> <li>■策定にかかわる委員会等の組織を編成することも一つの方法である。</li> <li>■学社連携・融合の理念を視野に入れる。</li> </ul>
		①市町村の現状を把握し、その現状に適した計画であること。	
		②社会教育行政は、生涯学習社会構築の中核として、首長部局、民間の諸活動との幅広い連携の下に、人々の生涯にわたる自主的な学習活動を支援する。	
		③自治体の特性と住民の学習状況や公共施設におけるサービスの現状把握をもとに、生涯学習推進計画等との整合性を図る。	
		【参考文献】	
	計画策定の趣旨	計画策定の経緯や意義を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■総合振興計画（マスタープラン）など、他の計画との関係、現行の計画の進捗状況も含めて記述する。</li> <li>■社会教育を取り巻く現在の状況を記述した上で、計画策定の意義を記述する。</li> </ul>
	計画の性格	計画の特徴や他計画との関連を記入する。	■簡潔に記述する。
	計画の期間	計画の期間として始めの年度と終わりの年度を明記する。	■期間の途中で見直しを行うことも考えられる場合は、その旨を明記する。
	計画の構成	計画策定の視点や範囲、各章の概要を記入する。	■章立てを明記し、必要に応じて概要を記述する。
	II 基本方針の作成 【様式2】	基本方針	現状分析を踏まえ、自治体の社会教育行政を推進するための指針であることを示す。
基本方針		基本的な考え方を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■計画が求められる背景や、この計画によって達成されるべき、住民や地域の理想的な姿に言及するなど、目指すべき方向性について記述する。</li> <li>■中期計画であれば、今後5年間の社会教育の進むべき方向性を端的に表す</li> <li>■計画の目標を具体的にわかりやすく、具体化、焦点化して掲げる</li> </ul>
		計画の目標を記入する。	
社会教育推進の基本方針を記入する。			
上位計画との関連	上位計画との関連図を記入する。	■上位計画（市民憲章、総合計画、教育目標など）や他の計画（学校教育計画など）との関連を関連図としてまとめる。	
施策の方向性と体系	<p>目標、基本方針、基本方策を記入する。</p> <p>施策の方向性を記入する。</p> <p>具体的な事業を設定し、記入する。</p> <p>数値目標を設定し、記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■課題となる施策を整理し、基本となる施策の柱を設定するとともに、事業の方向性や体系を組み立てる。</li> <li>■わかりやすい体系図としてまとめる。</li> <li>■施策の方向性の各項目には①、②のように通し番号を付ける。（次の年次計画につなげるため。）</li> <li>■各事業の数値目標を設定する。（次の年次計画の中で設定し転記する。）</li> </ul>	

	段 階	手順・具体的視点	留意点及び参考事項
中・長期計画の作成	Ⅲ 施策の展開 (年次計画) 【様式3】	施策の体系にあげられた施策の方向性を、施策・事業として具体的に年次を明らかにして計画を立案する。 立案にあたっては、発達段階もしくは教育分野の中から、一つの段階(領域)を選んで作成する。	■発達段階、教育分野の例 【発達段階】 ・乳幼児 ・青少年 ・成人 ・高齢者 【教育分野】 ・家庭教育 ・青少年教育 ・成人教育 ・女性教育 ・高齢者教育
	施策	体系図の施策の方向性の番号を記入する。	■施策の体系図の中での位置づけを確認する。
	事業名	予算書に記載する事業名を記入する。	
	担当部局名	連携して事業を実施する部課名を記入する。	■他部局との連携を模索する。
	事業内容	具体的に何をどのように実施するのかを簡潔に記入する。	
	評価指標	事業の結果や成果を測るための指標を記入する。 計画を立案する段階から、評価をどのように行っていくかを考える必要がある。 事業の達成状況を的確に測る指標を設定する。	■事業の結果(アウトプット)だけでなく、成果(アウトカム)も指標として設定するようにする。 例)【アウトプット指標】 参加者数、養成者数、利用率 等 【アウトカム指標】 学習率、満足度、居住意識の変化 等
年次別目標値	設定した評価指標について、各年度ごとに達成すべき数値目標を設定し記入する。	■事業で達成すべき目標値を政策面(人的・財的・物的条件、上位計画との関連等)や地域条件(人口変動、高齢化の進展等)を考慮に入れながら設定する。	

	段 階	手順・具体的視点	留意点及び参考事項
△△教育年間事業計画の作成	IV 年間事業計画 教育目標及び教育行政目標の設定 【様式4】	社会教育目標、個別教育目標、社会教育行政目標、個別教育行政目標をそれぞれ設定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■教育目標と教育行政目標はそれぞれ対応させる。</li> <li>■教育目標は、学習者にとっての理想、望ましい人間像あるいは地域像であり、表記としては「～しよう」「～に努めよう」「～となろう」等となる。</li> <li>■教育行政目標は、行政担当者が教育目標を達成するために具体的にを行うべき施策、条件整備であり、表記としては「～を整備する」「～を行う」等となる。</li> </ul>
	社会教育目標の設定	具体的な施策や事業を選定する前に、学習者が達成すべき目標を包括的に設定する。(全体的・総合的目標)	
	△△教育目標の設定	上記目標を受けて、それぞれ具体的あるいは個別の目標を設定する。	
	社会教育行政目標の設定	社会教育目標を受けて、社会教育行政としての施策・事業の目標を包括的に設定する。(全体的・総合的目標)	
	△△教育行政目標の設定	上記目標を受けて、それぞれ具体的あるいは個別の目標を設定する。	
	年間事業計画表の作成	上記教育目標・教育行政目標を受けて、当該年度の施策・事業の一覧を作成する。	
	区分の設定	事業設定の際の区分を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■教育委員会、公民館、図書館、博物館、体育館等における社会教育事業のすべてを視野に入れて事業を組む。</li> <li>■事業区分の例 区分については、分析シートの区分のまま設定してもよい。また、新たな区分の設定をしてもよい。</li> <li>■事業選定の留意点 緊急性/重要性/公共性/公益性/先導性/波及効果性/地域性/実現可能性</li> </ul>
	事業名の設定	事業を選定し、事業の名称を決定する。	■いわゆる施策名的な事業名は避けるとともに、内容や対象がわかるような事業名とする。
	事業の目的の検討	各事業の目的やねらいを定める。	■事業の実施主体として「何のために事業を開設するのか」を簡潔に表記する。ときには、事業を実施する背景、理由を前提として述べることも必要である。
	事業内容の検討	各事業の内容を定める。	■それぞれの事業で「何を学習するのか」を具体的に列挙する。
対象者・定員の決定	各事業の対象者と定員を設定する。	■事業の目的・内容から、「誰を対象とするのか」もっとも適切な対象・規模を設定する。	
実施期間・回数 の決定	各事業の実施期間・実施回数を設定する。	■事業の目的・内容から、適切な期間・回数を設定する。 その他、予算や地域特性等も考慮する。	
予算の設定 備考の検討	各事業の経費を設定する。 備考として、上記以外について必要と思われる事項や実施にあたっての留意事項を記入する。	■千円単位で総額を記入する。 例) 実施主体、実施場所、連携協力先、評価の方法等	



	段 階	手順・具体的視点	留意点及び参考事項
△△教育学習プログラム(個別事業計画)の作成	V △△教育学習プログラム(個別事業計画)【様式5】	年間事業計画の中から一つの事業を選択し、その事業について個別事業計画を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■原則として、「学級・講座型」の事業を選択する。</li> <li>■実際に学習プログラムを作成する場合には、住民参加の観点から、参加者の代表を含むプログラム検討委員会やプログラム作成委員会等を組織すると有効である。</li> </ul>
	事業名の表記	事業名を記入する。	■年間事業計画より転記する。
	事業の目的の表記	事業の目的を記入する。	■年間事業計画より転記する。
	実施主体の表記	事業の実施主体を記入する。	■主催だけではなく、共催、後援、主管等をも考慮し、連携・ネットワークによる効果的な事業の展開を考える。
	対象者・定員の表記	事業の対象者・定員を記入する。	■年間事業計画より転記する。
	学習期間・学習時間(回数)の設定	学習期間・学習時間(回数)を「○月～○月」「1回の学習時間×○回」の形で記入する。	■学習内容との関連を考慮するとともに、地域特性あるいは学習者の生活実態を尊重する。
	学習場所の設定	学習場所を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学習内容、学習方法等を考慮する。</li> <li>■原則として主要学習会場を表記し、回によって会場が変わる場合は「備考」欄にその旨記入する。</li> </ul>
	学習目標の設定	学習目標を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■上記「事業の目的」が、事業実施主体としての目的、ねらい、趣旨であるのに対し、「学習目標」は、学習者の最終達成目標として学習によって達成されるべき目標(成果・状態)を示す。</li> <li>■あくまでも学習者を主体とした表記とし、学習者にとってわかりやすい表現をする。 例) ×「～を理解させる」 → ○「～を理解する」</li> <li>■学習者の要求課題や必要課題を踏まえた目標とする。</li> </ul>
	プログラムの展開の作成	プログラムの展開について、具体的な内容を作成する。	
	回(コマ)の設定	学習回数を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「学習テーマ」及び「学習の内容と方法」を配列した上で、学習の連続性、継続性を考慮し、もっとも学習の効果を高める回数を設定する。</li> <li>※事業内容にもよるが、概ね5～10回が望ましい。</li> </ul>
学習テーマの設定	学習テーマ(主題)を記入する。	■「学習の内容と方法」に合わせ、親しみのもてるような表現とする。	
学習の内容と方法の設定	学習内容及び学習方法を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「何について」(学習内容)、「どんな方法で」(学習方法)学習するのかがわかるような表記とする。</li> <li>例) 講義 「——の現状と今後の課題について考える」 ロールプレイ 場面設定「——川の環境を考える住民の集会」</li> <li>■学習目標、学習内容に応じて、「参加型学習」の手法(参考1 p.123参照)を取り入れると有効である。</li> </ul>	
学習支援者の設定	学習支援者を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学習者のレベルに対応させるとともに、学習方法・形態との関連性を考慮する。</li> <li>■学習成果の活用という観点から、過去の学級・講座の修了者に依頼したり、地域の人材の発掘を図ったりすることも必要である。</li> </ul>	
<p>ここで「学習支援者」とは、学習の場において、いわゆる“講師”(知識・技術を教える人)、ファシリテーター(学びを促進する人)、企画立案者(学習プログラムを企画・立案する人)、学習者(学びの場に参加する人)等の役割を果たす人を指す。すなわち、従来の「教える」—「教えられる」(「指導者」—「学習者」という関係ではとらえきれない、様々なスタイルで学習を支援する人たちのことである。具体的には、社会教育主事、司書、学芸員等の社会教育指導者、教員、団体のスタッフ、企画運営委員会のメンバー、ボランティアが挙げられる。</p>			
備考の検討	上記以外について必要と思われる事項や実施にあたっての留意事項を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■プログラムの企画者、運営主体者の立場から表記する。</li> <li>例) 学習場所(回によって変わる場合)/期日/時間数/教材・教具/評価の観点 等</li> </ul>	

	段 階	手順・具体的視点	留意点及び参考事項
△△教育学習展開計画（展開プログラム）の作成	VI 学習展開計画（展開プログラム） 【様式6】	学習プログラム（個別事業計画）の中から一つのコマを選択し、そのコマについて具体的な学習展開計画を作成する。	
	事業名・学習テーマの記入	学習プログラム（個別事業計画）から転記する。	
	学習目標の設定	当該時間の学習目標を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学習テーマに沿ったものとし、学習者主体の表現とする。</li> <li>■学習プログラムの学習目標との整合性に留意する。</li> </ul>
	準備するものの検討	学習の展開に必要な物品を挙げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■物品の数・量についても記入する。</li> <li>■準備のためのチェックリストとして活用する。</li> </ul>
	会場図の作成	使用する会場の机・椅子、使用機器の配置等を作成する。	■グループ・ワークの場合、1グループの人数についても考慮する。
	導入→展開→まとめの検討	具体的な学習活動を時系列に沿って配置する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「導入」部分では、アイスブレイクによって学習の場の雰囲気を和らげ、参加者相互の出会いの場とするとともに、学習への意欲を喚起するような学習活動を盛り込む。</li> <li>■「展開」部分では、各学習活動の配列と時間に留意しながら組み立てる。休憩時間については、全体の時間を考慮して設定する。</li> <li>■「まとめ」部分では、アクティビティ全体の学習をふりかえるとともに、学習成果を共有する時間とする。</li> <li>■時間は、0を起点とし、学習活動の内容ごとに分単位で記入する。</li> </ul>

## 第2節 社会教育計画と学習プログラムの様式

計画立案の手順と様式との関係			様式	ページ
計画立案のためのワークシート	1 市町村の概要	→	分析シート1	・・・10
	2 社会教育の現状と課題	→	分析シート2	・・・11
中長期計画	I 総論	→	様式1	・・・12
	II 基本方針	→	様式2	・・・13, 14
	III 施策の展開(△△教育年次計画)	→	様式3	・・・15
年間事業計画	IV 年間事業計画 (平成〇〇年度△△教育事業計画)	→	様式4	・・・16
学習プログラム	V △△教育学習プログラム(個別事業計画)	→	様式5	・・・17
学習展開計画	VI 学習展開計画(展開プログラム)	→	様式6	・・・18

平成 年度		演習 第 班		グループ	
番号	都道府県名	氏 名	番号	都道府県名	氏 名
			担当者名		

1 ○○市の概要

(1) 地勢・地域条件等

①

-----

②

-----

③ 人口

-----

(2) 地域住民の生活状況の特徴

①

-----

②

-----

③

-----

(3) 教育・文化的環境

◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	( )
小 学 校	
中 学 校	
高 等 学 校	
大学・短大	
専 門 学 校	

◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数

◇ 教育・文化的環境の特徴

①

-----

②

-----

③

-----

2 社会教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		

# 〇〇市社会教育計画

(タイトル)

## I 総 論

(1) 計画策定の趣旨

(2) 計画の性格

(3) 計画の期間

(4) 計画の構成

## Ⅱ 基本方針

### 1 基本方針

- (1) 基本的な考え方
  
- (2) 計画の目標
  
- (3) 社会教育推進の基本方針

### 2 上位計画との関連

3 施策の方向性と体系

目標	基本方針	基本方策	施策の方向性



Ⅲ 施策の展開（△△教育年次計画）

施策	事業名	担当部局名	事業内容	評価指標	年次別目標値				
					〇〇年度	〇〇年度	〇〇年度	〇〇年度	〇〇年度

IV 年間事業計画（平成〇〇年度△△教育事業計画）

(1) 社会教育目標	
(2) △△教育目標	
(3) 社会教育行政目標	
(4) △△教育行政目標	

(5) △△教育年間事業計画表

区 分	事 業 名	事 業 の 目 的	事 業 内 容	対 象 者 ・ 定 員	実 施 期 間 ・ 回 数	予 算 (千 円)	備 考



VI 学習展開計画（展開プログラム）

(1) 事業名		第 回 ( 月 日 曜日)
(2) 学習テーマ		
(3) 学習目標		

(4) 準備するもの <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	(5) 会場図
--	---------

(6) 展 開

展開	時間	学 習 活 動	学習支援者	留 意 点	備 考
導 入					
展 開					
ま と め					

## 第 2 章 社会教育計画の事例

(分析シート 1, 2, 様式 1 ~ 3)



# 第1節 A市社会教育計画

＜分析シート1＞

## 1 A市の概要

### (1) 地勢・地域条件等

① F県の最南部に位置し、豊かな自然と海産物の宝庫である有明海に面している。明治以降、石炭と石油化学関連コンビナートの興隆とともに中部有明地方における主都市として発展し、わが国産業・経済の発展に大きく貢献してきた。しかし、昭和30年代以降、石炭から石油へのエネルギー革命をはじめとした産業構造の激しい変化や平成9年のM炭鉱の閉山等により、地域社会経済は厳しい状況下にある。

② 産業構造は、第1次産業1,807人（3.0%）、第2次産業18,080人（29.9%）、第3次産業40,522人（67.1%）である。

③ A市の人口は、昭和62年をピークに、それ以後年々減少傾向にあり、平成15年3月現在で140,628人となった。その要因として、厳しい経済状況の中、就業の場が減少し、若年層の人口流出が急速に進んでいることが挙げられる。平成18年のA市人口が125,000人となることが予想されるなど、今後、さらに少子高齢化が進むと考えられる。

人口140,628人（平成15年3月現在） 高齢化率24.5%（平成15年10月現在）

### (2) 地域住民の生活状況の特徴

① 自治会活動が盛んである。

② レジャーを中心とした個人・家族単位での活動は市外へ出向くことが多い。

③ 公共交通機関は鉄道と路線バスがあるが十分ではなく、自家用車を利用しないと移動は困難である。

### (3) 教育・文化的環境

#### ◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	17 (10)
小 学 校	13
中 学 校	7
高 等 学 校	3
大学・短大	1
専 門 学 校	1

#### ◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数	種 別	数
中央公民館	1	武道館	1
地区公民館	8	市民会館	1
図 書 館（中央）	1	市民ホール	1
図 書 館（地区）	4	青少年会館	1
博 物 館	1	女性プラザ（併）	1
体 育 館	1		

#### ◇ 教育・文化的環境の特徴

① 公民館等で行われる社会教育事業に積極的に参加する住民が多い。

② 学校教育における受験競争はあまり激しくなく、クラブ活動や社会教育施設の主催事業に参加する青少年も多い。

③ 学習した成果を生かし、ボランティア活動などに取り組む市民が増えた。市立全小学校の施設を開放するなど、地域の学習拠点として学校施設の開放が進んでいる。郷土博物館が建設され、市民向け学習講座なども開講されている。

2 社会教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
推進体制	住民のニーズを行政施策に反映させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育委員の会議</li> <li>公民館運営審議会</li> <li>図書館協議会</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育全体に対する意見が出てこない。</li> <li>定例的な開催で報告中心に進められている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>審議機能の強化</li> <li>計画性を持った会議の開催</li> <li>社会教育の課題に関する諮問を行うとともに、専門委員会等を設けて審議を行う。</li> </ul>
学習機会の提供	現代的課題を中心に市民一人ひとりが自ら学んで学習できる場の提供に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民講座</li> <li>高齢者学級</li> <li>家庭教育学級</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業内研修(企業)</li> <li>趣味教養講座(民間事業者)</li> <li>各種講演会(健康増進課、環境政策課、生活環境課)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の固定化</li> <li>学習の成果を生かす場が十分でない。</li> <li>学習の成果が地域活動につなげていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民に密着した講座の開催</li> <li>人材バンク等のシステムを整備し、市民講師の活躍の場を広げる。</li> <li>地域の課題に即した講座を行うとともに、地域活動につなげる支援を行う。</li> </ul>
指導者の養成	住民の学習活動や社会参加活動を支援し活性化するために、指導者の発掘・養成を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジュニアリーダーの養成</li> <li>青少年育成指導者の養成</li> <li>体育指導員の養成</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者が固定されていて広がりが少ない。</li> <li>指導者に必要な研修の機会が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな人材を発掘・養成する。</li> <li>定期的に指導者講習を実施し、資質の向上を図る</li> <li>活躍の場を提供する。</li> </ul>
学習情報提供・学習相談	市民の学習活動の充実のために、円滑な学習情報の提供と、相談体制の充実強化を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習情報誌の発行(年2回全世帯配布)</li> <li>公民館情報誌の発行(年4回全世帯配布)</li> <li>公民館職員による学習相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットによる講座情報提供(民間事業者)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイムリーな情報提供が十分にできていない。</li> <li>インターネットによる情報提供が行われていない。</li> <li>学習機会に関する相談が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動に関する情報収集体制を再構築する。</li> <li>ITを活用したタイムリーな学習情報提供を行う。</li> <li>公民館に学習相談窓口を開設し、地域住民に周知する。</li> </ul>
社会教育施設の整備と充実	住民が主体的に地域活動や学習活動を展開できるよう、社会教育施設の整備・充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育施設(公民館、図書館、博物館)の整備と活用の推進</li> <li>施設情報の提供(市広報により年12回全世帯配布)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽箇所の整備が十分に進んでいない。</li> <li>インターネットによる利用予約を行っているが、十分に活用されていない。</li> <li>施設間の連携がとれていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存施設の有効活用に努力する。</li> <li>住民の自主的な活動の場となるよう、積極的に施設利用に関する広報を行う。</li> <li>施設間の事業のネットワーク化を図る。</li> </ul>



区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
社会参加活動の支援	住民の主体的な社会参加活動を支援する	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校・生涯学習支援ボランティアの設置</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>登録人数に比べて、活動できる人数が少ない。</li> <li>住民のニーズに合うボランティア登録が少ない。</li> <li>地域を場とした活動が少なくなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の活性化を図るボランティアコーディネーターを配置する。</li> <li>ボランティアに関する学習の機会を提供する。</li> <li>公民館を核として、地域活動の活性化を図る。</li> </ul>

## 〇〇市社会教育計画

A市社会教育中期計画（平成14年度～平成18年度）

－ 自立・共生・創造するまちづくり A市－

### I 総 論

#### (1) 計画策定の趣旨

A市の社会教育は、これまでの「第4期A市総合計画」の「未来を開く心豊かな教育と文化のまちA市づくりをめざして」という目標を踏まえ、「第2期社会教育振興中期計画」の具現化を図りながら、市民のニーズと社会の趨勢を見据え、施策を推進してきた。しかし、近年、国際化、情報化、少子高齢化、余暇時間の増大など、私たちを取り巻く状況の変化は著しく、価値観の多様化、生活意識の変化等がめまぐるしく進化・細分化してきている。

こうした状況の中で、これらの変化に対応するためには、より一層、生涯学習を振興していくことが求められるとともに、魅力と活力のある地域づくりを進めるためには、市民の学習活動の活発化が重要であり社会教育の果たす役割は大きい。こうしたことから21世紀を展望した、今後の社会教育行政の在り方を考え、社会教育の現状を踏まえるとともに、A市の特色を生かしながら、進めるべき施策の体系化を図り、社会教育事業推進の指針となる社会教育計画を策定するものである。

#### (2) 計画の性格

この計画はA市総合計画に基づき、他の計画と整合性を図りながら、A市民憲章並びにA市教育基本目標の理念を具現化し、生涯学習推進の観点に立った社会教育の推進に係る計画である。

#### (3) 計画の期間

この計画の期間は、A市第4期総合計画と整合性を図り、平成14年度から平成18年度までの5年間とする。

#### (4) 計画の構成

この計画は、次の4章で構成する。

第1章 第3期社会教育中期振興計画の基本的な考え方

第2章 市民憲章と社会教育目標と施策体系

第3章 生涯各期における社会教育施策

第4章 第3期社会教育中期振興計画の事業項目・指数

参考 市民の社会教育意識調査結果

社会教育施設及び利用状況・社会教育関係団体の状況

## II 基本方針

### 1 基本方針

#### (1) 基本的な考え方

A市民は急激な社会環境の変化の中で、心の豊かさや生きがい、あるいは自らの生活や職業上の能力向上を願い、幅広い分野の学習を求めている。また、自分たちのライフスタイルに合った学習活動や、地域での学習交流など、様々な形の学習を求めている。このように、社会情勢の変化に対応して市民の学習に対する要望はますます多様化し、学習の必要性を強く認識しており、生涯学習社会の確立が急務になっている。こうした状況の中で、本市は、市民の生涯学習を支援するため、社会教育を重点的に推進することを目指す。

#### (2) 計画の目標

基本的な考え方を土台として、計画を実施する目標を次のように定める。

「自立・共生・創造するまちづくり A市」

この目標を実現するためには、以下のような基本的視点にしたがって、社会教育を進めていくこととする。

#### (3) 社会教育推進の基本方針

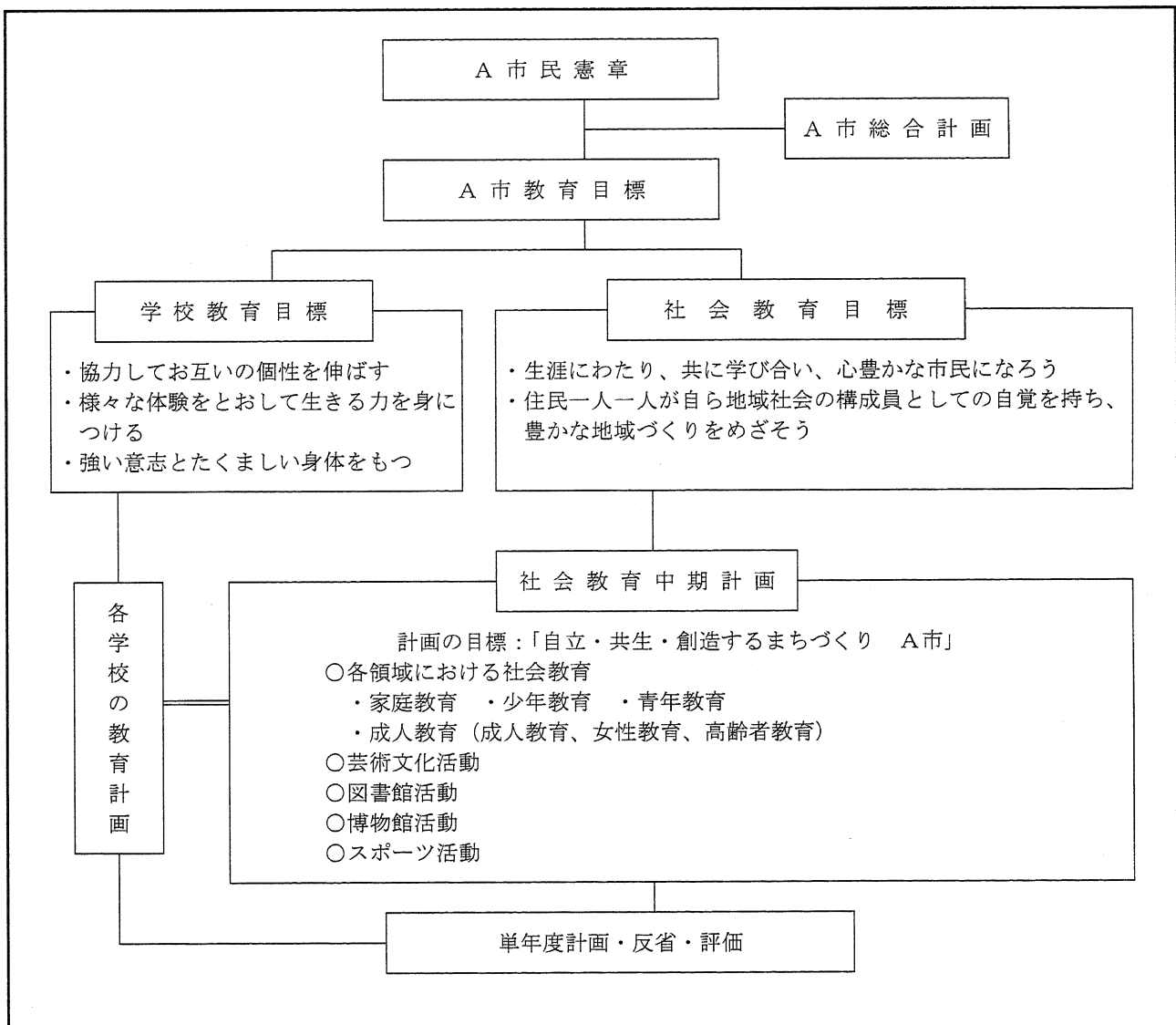
上記の計画の目標を達成するため、社会教育行政が推進すべき基本方針は以下のとおりである。

ア 共に学びあう学習環境づくり

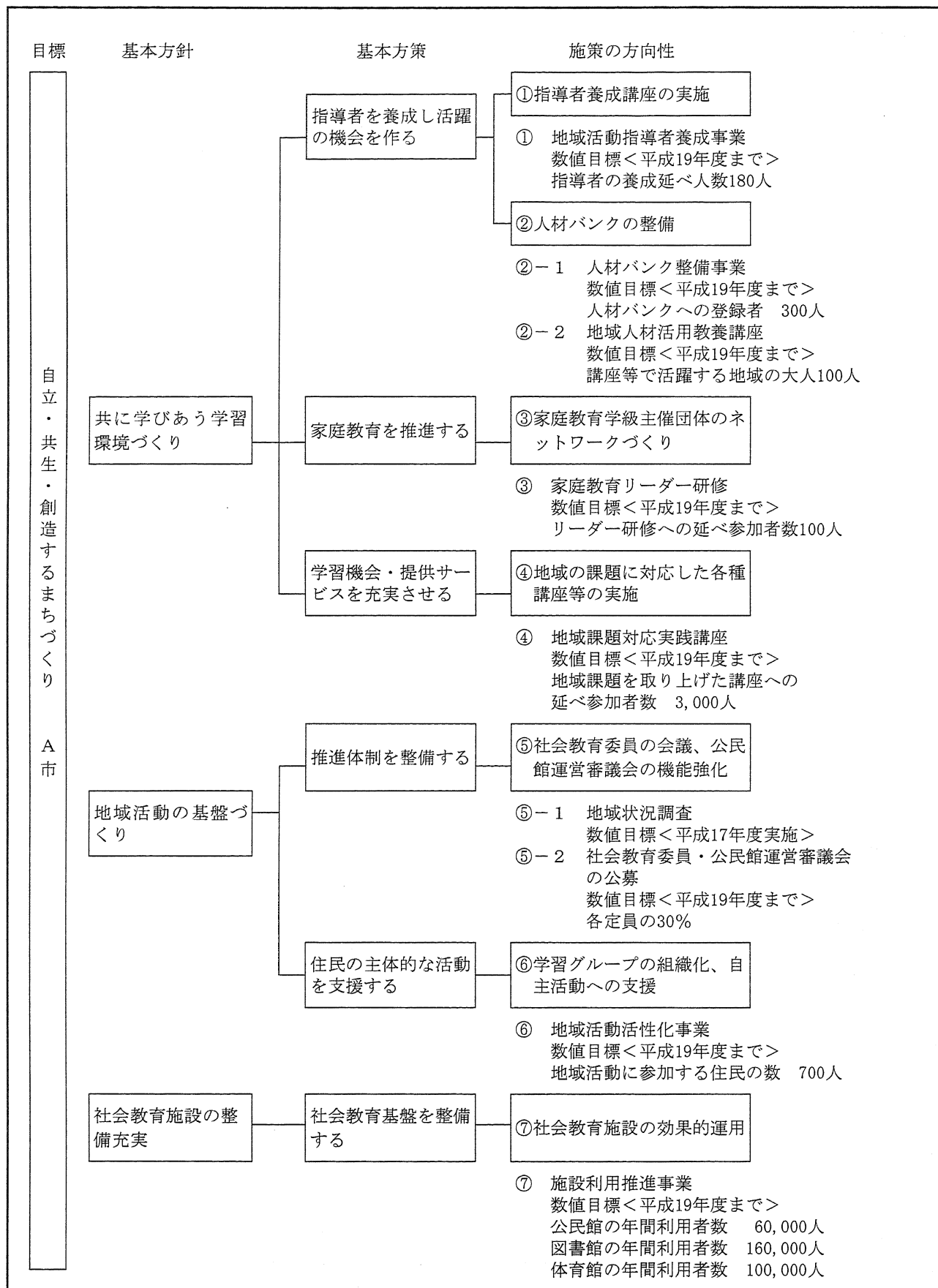
イ 自ら学ぶ学習活動の基盤づくり

ウ 対話と参加を重視した学習システムづくり

### 2 上位計画との関連



3 施策の方向性と体系



Ⅲ 施策の展開（成人教育年次計画）

施策	事業名	担当部局名	事業内容	評価指標	年次別目標値				
					17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
①	地域活動指導者養成事業	社会教育課	地域活動を指導する大人を養成する。	・指導者の養成延べ人数	60	120	180		
				・養成者のうち地域活動を指導している人数		30	60	90	100
②	人材バンク整備事業	社会教育課	講師として活躍できる大人を人材バンクへ登録する。	・人材バンク登録者数	100	150	200	250	300
				・登録者のうち講師として活躍している人数	30	45	80	125	180
	地域人材活用教養講座	社会教育課	地域の大人が講師として活動する機会をつくる。	・講座等で活躍する地域の大人の人数	20	60	100		
③	家庭教育学級事業	社会教育課	子どもを持つ親に対して、家庭教育に関する学習の機会を提供する。	・家庭教育学級受講率%	80	85	90	95	100
	家庭教育リーダー研修	社会教育課	団体やグループで家庭教育を指導するリーダーを養成する。	・リーダー研修への参加者数	20	40	60	80	100
				・リーダーが実施する家庭教育に関する取組への参加者数	800	2,000	3,600	5,600	8,000
④	地域課題対応実践講座	社会教育課 住民課	地域課題に関する講座を実施し、地域住民の学習機会の提供を図る。	・地域課題に関する講座数への参加者数	1,000	1,500	2,000	2,500	3,000
				・地域の課題に関心のある大人の割合%	25			60	
⑥	地域活動活性化事業	社会教育課	地域活動の機会をつくり、大人の自主的な活動への参加を促進する。	・地域活動の取組数	20	40	70	110	160
				・地域活動に関わる大人の人数	160	360	700	1,210	2,000

## 第2節 Y市社会教育計画

＜分析シート1＞

### 1 Y市の概要

#### (1) 地勢・地域条件等

- ① A県南部Y盆地に位置し、自然豊かなまちである。稲作中心の農業が主幹産業で、果樹・野菜作りもさかんである。近年は高速交通体系の充実により、Yインターチェンジ周辺の開発が進み、交通の拠点となっている。
- ② 産業構造は、第1次産業11.0%、第2次産業30.9%、第3次産業58.1%である。
- ③ Y市の人口は109,004人である（平成17年10月1日現在）。平成17年10月1日の合併により、県下第2位の人口を有する市となった。今後、少子高齢化が進み、人口は減少する傾向にある。

#### (2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 古くから米作りが盛んな地域ではあるが、最近は兼業農家や離農する住民が増えてきている。
- ② 買い物等は旧Y地区に出向くことが多く、レジャーは市外に行くことが多い。
- ③ 公共交通機関は、鉄道と路線バスがあるが十分ではなく、自家用車を利用しないと移動は困難である。

#### (3) 教育・文化的環境

##### ◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	4 (37)
小 学 校	27
中 学 校	14
高 等 学 校	5
大 学・短大	0
専 門 学 校	0

##### ◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数	種 別	数
地区生涯学習センター	8	卓球場	1
地区公民館	31	総合運動公園	5
図書館	8	スキー場	2
資料館・(美術館)	11(1)	プール	2
体育館	8	児童館	3
武道館	1	女性センター	1

##### ◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 公民館等の社会教育施設が多く、サークルによる創作活動及び発表、芸術・文化の鑑賞、文化財の保存など、地域に根ざした多様な活動が年々活発になっている。
- ② スポーツ少年団活動や学校の部活動に取り組む青少年が多い。
- ③ 公民館事業をきっかけとして、住民による地域活動や自主サークル活動が増えてきている。
- ④ 自然を活かした施設や、屋外の体育関連施設が充実しており、体験活動を行うための基盤が整備されている。

2 社会教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
社会教育推進体制の整備	生涯学習推進体制の充実に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育委員の会議</li> <li>社会教育指導員の会議</li> <li>社会教育奨励員会議</li> <li>公民館連合会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市政策調整課との連携</li> <li>青少年育成市民会議(女性青少年課)</li> <li>NPOセンターとの連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習推進に係る人の交流・研修の場がない</li> <li>定期的に住民の意見・ニーズを拾い上げていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画性を持った交流会・研修会を開催する</li> <li>地区生涯学習センターに窓口を設置する</li> </ul>
社会教育関連施設の整備	生涯学習関連施設の有効活用と整備・充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習関連施設の整備と活用</li> <li>地区生涯学習センターの設置</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>施設が老朽化し、整備が進んでいない</li> <li>施設間の連携がとれていない</li> <li>インターネットによる利用予約や申請用紙等の統一ができていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現存施設の有効活用に努める</li> <li>施設間のネットワーク化を図る</li> <li>システムの構築を進める</li> </ul>
学習資源の整備	学習資源を再編成し既存の組織や新たな人材の有効活用を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習ボランティアバンクの整備</li> <li>地域資源(文化・伝統・自然等)の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉協議会のボランティア団体との連携</li> <li>市民活動団体(NPOなど)との連携</li> <li>観光協会との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアバンクの人材を有効に活用できていない</li> <li>地域資源の整備が進んでいない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーディネーターを配置する</li> <li>学習資源を活用しやすいように、バランス良く再編成する</li> </ul>
学習情報・相談の充実	円滑な学習情報の提供と、相談体制の充実強化を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報センターの設置</li> <li>広報誌の発行とホームページの開設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットによる学習情報提供(A県立生涯学習センター)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習機会に関する相談が少ない</li> <li>タイムリーな情報提供が十分にできていない</li> <li>PRが浸透していない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区生涯学習センターに学習相談窓口を、開設する</li> <li>情報収集・発信の一元化を図る</li> <li>効果的なPR方法を構築する</li> </ul>
学習プログラムの提供	今日的課題や地域の特徴を活かしたプログラムを提供するとともに個人学習の推進を支援する	<ul style="list-style-type: none"> <li>市役所出前講座</li> <li>公民館主催講座</li> <li>青少年育成講座</li> <li>地域子ども教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>趣味教養講座(民間事業者)</li> <li>企業内研修(企業)</li> <li>各種講演会(各課)</li> <li>総合型地域スポーツクラブ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の固定化・高齢化</li> <li>住民のニーズに合ったプログラムが提供できていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各年齢層のニーズに応じた講座を開設する</li> <li>各地域の特徴を活かした魅力的なプログラムを再検討する</li> </ul>
学習成果の評価と活用	学習者の学習成果を活かす場づくりに努め、主体的な社会参画活動を支援する	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区公民館フェスティバル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市文化祭</li> <li>市美術展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習者の活動を評価する機会がない</li> <li>学習成果を活かす機会が十分でない</li> <li>学習成果を活かすためのシステム作りができていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習成果を賞賛するような手だてを工夫する</li> <li>学校支援ボランティアや観光ボランティアガイドなどの活動機会を広げる</li> <li>ボランティアセンターの設置とコーディネーターの配置</li> </ul>

## Y市社会教育計画

Y市社会教育中期計画（平成19年度～平成23年度）

－ 学びあい 高めあう いきいき Y市 －

### I 総論

#### (1) 計画策定の趣旨

Y市の社会教育は、これまでの「第4期Y市総合計画」の「未来を開く心豊かな教育と文化のまちY市づくりをめざして」という目標を踏まえ、「Y市社会教育中期計画－学びあい 高めあう いきいき Y市－」の具現化を図りながら、市民のニーズと社会の趨勢を見据え、施策を推進してきた。しかし、近年、国際化、情報化、少子高齢化、余暇時間の増大など、私たちを取り巻く状況の変化は著しく、価値観の多様化、生活意識の変化等がめまぐるしく進化・細分化してきている。

こうした状況の中で、これらの変化に対応するためには、より一層、生涯学習を振興していくことが求められるとともに、魅力と活力のある地域づくりを進めるためには、市民の学習活動の活発化が重要であり社会教育の果たす役割は大きい。こうしたことから21世紀を展望した、今後の社会教育行政の在り方を考え、生涯学習の現状を踏まえるとともに、Y市の特色を生かしながら、進めるべき施策の体系化を図り、社会教育事業推進の指針となる社会教育計画を策定するものである。

#### (2) 計画の性格

この計画はY市総合計画に基づき、他の計画と整合性を図りながら、Y市民憲章並びにY市教育基本目標の理念を具現化し、生涯学習推進の観点に立った社会教育の推進に係る計画である。

#### (3) 計画の期間

この計画の期間は、Y市第4期総合計画と整合性を図り、平成19年度から平成23年度までの5年間とする。

#### (4) 計画の構成

この計画は、次の4章で構成する。

第1章 Y市社会教育中期計画の基本的な考え方

第2章 市民憲章と社会教育目標と施策体系

第3章 生涯各期における社会教育施策

第4章 Y市社会教育中期計画の事業項目・指数

参考 市民の生涯学習意識調査結果

生涯学習施設及び利用状況・生涯学習関係団体の状況

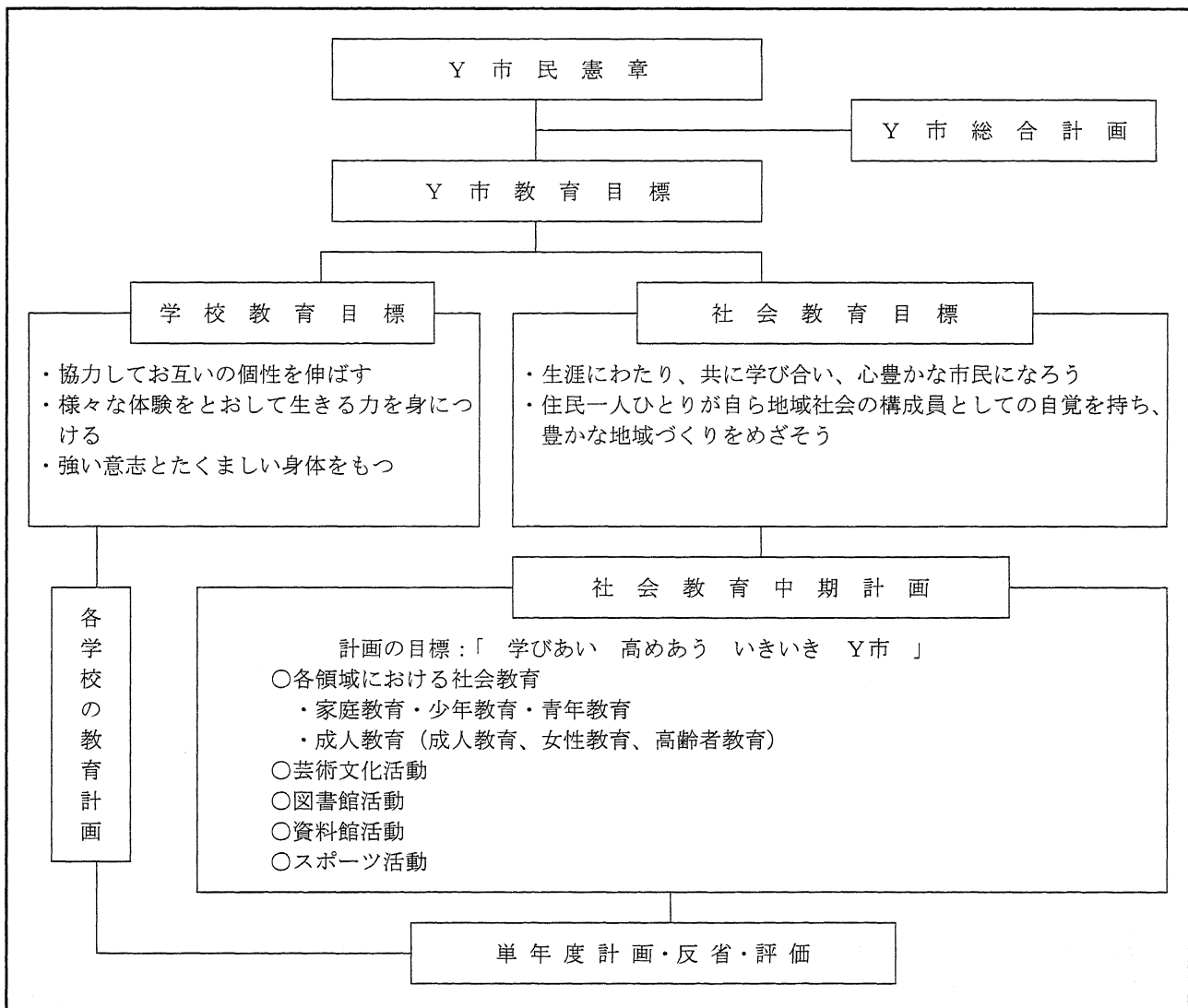


II 基本方針

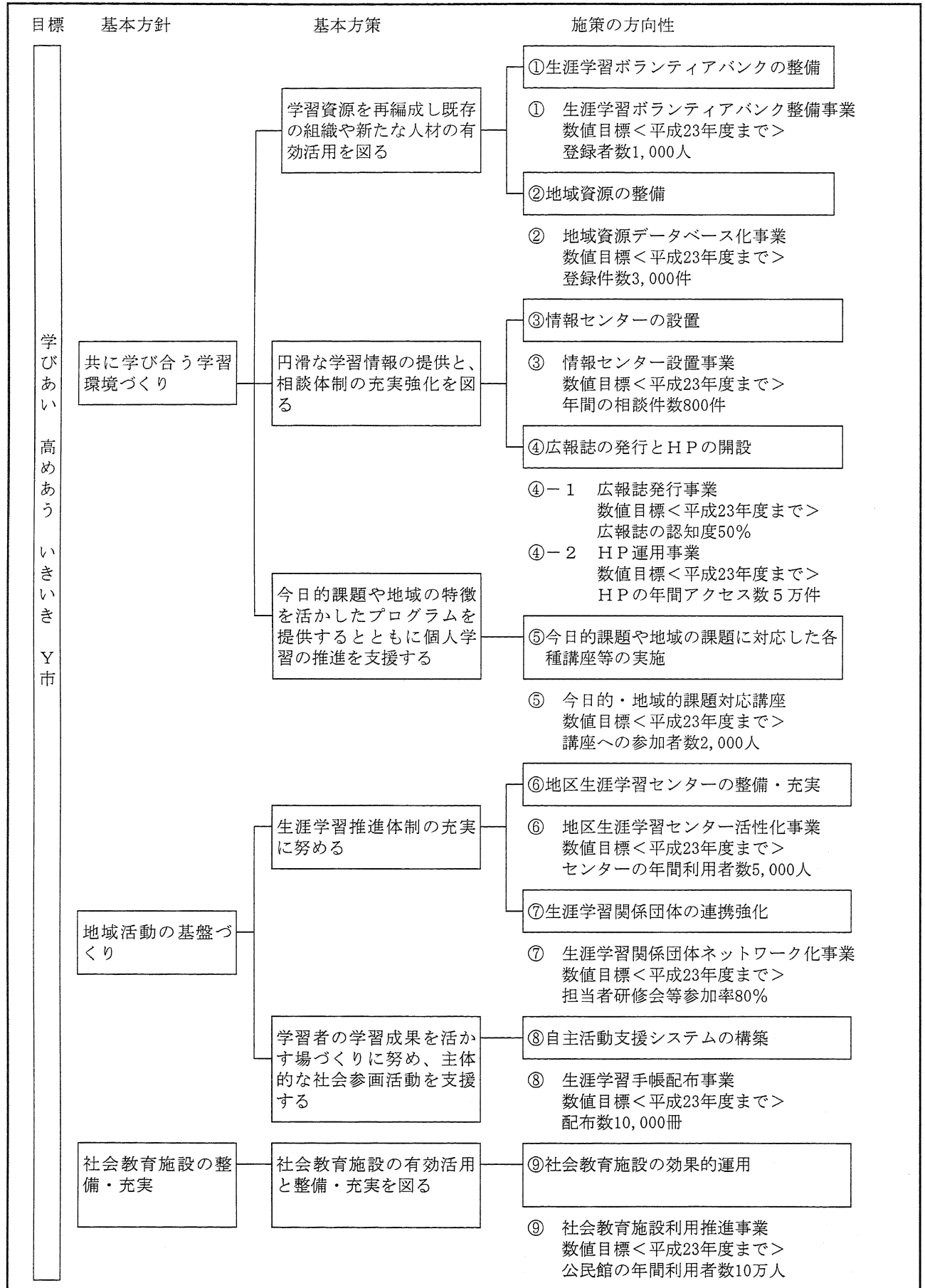
1 基本方針

- (1) 基本的な考え方  
Y市民は急激な社会環境の変化の中で、心の豊かさや生きがい、あるいは自らの生活や職業上の能力向上を願い、幅広い分野の学習を求めている。また、自分たちのライフスタイルに合った学習活動や、地域での学習交流など、様々な形の学習を求めている。このように、社会情勢の変化に対応して市民の学習に対する要望はますます多様化し、学習の必要性を強く認識しており、生涯学習社会の確立が急務になっている。こうした状況の中で、本市は、市民の社会教育を重点的に推進し、市民が社会参画することを目指す。
- (2) 計画の目標  
基本的な考え方を土台として、計画を実施する目標を次のように定める。  
「 学びあい 高めあう いきいき Y市 」  
この目標を実現するためには、以下のような基本的視点にしたがって、社会教育を進めていくこととする。
- (3) 生涯学習推進の基本方針  
上記の計画の目標を達成するため、社会教育行政が推進すべき基本方針は以下のとおりである。
  - ア 共に学びあう学習環境づくり
  - イ 地域活動の基盤づくり
  - ウ 社会教育施設の整備・充実

2 上位計画との関連



3 施策の方向性と体系



Ⅲ 施策の展開（成人教育年次計画）

施策	事業名	担当部局名	事業内容	評価指標	年次別目標値				
					19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
①	生涯学習ボランティア整備事業	生涯学習課	学習支援者として活動できる人材をボランティアバンクに登録する。	・ボランティアバンク登録者数	300	500	700	900	1,000
				・登録者の中でボランティア活動した人の割合%	30	40	50	55	60
②	地域資源データベース化事業	生涯学習課	人的・物的な地域資源をデータベース化する。	・地域資源の登録件数	2,000	2,400	2,600	2,800	3,000
③	情報センター設置事業	生涯学習課	地域住民の学習相談と情報を受発信する。	・地域住民の学習相談件数	200	400	600	700	800
⑤	今日的・地域的課題対応講座	生涯学習課	今日的・地域的課題に関する講座を実施し、地域住民の学習機会の提供を図る。	・今日的・地域的課題に関する講座への参加者数	1,000	1,250	1,500	1,750	2,000
				・今日的・地域的課題に関心のある大人の割合%		25			60
⑥	地区生涯学習センター活性化事業	生涯学習課	センターの窓口機能を充実させ活性化を図る。	・センターの年間利用者数	2,000	2,750	3,500	4,250	5,000
⑦	生涯学習関係団体ネットワーク化事業	生涯学習課	生涯学習に係る団体の交流・研修の機会を設け、相互の連携を強化する。	・担当者研修会等参加率%	60	65	70	75	80
⑧	生涯学習手帳配布事業	生涯学習課	生涯学習手帳を配布することにより、自主的な活動を支援するとともに、学習者の社会参画を促進する。	・生涯学習手帳の配布数	5,000	7,000	8,000	9,000	10,000
				・生涯学習手帳取得者の社会参画率%		5			10

## 第3節 K市S区社会教育計画

＜分析シート1＞

### 1 K市S区の概要

#### (1) 地勢・地域条件等

- ① S区はK市域の南部に位置し、A川とU川に挟まれた平野で、面積は10.09平方キロメートルである。Y線とN線が近接する所では、ハイテク企業や高層住宅が集中しているが、旧来の商店街や住居も混在している。
- ② 昭和初期は大手企業の工場が集中し、労働者の町というイメージが強かったが、近年はシンフォニーホールを中心に音楽のまちをアピールしている。また、A川や動物公園もあるKの森など緑あふれたエリアもあり、都市の利便性と豊かな自然を兼ね備えた空間を創造している。
- ③ S区の人口は、144,955人（男74,687人 女70,268人）で、世帯数は、63,640世帯である。うち、外国人登録者数は2,133（1.5%）となっている。人口割合は、0～14歳は、12.4%、15～64歳は、70.3%、65歳以上は17.3%であり、今後退職する年齢を迎える人口が多くなっている。人口密度は市の中で最も高い。

#### (2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① S区住民は、隣接する東京都に通勤・通学している者が多い。また、K駅西口地区ではアメニティ豊かな住居系市街地の改善やT工場跡地に大規模な再開発が進められている。
- ② 複数の企業があり、産業は盛んである。K新産業創造センターやK大研究施設など、起業や研究開発の気運も高まっている。

#### (3) 教育・文化的環境

##### ◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	11 (14)
小 学 校	14
中 学 校	5
高 等 学 校	2
大学・短大	1
大学研究施設	1

##### ◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
市民館（分館）	1 (1)
図書館（分館）	1 (1)
こども文化センター	6
老人いこいの家	6
武道館	1
スポーツセンター	1

##### ◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 生涯学習社会の広がりの中で、自らの経験や知識を地域社会に生かしたいと思う人が増えている。S区も例外ではなく、市民館等では多くのボランティア団体が市民自主企画事業などに企画段階から参画し、主体的に事業に関わっている。
- ② 子ども文化センターにおいては、青少年対象の事業を実施しており、多くの子どもたちが利用している。
- ③ 数多くのボランティア団体があるものの、人権関係などの特定ボランティアに偏る傾向があり、活動の分野は決して広くない。

2 社会教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
学びあ	<p>家庭や地域社会での役割を理解し、健康で豊かな生活を営むための学習を提供する。</p> <p>相互学習を基に地域社会に貢献する姿勢を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・S日本語学級（市民館）</li> <li>・家庭教育学級（市民館）</li> <li>・生涯学習交流集会（市民館）</li> <li>・S区文化協会（市民館）</li> <li>・S歴史の会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Sリバーウォッチング事業（地域振興課）</li> <li>・音楽のまち推進事業（地域振興課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者のニーズと学習支援者の意図に差がある。</li> <li>・広報が十分に行き届いていない。</li> <li>・本来想定している対象者の参加が難しい。</li> <li>・学習者も学習支援者も男性の参加が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズを具体化するしくみを構築する。</li> <li>・時代に適した広報のあり方を研究する。</li> <li>・男性のニーズを的確に把握する。</li> </ul>
健康	<p>自らの健康に関心を持ち、健やかな生活をするための知識を身につけさせる。</p> <p>運動・栄養・休養の基本的な生活を再認識し、軽運動を通じて明るく健康な区民の育成を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心と体の健康教室（市民館）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣病予防教室</li> <li>・血圧の講座</li> <li>・健康講座（年数回）（健康福祉センター）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康についての学習機会が少ない。</li> <li>※健康・福祉関係の事業は首長部局で実施することとされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種学級・講座の中で健康について学ぶ時間を設けていく。</li> </ul>
交流	<p>学習活動の過程において、学習者・学習支援者相互の交流を図り、まちづくりと豊かな人間関係づくりに寄与する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・S日本語学級（市民館）※再掲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会が主体となって、数々の事業を展開している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シニア世代の活力を地域で活かすための基本的な人間関係を構築するための事業がない。</li> <li>・異世代間の交流を促す事業がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人と個人の人間関係を密にする事業を展開する。</li> <li>・他機関との連携も視野に入れた事業を展開する。</li> </ul>
社会参加	<p>現代社会における課題に関する学習機会を提供することにより、共に生きる地域社会の形成に必要な力を培う。</p> <p>系統的かつ専門的な学習内容を提供し、地域活動の中心的役割を果たす人材を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平和人権学習（市民館）</li> <li>・男女共生セミナー</li> <li>・日本語ボランティア研修（市民館）</li> <li>・保育ボランティア研修（市民館）</li> <li>・ボランティア研修（市民館）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり推進事業（地域振興課）</li> <li>・Sテクノ塾事業（地域振興課）</li> <li>・花と緑のS事業（地域振興課・建設センター）</li> <li>・子育て支援ネットワーク推進事業（地域保険福祉課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナーへの参加者が少ない。</li> <li>・社会参加を促すための学習機会は数多くあるが、学習テーマに偏りがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座の充実を図るとともに、必要性をPRする。</li> <li>・ニーズの的確な把握に努める。</li> <li>・前期高齢者が持つ職業能力を活かせる事業を展開していく。</li> </ul>

## K市S区社会教育計画

K市S区社会教育中期計画（平成18年度～平成22年度）

－職住調和の未来空間を創造するまちづくり S区－

### I 総論

#### (1) 計画策定の趣旨

S区の社会教育は、これまでの「第4期S区総合計画」の「活力とうるおいのある市民都市をめざして」という目標を踏まえ、「第2期社会教育振興中期計画」の具現化を図りながら、市民のニーズと社会の趨勢を見据え、施策を推進してきた。しかし、近年、国際化、情報化、少子高齢化、余暇時間の増大など、私たちを取り巻く状況の変化は著しく、価値観の多様化、生活意識の変化等がめまぐるしく進化・細分化してきている。

こうした状況の中で、これらの変化に対応するためには、より一層、生涯学習を振興していくことが求められるとともに、魅力と活力のある地域づくりを進めるためには、市民の学習活動の活発化が重要であり社会教育の果たす役割は大きい。こうしたことから21世紀を展望した、今後の社会教育行政の在り方を考え、社会教育の現状を踏まえるとともに、S区の特徴を生かしながら、進めるべき施策の体系化を図り、社会教育事業推進の指針となる社会教育計画を策定するものである。

#### (2) 計画の性格

この計画はS区総合計画に基づき、他の計画と整合性を図りながら、S区民憲章並びにS区教育基本目標の理念を具現化し、生涯学習推進の観点に立った社会教育の推進に係る計画である。

#### (3) 計画の期間

この計画の期間は、S区第4期総合計画と整合性を図り、平成18年度から平成22年度までの5年間とする。

#### (4) 計画の構成

この計画は、次の4章で構成する。

第1章 第3期社会教育中期振興計画の基本的な考え方

第2章 区民憲章と社会教育目標と施策体系

第3章 生涯各期における社会教育施策

第4章 第3期社会教育中期振興計画の事業項目・指数

参考 区民の社会教育意識調査結果

社会教育施設及び利用状況・社会教育関係団体の状況

II 基本方針

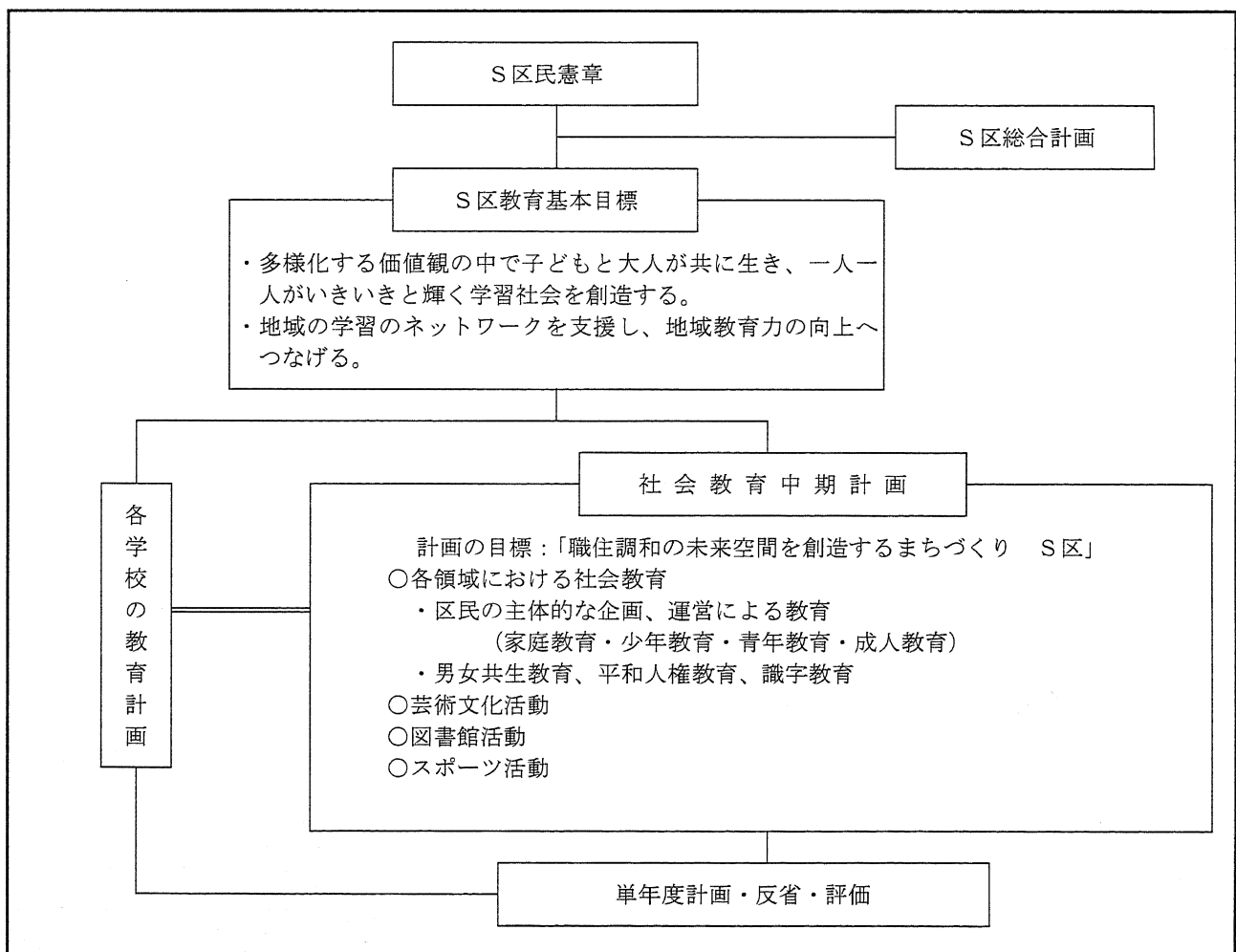
1 基本方針

(1) 基本的な考え方  
 S区民は急激な社会環境の変化の中で、心の豊かさや生きがい、あるいは自らの生活や職業上の能力向上を願い、幅広い分野の学習を求めている。また、自分たちのライフスタイルに合った学習活動や、地域での学習交流など、様々な形の学習を求めている。このように、社会情勢の変化に対応して区民の学習に対する要望はますます多様化し、学習の必要性を強く認識しており、生涯学習社会の確立が急務になっている。こうした状況の中で、本区は、区民の生涯学習を支援するため、社会教育を重点的に推進することを目指す。

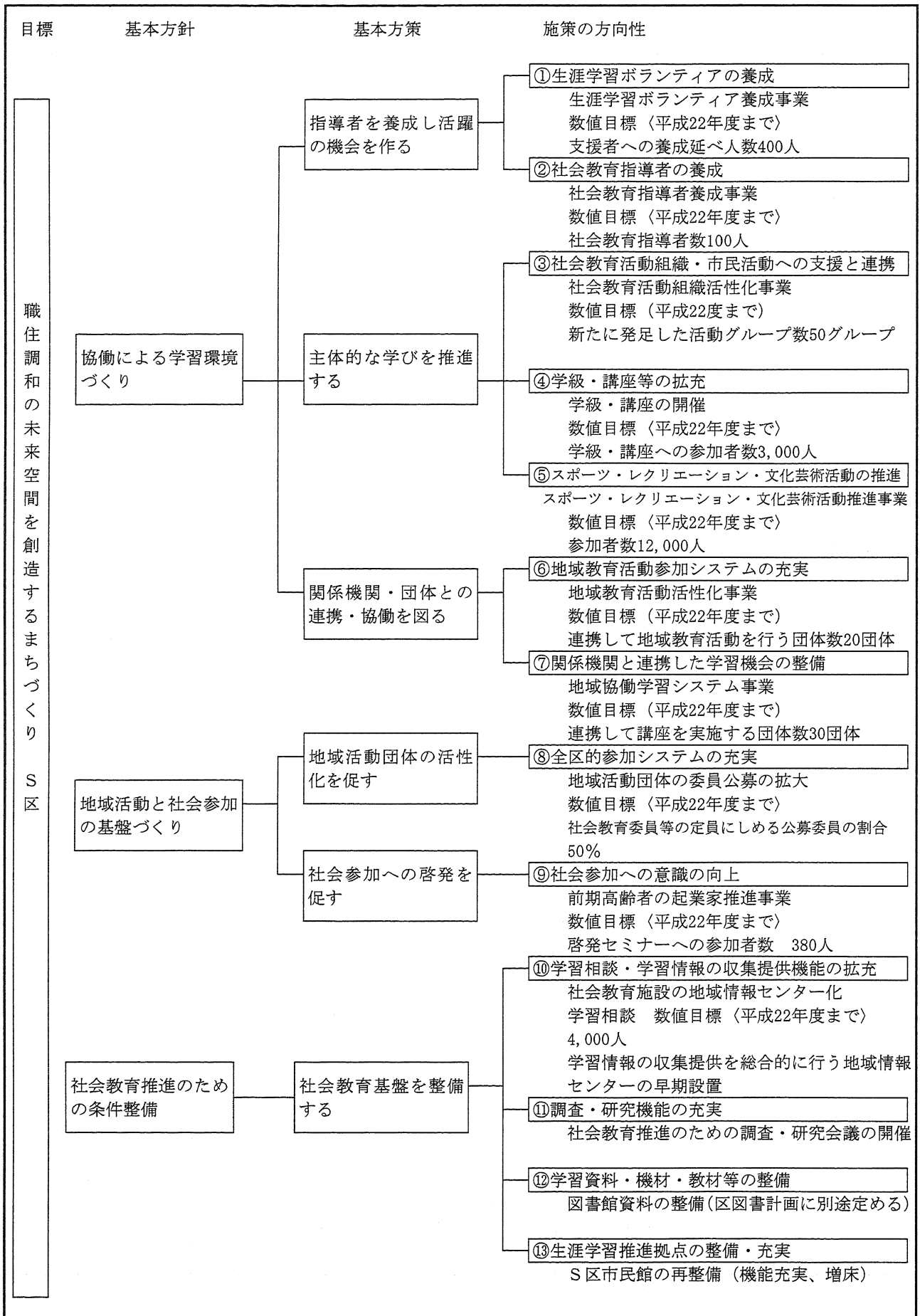
(2) 計画の目標  
 基本的な考え方を土台として、計画を実施する目標を次のように定める。  
 「職住調和の未来空間を創造するまちづくり S区」  
 この目標を実現するためには、以下のような基本的視点にしたがって、社会教育を進めていくこととする。

(3) 社会教育推進の基本方針  
 上記の計画の目標を達成するため、社会教育行政が推進すべき基本方針は以下のとおりである。  
 ア 共に学びあう学習環境づくり  
 イ 自ら学ぶ学習活動の基盤づくり  
 ウ 対話と参加を重視した学習システムづくり

2 上位計画との関連



3 施策の方向性と体系





Ⅲ 施策の展開（前期高齢者教育年次計画）

施策	事業名	担当部局名	事業内容	評価指標	年次別目標値				
					18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
①	生涯学習ボランティア養成事業	市民館	区民の生涯学習を支援するボランティアを養成する	・支援者の養成延べ人数	80	160	240	320	400
				・養成者のうち実際に支援活動をしている人数		25	50	75	100
②	社会教育指導者養成事業	教育委員会事務局	社会教育事業の充実を図る指導者を養成する	・社会教育指導者延べ人数	20	40	60	80	100
④	学級・講座等の開催	市民館	主体的な学びの場を提供する	・学級・講座への参加者数	600	1,200	1,800	2,400	3,000
				・自主企画者数		70	150	240	340
⑤	スポーツ・レクリエーション・文化芸術活動推進事業	教育委員会事務局 市民館	スポーツ、レクリエーション、文化、芸術活動への参加を促進する	・スポーツ、レクリエーション、文化、芸術活動への参加者数	2,000	3,500	6,500	9,500	12,000
⑧	地域活動団体の委員公募の拡大	教育委員会事務局 市民館	公募委員の拡大	・社会教育委員等の定員に定める公募委員の割合%	30	35	40	45	50
				・諮問答申数の増加率%	30	35	40	45	50
⑨	前期高齢者の起業家推進事業	市民館 K新産業創造センター K大研究施設	前期高齢者の起業に関する啓発事業	・啓発セミナーへの参加者数	30	80	180	280	380
				・ベンチャー企業増加率%	1	2	3	4	5



## 第3章 年間事業計画及び学習プログラムの事例

(分析シート1, 2, 様式4~6)

※ 様式6は、「第1節 家庭教育計画」「第7節 環境教育計画」にのみ掲載している。



# 第1節 家庭教育計画

<分析シート1>

## KF市家庭教育計画

### 1 KF市の概要

#### (1) 地勢・地域条件等

- ① 本市はS県の南西部に位置し北部はK市、西部はO町、東部・南部はF市に隣接している。市の東南端をS川が流れ、土地の総面積は6.81km<sup>2</sup>、海拔18.7mの平坦な土地が広がっている。
- ② 東京都心から30kmに位置し、産業別就業人口割合は第1次産業が0.9%、第2次産業が30.6%、第3次産業が67.7%でほとんどが第2・3次産業就業者である。近年では、第2次産業から第3次産業へと就業構造が移行している。
- ③ 人口は平成16年3月現在54,545人となっている。昭和30年中頃から人口が急激に増加したが、平成4年を境に近年では核家族化、少子高齢化のため減少傾向にある。平成16年の1世帯あたりの人口は2.3人である。

#### (2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① ほとんどの就労者が第2・3次産業に従事しているため昼間は流出人口は多い。
- ② S川の河川敷にわずかな自然が残っているのみで、余暇を過ごすための施設・設備が十分とはいえない。
- ③ 低年齢児対応の施設は少なく、対象児の多くは母親や祖父母が家庭で養育するか無認可の施設に頼らざるを得ない状況である。

#### (3) 教育・文化的環境

##### ◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	6 (6)
小 学 校	6
中 学 校	3
高 等 学 校	1
大 学 ・ 短 大	0
専 門 学 校	0

##### ◇ 生涯学習関連施設 (民間を含む)

種 別	数
図 書 館	1
公 民 館	2
体 育 館	2
公 園 (運動公園)	1 (1)
歴史資料館	1
児 童 館 (児童センター)	6 (1)

##### ◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 家庭と地域・学校などが協力し、長期的かつ総合的に子育て環境づくりに取り組むために、KF市児童育成計画(エンゼルプラン)を策定している。また、家庭教育支援としてセミナーや講演を実施したが父親の参加はほとんど見られなかった。
- ② 放課後の児童センターは開設しているが、施設の受け入れが希望者数の実態に追いついていない。
- ③ エンゼルプランの一環として、平成15年に開設された子育て支援センターは利用の仕方などで住民のニーズに応えきれていない。

2 家庭教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
社会的な啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの権利の尊重</li> <li>○家族ぐるみの子育ての推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パンフレットの配布ポスターの掲示(社会教育課)</li> <li>○市民フェスティバル(体育課)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめ・虐待などの問題がある。</li> <li>○父親の家事・育児への参加が少ない。</li> <li>○父親の役割が弱く家族の絆が薄くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめや虐待の早期発見・早期対策および予防啓発活動の推進を行う。</li> <li>○保健、福祉、医療、教育、警察など地域関係機関とのネットワークの充実を図る。</li> <li>○家庭児童相談室や子育て支援センターの機能の充実に努める。</li> <li>○父親の参画を啓発する父親学級を開設する。</li> <li>○土・日曜日に親子教室を開催する。</li> <li>○「家族ぐるみ」の子育て推進を行う。</li> </ul>
保育サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な保育サービスの充実</li> <li>○子育てと仕事が両立できる雇用環境づくり</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○延長保育の推進</li> <li>○一時的保育の推進(児童福祉課)</li> <li>○雇用機会の拡大と職業能力開発の促進(産業課)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育サービスを受けられる対象者が限られている。</li> <li>○保育サービス(場所・人材など)の充実が十分ではない。</li> <li>○社会的に男女共同参画社会への認識が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育環境の調査のためのアンケートを実施する。</li> <li>○継続した子育てサークルの育成</li> <li>○男女共同参画社会の理解を企業や地域に働きかける。</li> </ul>
家庭への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子育て相談・情報機能の強化</li> <li>○地域が育む子どもと子育ての支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○はとぼっば教室</li> <li>○子育てサロン</li> <li>○日本語教室(公民館)</li> <li>○子ども映画会</li> <li>○ブックスタート(図書館)</li> <li>○コスモスくらぶ</li> <li>○地域の人と子どもの囲碁教室</li> <li>○おりがみくらぶ</li> <li>○子ネットまつり(公民館)</li> <li>○新春ロードレース大会(体育課)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○親子歯ッピー教室</li> <li>○育児学級</li> <li>○家庭教育手帳(保健センター)</li> <li>○児童相談・教育相談(児童福祉課)</li> <li>○子ども会活動(産業課)</li> <li>○子育てひろば(児童センター)</li> <li>○子育て支援センターの集い</li> <li>○仲間作りキャンプ</li> <li>○ファミリーサポート(児童福祉課)</li> <li>○軽スポーツフェスティバル</li> <li>○いろんなあそびアリーナ</li> <li>○地域交流ひろば(保育所)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ひとり親家庭に対する支援が十分ではない。</li> <li>○障害のある子どもがいる家庭への支援が十分ではない。</li> <li>○世代間交流事業があまり行われていない。</li> <li>○「地域ぐるみ」の家庭教育が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ひとり親家庭の親子が参加できる事業の企画を行う。</li> <li>○民生委員と児童委員による生活調査を生かした個別支援を進めていく。</li> <li>○相談体制の充実や学習機会の提供を行うためのシステムの充実を行う。</li> <li>○三世代交流や親子キャンプ等の事業を実施する。</li> <li>○「地域の声かけ運動」を行う。</li> </ul>

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ふれあいのある身近な自然環境の整備</li> <li>○子育てに優しい生活環境の整備</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○花かおるまち育て事業（商工会議所）（ライオンズクラブ）</li> <li>○S川の土手をコスモスでいっぱいにしよう（環境課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○親子が外で安心して安全に遊べる場所が少ない。</li> <li>○道幅や歩道などの道路状況が整っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会教育施設の柔軟な開放や、学校開放を積極的に推進する。</li> <li>○地域の中の公園を整備し、活用しやすくする。（遊具の充実と定期的な安全点検）</li> <li>○ベビーカーや車椅子のための環境の整備（バリアフリー化）</li> </ul>
教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭、地域、学校の連携を図った教育の推進</li> <li>○社会連帯感の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○すこやか子育て講座（社会教育課）</li> <li>○おはなし会（図書館）</li> <li>○ふくっ子くらぶ</li> <li>○わんぱく教室（公民館）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○放課後留守家庭児童対策事業（児童福祉課）</li> <li>○ビオトープを活用した自然体験</li> <li>○読み聞かせ教室（ボランティア団体）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設の老朽化に伴い事業の効率的な運営がなされていない。</li> <li>○学校との連携が十分ではない。</li> <li>○家庭や地域の教育力が低下している。</li> <li>○障害のある児童の放課後の支援が十分になされていない。</li> <li>○個々のニーズに事業内容が対応されていない。</li> <li>○中高生へ対応した事業が行われていない。</li> <li>○異年齢集団の中での遊びや自然体験活動が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童館の機能の充実を図る。</li> <li>○家庭、地域、学校の連携を啓発する講演会を開催する。</li> <li>○児童センターの機能の充実を図る。</li> <li>○地域ボランティアの発掘とそのコーディネートを行う。</li> <li>○デイケアセンターとの連携を取り入れた新しい事業を実施する。</li> <li>○中高生がボランティアとして社会教育事業に参加できる場を提供する。</li> <li>○地域の人と中高生がスポーツなどを通して、共通体験をする場を提供する。</li> <li>○自然体験活動や異年齢交流を図るキャンプ等を実施する。</li> </ul>

IV 年間事業計画（平成17年度家庭教育事業計画）

(1) 社会教育目標	○いつでも、どこでも、だれでも学べるまちをつくろう。
(2) 家庭教育目標	○心豊かでたくましい子どもを育て、ともに成長する親になろう。 ○まちぐるみで家庭教育への支援につとめよう。
(3) 社会教育行政目標	○市民、企業、関係団体の連携を深め、市民誰もが参加しやすい学習や文化活動の機会の拡充を図る。 ○社会教育団体の活動支援やグループ・サークル活動への事業助成及び指導・助言を行い、自主的な学習・文化活動などを奨励・援助する。 ○市民のさまざまなニーズに対応するため、社会教育施設の整備と機能の充実に努める。
(4) 家庭教育行政目標	○子育てに関する学習機会の充実に努め、家庭教育の支援に努める。 ○親の学習機会の拡充と子育てネットワークづくりの推進を図る。 ○地域ぐるみで子育て相談・支援体制を整備する。

(5) 家庭教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
学級・講座	「おとうさん」を楽しもう	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども理解や家庭教育の重要性について学習する。</li> <li>家族ぐるみで子育てを推進することの重要性を再確認する。</li> <li>親子のふれあいを深める。</li> <li>父親同士の交流を図る。</li> </ul>	講義・体験談視聴 妊婦体験 親子で体験活動（農業・ニュースポーツ体験）調理実習 CAP 陶芸教室 ラッピング教室 グループディスカッション 新年会	小学生以下の子どもを持つ父親30名とその子ども	年8回	70	講師：CAPコーディネーター 平日夜間実施（体験活動実施日は土・日曜日）
	すくすくひろば	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続した子育てサークルの育成を図る。</li> </ul>	ワークショップ 話し合い 保育環境のアンケート	サークル及び一般20名	随時	50	講師：支援センター職員・コーディネーター 協力：子育てサポーター
	わくわく未来のパパママ講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>未来の親となる若者の自立支援を図る。</li> </ul>	講義 若者育児体験 妊婦体験	中学生以上20名	年2回	0	講師：保健センター職員（助産婦） 協力：保育園
	なかよしタイム	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害児と健常児の交流を図る。</li> </ul>	共通体験 スポーツ交流	小学生30名	毎月1回 第2水曜日	60	協力：地域ボランティア・学生ボランティア
行事	「男女共同参画」講演会	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業や地域と連携し、男女共同参画社会の推進を図る。</li> </ul>	講演・シンポジウム	一般200名	年1回	150	講師：学識経験者 協力：企業・地域
	子育て講演会	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校、家庭、地域の教育機能を見直し、連携を図る。</li> </ul>	講演 地域での声かけ運動の啓発	幼、保、小の教職員・保護者・地域の人200名	年1回	10	講師：学識経験者
	シングル家庭交流会	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然体験活動を通してひとり親家族の親睦を深める。</li> </ul>	キャンプ・自然体験活動・交流会	親子20組	年1回	150	コーディネーター：学識経験者 協力：大学生ボランティア・NPO団体



区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
行事	三世代交流会	・スポーツ活動や料理作りを通して、三世代や親子の交流を図る。	グランドゴルフ(雨天時体育館にてヘルスパレー)豚汁、おにぎり作り	一般50名	年1回	30	協力：学校関係者・体育指導員 ※中学校区3カ所に分けて同時開催
	和菓子食べ食べ井戸端会議	・和菓子作りの共同作業を通して、世代を越えた交流を図り、子育てをテーマに話し合いを深める。	和菓子作りテーマに即した話し合い	一般30名	年1回	20	協力：地域ボランティア
情報提供	子ネット通信	・相談体制の情報提供を行う。 ・学習交流会の情報提供を行う。 ・地域ぐるみの子育ての推進を行う。	情報誌で相談体制の情報提供や子どもや親子の遊び体験・学び体験などの情報を掲載	子育てサークル 公民館・図書館・保健センター・保育園・児童センター利用者に配布	年1回	30	協力：子育てネットワーク連絡会
	子育てかわら版	・家庭教育に関する情報提供を行う。 ・いじめや虐待の早期発見・早期対策活動の推進を行う。	家庭教育に関する情報提供や子育てアドバイスなどを掲載	全戸配布	年6回	100	協力：子育てネットワーク連絡会
人材育成・活用	あなたも私もサポーター	・子育てサポーターの養成・活用を図り、子育て環境の整備を図る。	講義・実習 子育てに関する相談	子育て経験者20名	年5回 随時	25	講師：学識経験者・保健センター職員・ベテラン子育てサポーター
	児童センター支援ボランティア養成セミナー	・地域の教育力を生かした子どもの居場所づくりの充実を図る。	講義・実習	希望者	年3回	60	講師：学識経験者
連絡・調整	ふれあいトゥギャザー	・総合的な学習の時間において世代間交流を行い、高齢者の様子を知り、心豊かな児童の育成を図る。	体験活動	小学生(高学年)	年2回	45	協力：高齢福祉課・小学校
	子ネット	・子育て支援ネットワークや地域のネットワークづくりを推進する。	セミナーの開催 行事の開催 広報誌の作成	行政・地域などの関係者	随時	200	協力：子育てサークル

V 家庭教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	KF市家庭教育学級 「おとうさん」を楽しもう	
(2) 事業の目的	① 子ども理解や家庭教育の重要性について学習する。 ② 家族ぐるみで子育てを推進することの重要性を再確認する。 ③ 親子のふれあいを深める。 ④ 父親同士の交流を図る。	
(3) 実施主体	社会教育課	
(4) 対象者・定員	小学生以下の子どもを持つ父親30名とその子ども	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	5月～1月	1回の学習時間 原則として2時間×8回
(6) 学習場所	KF公民館他	
(7) 学習目標	① 父親同士の交流を図り、父親の役割や家庭の大切さについて理解する。 ② 学習を通して子育てへの参加の自覚を高める。	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1 5月	「パパの輪を広げよう」	○開講式 ○オリエンテーション ○アイスブレイキング ○ワークショップ：「私の少年時代」	社会教育主事 地域在住の育児経験のある父親	対象：父親 会場：KF公民館
2 6月	「いい汗かこう！親子で体験」 ①いもほり編 ②グラウンドゴルフ編	○農業体験活動：親子で農業体験（さつまいもの苗植え） ○ニュースポーツ体験：親子でグラウンドゴルフ	社会教育主事 地域の農家ボランティア 体育指導員 子育て支援サポーター	対象：父親と子 会場：畑・運動公園 時間：午前中4時間くらい
3 7月	「うきうき子育て体験」	○実習：妊婦体験 ○講義：子育て体験談を聞く。 ・母親の体験談 ・父親の体験談 ○グループディスカッション	社会教育主事 保健センター職員 子育てサークルの方 地域在住の父親	対象：父親 会場：KF公民館
4 10月	「わくわくいもほり体験」	○農業体験活動：さつまいもの収穫祭 ○調理実習：さつまいも料理に挑戦	社会教育主事 地域の農家ボランティア 公民館職員 子育て支援サポーター	対象：父親と子 会場：畑
5 11月	「CAP」ってなに？	○ワークショップ：暴力防止プログラムについて学ぶ。 ○講演：いじめや虐待の現状を知る。	社会教育主事 CAPなのはな（NP0） 児童相談所職員	対象：父親 会場：KF公民館 評価：アンケート
6 12月前半	「家族への手作りプレゼント」	○実習：陶芸教室 ※2時間扱い	社会教育主事 陶芸サークル	対象：父親 会場：KF公民館
7 12月後半		○実習：ラッピング教室 ○プレゼントカードを書こう ※1時間扱い	社会教育主事 ラッピング業者	対象：父親 会場：KF公民館
8 1月	『「おとうさん」を楽しもう』これからもよろしく・・・	○ワークショップ：「おとうさん」を楽しもうを終えて・・・ ○閉講式 ○新年会	社会教育主事	対象：父親 会場：KF公民館 （新年会会場は別） 評価：総合アンケート 自己負担 2000円

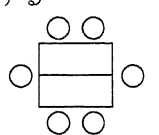
※ 父親のみのプログラムは、参加しやすいように夜間に行う。  
※ 父親と子ども対象のプログラムは、土曜日の午前中に行う。

VI 学習展開計画（展開プログラム）

(1) 事業名	「おとうさん」を楽しもう	第3回（7月6日水曜日）
(2) 学習テーマ	「うきうき子育て体験」	
(3) 学習目標	① 母親・父親の子育て体験を聞き子育てへの参加の自覚を深める。 ② グループディスカッションを通して父親同士の交流を深める。	

(4) 準備するもの <input type="checkbox"/> 妊婦体験用グッズ <input type="checkbox"/> ホワイトボード <input type="checkbox"/> マイク <input type="checkbox"/> 演 台	(5) 会場図															
	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">演</div> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">台</div> <span style="margin-left: 20px;">（はじめは講義型）</span> </div> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; width: 25%; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 25%; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 25%; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; width: 25%; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="border: 1px solid black; height: 20px;"></td> </tr> </table>															

(6) 展 開

展開	時間	学 習 活 動	学習支援者	留 意 点	備 考
導 入	(10)  (30)	1 講義 ① 保健センター職員の話 ・活動のねらいと体験の方法説明  ② 妊婦体験 ・体験の感想を話す。	社会教育主事  保健センター職員	・話す内容を事前に保健センター職員と打ち合わせておく。  ・希望がでない場合は指名する。	集会室
展 開	(40)  (20)  (10)	1 講義 私の子育て体験 母親編・父親編 ・質疑応答を含む  2 話し合い グループディスカッション  3 発表 各グループごとに発表する。	社会教育主事  保健センター職員  体験談を話す母親・父親	・グループディスカッションには保健センター職員と体験談を話してくれた母親、父親にもはいてもらう。 ・グループディスカッションの最中に社会教育主事は発表の内容や活動の様子から、このプログラムが適切であったかどうかを評価する。	机の会場配置を変更する  1グループ4～6人にする。
ま と め	(10)	1 ふりかえり 父親としてできること  2 次回の内容について  3 アンケート	保健センター職員  社会教育主事	・センターの職員はグループ発表の内容から感想を交えながら育児参加への意欲を高めたり、問題提示をしたりする。	

## 第2節 青少年教育計画

<分析シート1>

### A市青少年教育計画

#### 1 A市の概要

##### (1) 地勢・地域条件等

- ① A市は、Y湖に源を発し、S川の右側に開けた扇状の地形で、T山麓に連なる西北部に丘陵地帯とそこから東南に穏やかに開けた平野部からなっている。
- ② 市域の面積は、93.83平方キロメートルで東京から46キロメートル、Y駅から32キロメートルという地理的条件に恵まれていて、しかも県の中央部に位置する内陸都市である。
- ③ 人口 221,226人（平成15年10月1日現在） 平均年齢38.68歳、  
0～14歳人口：32,028人（14.5%） 15～29歳人口：46,318人（20.9%）  
昼間人口が常住人口を大幅に上回り、活気にあふれたまちとして成長している。

##### (2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 主要幹線道路や民間鉄道網の開設により、広域的な整備が進み都市としての利便性が整えられている。
- ② 西部丘陵地帯では自然と調和した開発が進められるなど、都市と田舎の二面性がみられる。
- ③ 電気通信関連の研究開発など頭脳的産業および工場の誘致により人口増加をたどってきたが、将来的には高齢化・少子化による人口増加率の鈍化が予想される。そのため、一層子どもの健全育成が重要であり、子ども会等の社会教育関係団体においては、文化・研修・スポーツ・レクリエーションなどさまざまな活動を行っている。

##### (3) 教育・文化的環境

###### ◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育園)	18(14)
小 学 校	23
中 学 校	13
高 等 学 校	7
大 学・短大	8
専 門 学 校	1

###### ◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数	種 別	数
公 民 館	14	野 球 場	2
図 書 館	1	球 技 場	1
児 童 館	35	競 技 場	1
ヤングコミュニティセンター	1	テニスコート	5
子ども科学館	1	体 育 館（武道場含む）	3
自然教室	1	プ ー ル	3
キャンプ場	1	青少年広場	41
郷土資料館	1	スポーツ広場	33
文化会館	1	公園グラウンド・テニスコート	6
視聴覚ライブラリー	1	学校体育館	36
市民ギャラリー	1	学校グラウンド（夜間照明有）	10
		学校プール	25

###### ◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① A市では、「〇〇〇ハートプラン」施策展開の柱の一つである「生涯学習のまちづくり」を具体的に実践していくために、市内14公民館では、地域性を活かした多彩な事業を展開している。
- ② 青少年の体験活動を考えた「子ども自然体験教室」などを開催し、「生きる力」の育成に力を入れている。
- ③ 青少年を有害な環境から守るため、環境実態調査を行って環境マップを作成している。
- ④ アジアハーモニカ大会（平成14年8月）開催を機に愛好家も増え、ハーモニカのまちづくりを推進している。

2 青少年教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
野外・自然体験活動	○豊かな自然環境を活用した自然体験や宿泊体験などをおして人や自然とのふれあいを深め、体験学習を推進していく。	○子ども自然体験教室 ○親子ふれあい自然体験教室（N沢自然教室）  ○カヌー教室 ○S川で遊ぼう（公民館）	○リバートレッキング（子ども会）（ボーイスカウト）（ガールスカウト）	①野外活動における指導者不足 ②類似した事業が多い。 ③各部局間、また関係団体との連携不足 ④学校と地域社会の連携・交流が少ない。	①各地区に市が認定する資格を有する指導者の配置をめざす。（指導者養成講座の充実） ②③④全庁的に生涯学習推進委員を置き、学校及び社会教育団体を交えて、事業の見直し推進を図る。
文化活動	○地域の伝統文化に理解と認識を深め、郷土芸能のさらなる発展と後継者育成を図り郷土愛を育む。 ○各種の教養講座を開設し、また、自主的なサークル学習を支援し、多彩な創造学習の支援に努める。	○ヤングレクチャー（語学講座等17教室）  ○少年少女文化展 ○子ども科学館事業 ○子ども自然体験教室 ○手作りロケットづくり（青少年課）  ○しめ縄づくり講座（公民館）	○S人形芝居（郷土芸能保存会）（文化振興財団）	⑤中高大（青少年）の参加が少ない。  ⑥青少年が自主的に参画する事業が少ない。	⑤⑥中高大の運営実行委員会を設置し、事業に反映させる。
スポーツ・レクリエーション活動	○いつでも、どこでもスポーツが楽しめるようスポーツ広場の整備や機会を提供し、スポーツ・レクリエーションの普及を図り、地域スポーツ活動を推進する。	○駅伝大会 ○月例マラソン大会（スポーツ課）  ○スポーツチャンバラ教室（公民館）	○市民体育祭（市民体育祭実行委員会）  ○少年・少女球技大会（子ども会）	⑦参加者が固定化している。	⑦⑧⑩現代的課題を取り入れた魅力的なプログラムを開発する。（環境問題含む）
地域活動	○協調性、公共心、礼儀・言葉づかいなどの社会性を身につけるために、青少年が地域活動に参加する場をつくり、推進する。 ○地域における青少年活動のリーダー育成及びそれを援助する指導者や相談員の養成を図り、安心して暮らせるまちづくりを展開する。	○Jr.リーダー養成研修（カウンセラー）（青少年課）  ○N沢名人免許皆伝（指導者講習会）（N沢自然教室）	○環境マップ作成 ○街頭パトロール（自治会など各種団体）	⑧ボランティア意識を高揚させるような具体的活動が少ない。  ⑨単発事業に終わっている。 ⑩環境問題をあつかうプログラムが少ない。	⑨年間を通して行う長期プログラムの作成

IV 年間事業計画（平成17年度青少年教育事業計画）

(1) 社会教育目標	いつでも、どこでも自由に楽しく学ぶことのできる心豊かなまちづくりをすすめよう。
(2) 青少年教育目標	自主的な活動を行うことができる機会や環境を充実させ、青少年の生きる力を育もう。
(3) 社会教育行政目標	① 多様な学習ニーズに対応した学習機会の提供をする。 ② 市民の自主的・自発的な学習活動を支援する。 ③ 芸術文化の振興と生涯スポーツを推進する。
(4) 青少年教育行政目標	① 家庭・学校・地域における関係団体等の連携を強化し、地域ぐるみで青少年の育成に努める。 ② 自然体験型の学習活動を推進する。 ③ 地域活動への参加を促進し、郷土意識・社会奉仕の意識を高める。 ④ 指導者の育成と活用を促進する。

(5) 青少年教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
ネットワーク	青少年井戸端会議	○学習ニーズを把握し、魅力あるプログラムの提案を募る。	○情報交換会を定期的に実施する。 ○上記内容を市HPに掲載する。 ○研修会 ○意見集約運営	市内在住・在学中の中・高・大学生 30人	年間6回	50	中・高・大による実行委員会
	青少年育成懇談会	○青少年育成に関わる各機関・団体の情報交換の場を設け、方針、活動内容等について協議するとともに連携して活動の充実を図る。	○青少年育成に関するテーマを設け、各機関、団体で情報交換・意見交換を行い、事業に繋げる。	行政、学校、PTA、社会教育団体等 30人	6月 9月 12月 3月	200	
リーダー養成	Jr.リーダー初・中・上級養成研修会	○地域のリーダーとして成長し、行動できる能力を段階的・総合的に養成する。	○野外活動の実践 キャンプファイアー、炊飯、ウォークラリーなど ○救命救急法	中学1年～高校1年生 30人	年間6回	0	青少年指導員・Jr.リーダーカウンセラーによる支援
	Jr.リーダー国内交流宿泊研修会	○他市のJr.リーダーとの交流の中で情報・技術交換し資質の向上を図る。	○レクリエーション技術 ○グループワーク技術 ○宿泊体験 ○情報交換		年間1回 (2泊3日)	0	
	Jr.リーダーカウンセラー研修会	○Jr.リーダーに指導・助言できるカウンセラーを養成する。	○上記の内容+専門性を向上させる知識	高校2年～ 20人	年間4回	30	
	野外活動指導者研修会	○子ども会等の指導者に野外活動に関する基本的な技術を養成する。	○自然観察 ○キャンプ ○救命救急法	全市民 30人	年間5回	0	青少年指導員・Jr.リーダーカウンセラーによる支援
野外・自然体験活動	子ども自然体験教室(わんぱくキャンプ)	○四季を通じて自然遊びや野山の自然に触れるなど、自然体験を通して、自然への感性を育てるとともに、人と人とのふれあいを深める。	○カヌー体験 ○野外炊事(ピザ・バームクーヘン・パン作りなど) ○ハイキング ○リポートレッキング ○スキー ○キャンプファイアー(キャンドルファイアー) ○クラフト製作	市内在住小学生 4～6年生 50人	夏3泊4日 冬1泊2日 春2泊3日	100	N沢自然教室で実施  夏・春については市外青少年施設に宿泊(1泊)  カヌー・スキーは市外で活動
	サマーキャンプInN沢	○周辺の自然の中で、ともに生活し、自然体験を通じて、自然への理解を深めるとともに、自立性、協調性を育む。	○登山 ○野外炊事 ○救命救急法 ○ボランティア研修 ○クラフト製作	市内在住中学生～高校生 30人	5泊6日	50	将来的には上記教室のボランティアスタッフとして参加してもらえようとする。

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
野外・自然体験活動	あそび塾inN沢	○参加者が企画・運営を主体的・創造的に行うプログラムを作成し、たくましく生きる力を育てる。	○プログラムの企画・立案 ○野外活動・野外炊事 ○リーダー研修会 ○ハーモニカ演奏など	市内在住小学生4年生～中学生 40人 リーダーとして高・大学生を募集 10人	通年 年11回 3泊4日 1回 2泊3日 1回 1泊2日 2回	200	N沢自然教室で実施 N沢フレンズ(施設ボランティア)
文化活動	少年少女芸術・音楽祭	○ミュージカル(演劇)の発表や楽器の演奏を通じて、芸術・音楽の文化的意識の高揚を図る。	○自作ミュージカルの発表 ○ピアノ・バイオリン・トランペットなどの演奏 ○ハーモニカコンサート	市内在住・在学小・中・高・大学生 150人	年1回	300	参加は、個人、団体自由とする。
	創ろう・描こう「ふるさと発見」	○地域の特徴のあるものを選定し、作品をつくることによりふるさとを見つめ直すとともに、創造性を育てる。	○粘土細工 ○写生大会 ○郷土かるた作成	市内在住小・中学生 40人	年2回 (5月・11月)	100	地域老人会やシルバー人材バンクによる支援
	学んでガッテン・やってみよう	○日常生活に必要な知識や技術を習得することを通じて、仲間とのコミュニケーションづくりと自主性を育てる。	○語学講座(各種) ○マナー講座 ○生活の知恵講座	市内在住・在学高・大学生 20人	年12講座	300	一ヶ月単位での講座開催 地域老人会やシルバー人材バンクによる支援
スポーツ・レクリエーション活動	健康マラソン大会	○スポーツの日常化と参加者の親睦を深め、体力の向上と健康の保持増進を図る。	○距離別マラソン 1キロの部 1.5キロの部 3キロの部 5キロの部	市内在住・在学・在勤小・中・高・大学生・一般 300人	年4回 (11月・12月・2月・3月)	0	市体育協会の主催 企業とタイアップ
	スポーツチャンバラ	○礼儀・作法の習得とともに、自由に遊びながら楽しむことにより、チームの連帯感を育成する。	○用具・ルールの説明 ○技術・技能の練習 ○学年別競技	市内在住・在学小学生 200人	年2回 (7月・12月)	300	
	S川親子鮎つかみ大会	○鮎のつかみどりを通し、生きものとふれあい、親子の絆を深めるとともに、参加者どうしの交流を図る。	○S川の鮎やなで、放流した鮎をつかみ、獲れた鮎を塩焼きにして食べる。	市内在住・在学幼児～小学生とその保護者 50人	年1回 8月	0	鮎まつり実行委員会主催
	レッツ・ウォークラリー	○身近な地域の史跡や名所を回り、郷土の良さを発見するとともに、たくましい青少年を育成する。	○地域のコマ図をもとに各地域にまつわる課題をクリアしながら、グループごとにゴールを目指す。	市内在住・在学小学3年生以上 60人	年4回	300	ゴール後、参加者に豚汁を振舞う。 14公民館で実施。
地域活動	地域学VIVA～僕たち私たちの街を良くし隊～	○社会性や郷土愛を育むために街を観察し、社会性を身につけ、地域力の向上を図る。	○環境教室 ○礼儀・作法教室 ○A市△△地区目だマップ	市内在住・在学小学生 各公民館 20人	年6回	50	地域の人材を活用
	地域遊VIVA～Myツリーを育てよう～	○生きる力を育むためにコミュニティー能力や社会奉仕の心の向上を図る。	○梨づくり ○公民館まつりで収穫した梨のチャリティ販売	市内在住・在学小学5～6年生 30人	通年	300	協力：農家・自治会
	健全・安全守り隊	○住民がより安全で住みよい街にするために、地域ぐるみで危険箇所等を改善し、青少年にとってよい環境を充実させる。	○学校・住民アンケート ○環境マップ ○インターネット・携帯電話研修会 ○地域環境委員養成講座	一般 50人	年12回	3,000	

V 青少年教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	あそび塾inN沢	
(2) 事業の目的	参加者が企画・運営を主体的・創造的に行うプログラムを作成し、たくましく生きる力を育てる。	
(3) 実施主体	N沢自然教室	
(4) 対象者・定員	市内在住小学4年生～中学生 40人 リーダーとして高・大学生を5人以上募集	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	4月～3月	計11回 日帰り 4時間×5回 3泊4日 1回 2泊3日 1回 1泊2日 2回
(6) 学習場所	N沢自然教室、Y川、M湖、S川、県立青年の家、K病院など	
(7) 学習目標	① 異年齢集団での生活・交流を通じて、自立ある生活を身に付け、仲間づくりをする。 ② 青少年が野外生活を体験し、郷土の豊かな自然に親しむ。 ③ 企画・運営に子どもが参画し、主体性・創造性を養う。 ④ 指導者としての知識を学び、活動することにより地域社会に貢献する。	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
第1回 準備 4月	第1回 スタッフミーティング	○スタッフの役割分担・打ち合わせ ○おおまかなプログラム骨子の立案 ○救急救命講習会・リーダー研修会 ○参加者募集・活動メニューの用意	消防署職員 Jr.リーダーカ ウンセラー N沢フレンズ (施設ボランティア)	事前にリーダー募集 2月末～3月中 N沢自然教室
第2回 準備 5月	第2回 スタッフミーティング	○活動プログラム作成、打ち合わせ ○参加者募集	Jr.リーダーカ ウンセラー N沢フレンズ	N沢自然教室
第3回 6月 1泊2日	その1 友達になろう！	○入塾式 1日目（午前）オリエンテーション・ アイスブレイク （午後）プログラム作成7月～9月 2日目（午前）ハイキング （午後）野外炊事 ○各グループでハーモニカの練習	遊び塾リーダー N沢フレンズ 公民館サークル (ハーモニカ)	N沢自然教室で宿泊 N沢自然教室周辺
第4回 7月	その2 めざせ！環境博士	○8月宿泊体験オリエンテーション ○講義：環境教育講座 (川は誰がよごしたか) ○盆踊り講習会、終了後、地域の祭りに参加	環境カウンセラー 地域婦人会 遊び塾リーダー N沢フレンズ	N沢自然教室 N沢地区盆踊り大会
第5回 8月 3泊4日	その3 めざせ！遊びの達人 (夏)	<プログラムの展開> ○野外炊事（1日日夜、2日目朝） ○ハイキング 1日目 リバートレッキング 2日目 カヌー体験（夜）ナイトハイ キング・肝試し 3日目 鮎まつりS川の清掃・ハーモ ニカの練習 （夜）キャンプファイアー 4日目 ふりかえり	県立青年の家職 員 カヌー講師 遊び塾リーダー N沢フレンズ	N沢自然教室で宿泊 Y川（リバートレッキング） M湖（カヌー体験） S川（川の清掃） 1泊目県立青年の家2・3 泊N沢自然教室
第6回 9月	その4 めざせ！遊びのプログラマー	○話し合い：いままでの活動のふりかえり ○プログラム作成10月～12月	遊び塾リーダー N沢フレンズ	N沢自然教室
第7回 11月	その5 プロに学ぼうハーモニカ	○ハーモニカコンサート鑑賞 (N沢自然教室)	N沢自然教室主 催	10月・11月はハーモニカ自 主練習
第8回 12月 1泊2日	その6 めざせ！遊びの達人 (冬)	1日目 リース作り・クリスマスパーティー 2日目 野外炊事（そばづくり）・プロ グラム作成1月～3月 ハーモニカのグループ練習	遊び塾リーダー N沢フレンズ	N沢自然教室で宿泊



回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
第9回 1月	その7 感謝×2	○実習：親子もちつき大会（異年齢交流） ○郷土かるた大会・ハーモニカ発表 ○観察：星空観察	遊び塾リーダー N沢フレンズ 市学芸員	N沢自然教室 祖父母の参加も可能
第10回 2月	その8 エンジョイハーモニー	○ハーモニカコンサート	遊び塾リーダー N沢フレンズ	K病院に出向き発表
第11回 3月 2泊3日	その9 誕生！遊びの達人	1日目 フィールドワーク： 春を満喫フォトラリー 2日目 ※わくわくキャンプ支援(成果発表) ハーモニカ発表 3日目 話し合い： 年間ふりかえり、退塾式、達人証書授与 (午後) スタッフ反省会	遊び塾リーダー N沢フレンズ	N沢自然教室で宿泊 ※N沢自主事業への参画

### 第3節 成人教育計画

<分析シート1>

#### K市成人教育計画

##### 1 K市の概要

###### (1) 地勢・地域条件等

- ① K市は、K県の本土最南端へと伸びるO半島のほぼ中央に位置し南東部にはシラス台地が広がり、O地域の交通・産業・経済・文化の拠点となっている。
- ② 市域は東西14km、南北27kmに及び234.37km<sup>2</sup>の面積を有し、年間平均気温は17度、年間日照時間は1,980時間で、温暖な気候と豊かな自然に恵まれている。
- ③ 地域全体の人口は微増だが、年齢別人口の推移を見ると、生産年齢人口・幼年人口の減少、老年人口の増加が顕著となっている。(81,996人 世帯数34,703戸 平成16年8月1日現在)

###### (2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 温暖な気候と豊かな資源を生かした甘しょ、茶などの栽培をはじめ、K湾を活用したカンパチ養殖が日本一の漁獲高を誇っている。しかし、産業別純生産では、第3次産業が8割以上を占めている。
- ② 市役所の移転やバイパスの開通、郊外の大型店舗進出により中心市街地の空洞化が生じている。

###### (3) 教育・文化的環境

###### ◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	9 (24)
小 学 校	20
中 学 校	8
高 等 学 校	5
大学・短大	1
専 門 学 校	1

###### ◇ 生涯学習関連施設 (民間を含む)

種 別	数
公民館・学習センター	8
文化会館	1
図 書 館	1
視聴覚センター	1
歴史資料館	1
スポーツ施設(体育館・武道館・陸上競技場など)	16

###### ◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① K市では、「健康・スポーツ都市」を宣言しており、K体育大学や県民健康プラザ、少年自然の家などと連携を取り合いながら、誰でも気軽に参加できる市民総ぐるみのスポーツ環境づくりを推進している。
- ② 中学校区ごとに地区の学習センターを設置しており、生涯学習の拠点としての役割を果たすことで、幅広く多くの市民に学習の機会を提供している。また、小学校ごとの家庭教育学級の運営についての支援を行っているが、まちづくりに対する意識はまだ不十分である。

2 成人教育の現状と課題

区分	施策	現 行 の 事 業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
学級・講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民のニーズに対応した学習機会を提供し、知識・技能を身につける場とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パソコン講座</li> <li>写真入門講座</li> <li>16mm映写機技術講座</li> <li>ビデオ撮影基礎講座</li> <li>アナウンス教室</li> <li>国際交流ふれあい教室（生涯学習課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルスアップ講座（県民健康プラザ）</li> <li>わらべうた講座（婦人センター）</li> <li>アウトドア講座</li> <li>トールペイント（勤労青少年ホーム）</li> <li>腰痛教室（K体育大学）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①参加者の固定化と講座内容のマンネリ化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①参加者の学習評価を活用し、講座内容に反映させる。</li> </ul>
集会・行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の成果発表の場を設け自主的自発的学習の支援をする。</li> <li>スポーツに関する大会を通して世代を越えた交流を深める。</li> <li>人権問題や家庭教育の重要性への理解や認識を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市文化祭</li> <li>美術展</li> <li>生涯学習大会（生涯学習課）</li> <li>ふれあいグラウンドゴルフ大会（生涯学習課）</li> <li>人権問題講演会（生涯学習課）</li> <li>家庭教育講演会（生涯学習課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民文化祭（県の社会教育課）</li> <li>スポーツフェスタ</li> <li>駅伝大会</li> <li>クロスカントリー大会（市民スポーツ課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①参加者だけの楽しみに終わり、市民全体への広がりが見られない。</li> <li>②行事において世代間の交流の場面が少ない。</li> <li>③イベント支援のボランティアが少ない。</li> <li>④知識だけの理解で実践に結びつかない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①参加意欲が高まる内容の充実を図る。</li> <li>②既存の事業を見直し、学校教育と社会教育との話し合いの場をつくる。</li> <li>③イベントボランティアの育成を図る。</li> <li>④シンポジウムやロールプレイングなど多様な学習形態を取り入れた研修会を実施する。</li> </ul>
学習情報提供・学習相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民に成人教育に関する情報提供をする。</li> <li>市民の自主的・自発的な学習意欲に応えるため指導者の情報を提供する。</li> <li>あらゆる相談に対応できるように場所や学習情報の提供を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報誌</li> <li>市のホームページ講座案内（生涯学習課）</li> <li>公民館・学習センター（公民館・学習センター）</li> <li>出前講座（生涯学習課）</li> <li>各地区の学習センター窓口（学習センター）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間・K体育大学での新聞折り込み広報（民間、K体育大学）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学習情報が効果的に提供されていない。</li> <li>②学習相談の利用者が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①わかりやすく魅力ある広報誌を作成する。</li> <li>①年間計画を各家庭に配布する。</li> <li>②各センターの相談窓口で専門コーディネーターを置く。登録情報を入力し近隣市町村とのネットワーク化を図る。</li> <li>②広報誌等で学習相談が実施されていることを住民に知らせる。</li> </ul>
講習・研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践力を身につけた熱意ある指導者を養成確保、指導力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども会リーダー育成者研修会</li> <li>地区女性団体連絡協議会研修会</li> <li>市P連研究大会（生涯学習課）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>①指導者の人材発掘と育成が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①関係団体と連携して指導者養成講座を開設する。</li> </ul>
関係機関との連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>成人教育をより幅広く展開するために、他の関係機関との連携・協力を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>青年団・青少年連絡協議会（生涯学習課）</li> <li>青年会議所との連携（共催事業など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本読み聞かせグループ（図書館ボランティア）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①加入者の減少・組織力の低下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①加入者の増加</li> <li>①関係団体との事業の共催</li> </ul>

IV 年間事業計画（平成17年度成人教育事業計画）

(1) 社会教育目標	心の豊かさと生きがいを育むまちづくりをめざそう。
(2) 成人教育目標	心身とともに、健康的な生き方を尊重し、新しい知識や技術習得のための継続的な学習に取り組もう。
(3) 社会教育行政目標	生涯学習の推進の基盤整備を図るとともに、社会教育の推進体制の充実に努める。
(4) 成人教育行政目標	いつでも、どこでも、だれでもが自由に学習ができるように学習の場の設定に努めるとともに、指導者の養成に努める。

(5) 成人教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
学級・講座	・市民講座 (継続)	・心豊かな生活をめざすため、知識や技能を習得する。 ・教養の学習機会を提供する。	・健康づくり講座	成人 120人	月2回 (5月～9月)	400	市保健センター
			・教養的講座	800人	月1回 (5月～2月)	1,500	
			・職業能力向上講座	180人	月2回 (5月～9月)	300	
			・趣味的講座	1,900人 合計 3,000人	月1回 (5月～2月)	4,000	
集会・行事	・市の文化祭 ・生涯学習大会 ・ふれあいグラウンドゴルフ大会 ・人権問題フェスタ ・家庭教育フェスタ (継続)	・学習の成果を発表する場の提供と市民の交流を深める。 ・市民の人権意識を高める。 ・より豊かな家庭教育を築くための意識を高める。	・展示と舞台発表 ・市民講座と自主サークルの発表 ・シンポジウムとワークショップ	成人 成人 市民 成人 各1,000人	年1回(11月) 年1回(2月) 年1回(11月) 年1回(9月)	30 0 50 300	
				成人 1,000人	年1回(10月)	300	
学習情報提供 学習相談 学習相談	・社会教育情報提供 (継続・新規) ・学習相談事業 (継続)	・学習情報の周知を図る。 ・市民の学習支援体制を整える。	・ふるさとカレンダー ・広報誌 ・市のホームページ ・専門コーディネーターの配置	全戸 全戸 市民 市民	年1回(3月) 各月1回 随時	9,400 0 0	市の広報誌
調査	・生涯学習市民アンケート (新規)	・市民の学習要求・地域課題・教育資源等をアンケートにより調査し、講座開設及び人材発掘に資する。	・各年齢層から各行政区ごとに抽出しアンケートを実施	各年齢層 (行政区ごと) 3,000人	8月1回	100	5年ごとに実施調査後の事業に反映
講習・研修	・リーダーのためのステップ・アップ事業 (指導者養成講座) (新規)	・各種団体のリーダー養成と活動意欲を高める研修を実施する。	・講義 ・ワークショップ ・宿泊研修 ・演習	子ども会や市P連などの各種団体の代表者 30人	年6回 (6月～10月)	100	講習修了者は、希望により、人材バンクに登録してもらう。
関係機関連携との協力	・社会教育関係団体活動促進対策事業 (新規)	・各種団体のパートナーシップの強化を図る。	・各種団体の意見交換会	各種団体の代表者	年2回 (6月・2月)	40	

V 成人教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	・リーダーのためのステップ・アップ事業	
(2) 事業の目的	・K市のまちづくりのために各種団体のリーダー養成の研修と活動意欲を高める。	
(3) 実施主体	・K市教育委員会	協力機関 ○○大学
(4) 対象者・定員	・各種団体の代表者 30名（次の世代のリーダーになりうる人を対象とする）	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	6月～10月	1回の学習時間 3時間×5回＋6時間 （宿泊研修1泊2日）
(6) 学習場所	・中央公民館・国立○少年自然の家	
(7) 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりの担い手となるため、指導者としての知識・技能を学ぶ。</li> <li>・各種団体が情報交換を行うとともにそれぞれの団体のパートナーシップの強化を図る。</li> <li>・各種団体活動の活性化を図る。</li> </ul>	

(8) プログラムの展開

㊦；評価の観点

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1	K市について 知ろう	○オリエンテーション ○講義・ワークショップ： まちづくりの現状と課題を理解する。 ○宿泊研修の事前オリエンテーション	・市長、企画部長 ・社会教育主事	3時間 ㊦；K市の現状と課題が把握できたか。
2	学習リーダーって、 なに？	○プログラムの展開 1日目（午後）施設見学：○少年自然の家、施設の利用の仕方を知る。 ワークショップの練習 各種団体の情報交換  2日目（午前）講義・ワークショップ： リーダー、ボランティアとしての役割を知る。	・施設職員 ・○○大学講師 ・社会教育主事	国立○少年自然の家宿泊（1泊2日） ㊦；リーダーとしての役割を理解できたか。
3	自分たちの課題を 見つけなおそう	○発表：各種団体の課題を発表する。 ○演習：それぞれの事例を分析し合いリーダーとしての意識を高める。	・社会教育課長 ・団体の代表	3時間 K市以外の近隣市町村 ㊦；課題分析能力の向上が図られたか。
4	まちづくりについて 学ぼう	○講義・ワークショップ 生涯学習によるまちづくりの事例について学び、K市にどう生かせるかを話し合う。	・外部講師（Z町） ・公民館主事 ・社会教育主事	3時間 ㊦；まちづくりの必要性について学習できたか。
5	ステップ・アップ・ プランⅠ 悩もう	○演習：各種団体のモデル計画づくり 自分の団体の年間活動を振り返り、課題解決のための計画づくりをする。	・社会教育主事 ・市民講師（各種団体リーダー経験者）	3時間 ㊦；今までの学習をふまえ自分の所属する団体の計画を立案することができたか。
6	ステップ・アップ・ プランⅡ 生かそう	○発表：各種団体の計画発表 ・それぞれの発表を聞き、たがいに計画を評価し合う。 ○研修の反省 ・研修の振り返りをする。 ・新たなネットワークづくりにつなげる。	・社会教育主事 ・市民講師（各種団体リーダー経験者）	3時間 アンケートをまとめる ㊦；リーダーとしての意欲がもてたか。

## 第4節 女性教育計画

＜分析シート1＞

### A市女性教育計画

#### 1 A市の概要

##### (1) 地勢・地域条件等

- ① S川の右側に開けた扇状の地形であり、T山麓に連なる西北部の丘陵地帯と東南に緩やかに開けた平野部からなる。
- ② 面積は約94平方kmで、東京から46km、Y駅から32kmの位置にあり、K県の中央部の内陸都市である。
- ③ 人口は約22万人、人口に占める女性の比率は約48%である。1世帯あたりの人口2.6人。(平成11年9月)

##### (2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 平成9年度の1日平均で、出産5.99人、死亡2.72人 結婚3.72組 離婚1.09組。昼間人口が多く、人口移動が好不況に左右されやすい。
- ② 産業・交通の中核都市（生産性の高い農業、飛躍的に集積の進んだ商業、製造から頭脳型に転換しようとする工業）
- ③ 女性の社会参加状況（地方自治法第180条の5に基づく委員会）

名 称	委員 数	うち女性	名 称	委員 数	うち女性
教育委員会	5	1	固定資産評価審査委員会	3	1
選挙管理委員会	4	1	農業委員会	19	0
監査委員会	1	0			

##### (3) 教育・文化的環境

###### ◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	18(6)
小 学 校	23
中 学 校	13
高 等 学 校	6
大 学・短大	9
専 門 学 校	2

###### ◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
公民館・地区市民センター等	18
スポーツ施設	29
児童館 老人憩いの家	各35
その他（女性センター1、中央図書館1、子ども科学館1、ヤングコミュニティセンター1）	

###### ◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 社会教育関係女性団体は、趣味的活動にとどまっていて、女性問題に踏み込んだものがない。
- ② 各地区の公民館単位に自主女性学級や、家庭教育学級を実施しているが、参加者が固定化している。
- ③ 年齢階級別労働力率では、女性は20～24歳の段階にピーク（70%）があり、30歳代で40%台に低下する。そして、45～50歳代に第二のピークがある。（国勢調査より）
- ④ 男女平等についての意識調べで「政治の場や政策決定の場で」「社会通念・観念しきたりなどで」非常に男性優位と答えた割合が40%以上となっている。（A市男女共同参画社会に関するアンケートより）

2 女性教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
男女共同参画	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女が固定的な役割分業意識にとらわれることなく、共に自立・共生を目指す。</li> <li>男女平等を基本として、男女それぞれが豊かな生き方ができるような学習を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民大学教養講座</li> <li>板前教室</li> <li>リカレント学習推進事業</li> <li>生涯学習シンポジウム (生涯学習課)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉ボランティア講座 (社会福祉協議会)</li> <li>在宅介護講座 (福祉課)</li> <li>ホームヘルパー講座 (福祉課)</li> <li>子育て支援セミナー (児童家庭課)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 参加したくてもできない状況の人がいる。</li> <li>② 男女が意見を交換したり男性の意識の向上を図る場が少ない。</li> <li>③ リーダー的人材の不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⇒誰でも参加可能な時間帯での開設</li> <li>⇒男女で参加できる講座の開設</li> <li>⇒リーダーの養成と経験を積んだ女性たちの中からリーダー的人材を掘り起こす。</li> </ul>
生活・職業	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性の自己実現へ向けた自発的な学習を推進する。</li> <li>市民、主婦、母親、働く女性として豊かな人間性を培う学習を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得講座</li> <li>ワーキングセミナー</li> <li>テレビセミナー</li> <li>市民企画講座</li> <li>女性団体委託講座</li> <li>地域婦人団体への支援 (女性センター)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 社会参加を望む人たちのための事業の不足</li> <li>⑤ 男女共同参画社会に向けた事業の不足</li> <li>⑥ 女性問題講座がない。</li> <li>⑦ 社会教育と首長部局との連携が図られていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⇒社会参加を促進するための学習機会の提供</li> <li>⇒男女共同参画の実現を目指す講座の充実</li> <li>⇒ジェンダー講座等の開設</li> <li>⇒他機関等との連携による事業の推進</li> </ul>
趣味・教養・健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性の健康の保持・増進と母子保健の学習を推進する。</li> <li>スポーツ・レクリエーションを通じた仲間づくりを図る。</li> <li>現代社会の諸問題に対する学習を推進する。</li> <li>高齢化社会を迎え、これからの人生をゆとりを持って豊かに生きるための学習を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性の広場</li> <li>家庭教育学級</li> <li>生きがい教室 (公民館)</li> <li>各種スポーツ教室 (スポーツ課)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>⑧ 参加者の固定化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⇒インターネットメディアを使い、参加者の拡大を図る。</li> </ul>

IV 年間事業計画（平成17年度女性教育事業計画）

(1) 社会教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を表現する効果的的確な知識や技術を学ぼう。</li> <li>・地域を取り巻く現状を見つめ直してみよう。</li> <li>・自己を高め、自分自身の生き方をより豊かなものにしよう。</li> </ul>
(2) 女性教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性問題への理解と認識を広めよう。</li> <li>・女性の知識教養を高め、ゆとりある充実した生活を送ろう。</li> <li>・女性が働きやすい環境を創造しよう。</li> </ul>
(3) 社会教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来を支える人材づくりに向けて、生涯学習、生涯スポーツの推進、青少年の健全育成に努める。</li> <li>・誰もが誇れる文化の薫るまちづくりに向けて、市民文化の創造や育成、国際化に対応し、また男女が共につくる地域社会を目指す。</li> </ul>
(4) 女性教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女の自立・共生と社会参画を推進する。</li> <li>・男女平等を基本とした教育、学習を推進する。</li> <li>・健康の増進と福祉の向上、並びにあらゆる暴力を根絶する。</li> </ul>

(5) 女性教育年間事業計画表

事業区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
講座・教室	おんな塾	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内の男女の役割を見直しながら、生活技術を身につける。</li> <li>・地域の仲間づくりを推進する。</li> </ul>	DIY教室 ① ガーデニング ② 電化製品簡単修理 ③ 車の構造を知ろう ④ 木工教室	成人女性 30名	5～1月 (月1回) 全9回	消耗品費 5×13 講師謝金 5×13	公民館 13ヶ所
	おとこ塾		料理教室 ソーイング教室 介護体験	成人男性 30名	5～1月 (月1回) 全9回	消耗品費 5×13 講師謝金 5×13	
	ジェンダー講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画に関する認識を深め、ジェンダーに敏感な視点を身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性史を学ぶ</li> <li>・男女のコミュニケーションのあり方を考える。</li> <li>・リプロダクティブヘルス/ライツに関する認識を深める。</li> </ul>	市民 各回 20名	9～11月 (月曜日) 全10回	講師謝金 20×7	女性政策課との合同開催  K公民館
	スポーツ・レクリエーション教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ・レクリエーションを通して、健康な心と身体をつくり同時に仲間づくりを目指す。</li> </ul>	ダンベル体操 チューブ体操 ヨガ  社交ダンス	成人女性 30名	5～9月 (月1回) 全5回	講師謝金 5×5 ×13	公民館 13ヶ所
	成人	40名	10～12月 (月4回) 全12回	講師謝金 5×12 ×13			
	女性のための実務講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働く女性および就労を希望する女性のために、教養を高め社会参加を促進する。</li> </ul>	パソコン教室  宅建主任資格取得講座 ホームヘルパー2級養成講座	成人女性 30名	5～6月 (10回)	講師謝金 4×2 ×10	福祉課との合同開催
成人女性	30名	4～翌3月 月2回全24回	24回で 200				
イベント	女性フォーラム 「男と女共に輝け21世紀」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画社会の実現に向けて男女が共に素敵に生きるための社会を目指す。</li> </ul>	基調講演 パネルディスカッション アトラクション(発表の場) 井戸端会議(意見交換)	市民 1,000名	12月 1回	講師謝金 400 諸経費 600	保育室 設置 文化会館
相談	女性相談事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭、地域、職場等において女性のあらゆる相談に対応できるよう場所や学習情報の提供を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口の設置</li> <li>・学習情報提供</li> </ul>		※	法律相談員 10×12	女性センター 生涯学習課、及び女性行政担当課で対応

※ 女性相談 月～土(祝日・休日を除く)午前10時～午後5時(土曜日は正午)  
法律相談 毎月第3月曜日(祝日・休日の場合は第2月曜日)午前10時から午後3時



V 女性教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	おとこ塾	
(2) 事業の目的	・家庭内の男女の役割を見直しながら、生活技術を身につける。 ・地域の仲間づくりを推進する。	
(3) 実施主体	A市教育委員会 生涯学習課	
(4) 対象者・定員	成人男性30名	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	5月～1月	1回の学習時間 120分×9回
(6) 学習場所	公民館、学校、特別養護老人ホーム	
(7) 学習目標	・家庭内の男女の役割を見直し、生活技術を身につける。 ・地域に仲間をつくる。	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1 5/14 (日)	仲間づくり クッキングから (おんな塾と合同)	開講式（ワークシート） オリエンテーション 自己紹介（レク） ----- グループ編成（5名×6グループ） 実習：チャーハン、スープ作り 試食、講評 片づけ、解散	公民館職員 館長 食改善グループ (3人)	午前10時～ [持参品] 米1人1合 エプロン三角巾 グループ等にネーミング 当番日直、塾長を決める
2 6/11 (日)	縫い物体験 風呂敷の七不思議	実習：雑巾（手縫い） 講義：風呂敷（使い方、手品、救急法）	女性会員 公民館職員	午前10時～ [持参品] 使い古したタオル 風呂敷
3 7/9 (金)	文明の力のありがたさ	エコバッグの製作 (ミシン、布、糸)	女性会員 教員（家庭科）	午前10時～ [教材費] 実費1千円 学校施設利用
4 8/5 (土)	映画フォーラム (おんな塾と合同)	映画視聴（ジェンダーに関する映画）30分 ディスカッション45分 懇親会	公民館職員 福祉課職員	午後7時～ [懇親会費] 自己負担2千円
5 9/10 (日)	食事鑑定団	講義（献立作りについて） グループ毎に実際に献立を作る 食材の調達はグループ毎で行う。	栄養士 保健婦	午前10時～
6 9/24 (日)	家庭の健康 俺についてこい	調理（前回の献立をベースに）	同上	午前10時～
7 11/12 (日)	介護にチャレンジ	講義：介護の基礎知識 簡単な実技	特別養護老人ホーム職員 介護福祉士	午前10時～ [会場] 特別養護老人ホーム
8 12/10 (日)	発表の場	発表：学習内容の発表を「女性フォーラム」の場で行う。 (2公民館)		午後1時～ [会場] 文化会館
9 1/14 (日)	新たな自分の発見 (おんな塾と合同)	思い出起こしと感想（ワークシート） 今後の学習について 閉講式 新年会	公民館職員 館長	午前10時～ [新年会費] 自己負担2千円

## 第5節 高齢者教育計画

<分析シート1>

### ○町高齢者教育計画

#### 1 ○町の概要

##### (1) 地勢・地域条件等

- ① ○町は、M県の○半島頸部にあり、太平洋に面した○湾を囲むように位置している。
- ② 近海には、世界三大漁場の一つであるK山沖漁場が控えており、沖合漁業、養殖などが盛んである。
- ③ 明治22年○村となり、大正15年○町となる。
- ④ 面積は、6,578km<sup>2</sup>で、人口11,506人（平成14年3月現在）

##### (2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 65歳以上の高齢者 3,067人  
（高齢化率 平成2年14.99%、平成14年26.66%、平成19年31.90%）
- ② 第1次産業（特に漁業）が主産業である。漁業就業者の内、65歳以上の高齢者が約25%を占めている。
- ③ 全世帯の内、約半数が高齢者がいる世帯である。高齢者の内、約10%が一人暮らしである。
- ④ 漁港を中心に、地域住民の共同作業をする機会が多く、地域的なつながりが保たれている。

##### (3) 教育・文化的環境

###### ◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	1 (5)
小 学 校	5
中 学 校	3
高 等 学 校	1
大学・短大	0
専 門 学 校	0

###### ◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
生涯教育センター	1
公民館（分館）	1 (2)
勤労青少年センター・自然活動センター	2
敬老施設（白寿荘、寿楽荘、憩いの家）	3
総合運動場（体育館・陸上競技場・野球場 等）	1
地域福祉センター	1

###### ◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 生涯学習関連施設は、町の中心地に集中しており、地域によって差はあるが、社会教育事業・サークル活動等で比較的利用率は高い。
- ② 柔軟性に富んだ創造力・行動力を持った人づくりを目指し各種事業を展開している。
- ③ 地域の歴史に対する関心は高く、特に高齢者の講座等への参加者は多く、学習意欲が高い。

2 高齢者教育の現状と課題 ※区分は事業の目的内容別

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
学びあい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者が、家庭や地域社会での役割を理解し、健康で豊かな生活を営むための学習を提供する。</li> <li>○互いに助け合う意識を高め、外向的で積極的な生き方を学び、地域社会に貢献する姿勢を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○老壮大学（公民館）</li> <li>○離島老壮大学（公民館）</li> <li>○すえひろ学級                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・講話</li> <li>・清掃奉仕活動</li> <li>・研修旅行</li> <li>・学芸会（公民館）</li> </ul> </li> <li>○町民パソコン教室（生涯教育センター）</li> <li>○町民文化祭（生涯学習課）</li> <li>○文化講演会（生涯学習課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者生きがい講座（社会福祉協議会）</li> <li>○高齢者及び障害者の趣味の作品展（社会福祉協議会）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が固定化し、排他的な状況もみられる。</li> <li>・講義形式で参加型学習が少ない。</li> <li>・学習者のニーズを把握していない。</li> <li>・ステップアップ講座が必要である。</li> <li>・講座修了生の自主グループ化がされていない。</li> <li>・今後、事業の予算措置が困難になってくる。</li> <li>・運営面への参画がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老壮大学院の設置を検討する。</li> <li>・ニーズを把握するため、プログラム作成段階から学習者が参画する。</li> <li>・プログラムの工夫を行う。</li> <li>・募集を老人クラブに依頼するだけでなく、他課との連携を深め、幅広く広報できるよう工夫する。</li> <li>・移動研修の在り方を見なおす。</li> <li>・実行委員を組織化する。</li> </ul>
健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自らの健康に関心を持ち、健やかで心豊かな生活をするための知識を身に付けさせる。</li> <li>○運動・栄養・休養の基本的な生活を再認識し、スポーツや体力づくりを通じ、明るく健康な町民の育成を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○氣功・太極拳教室</li> <li>○健康体力づくり町民の集い</li> <li>○町民大運動会（体育振興課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あそびりテーション（健康福祉課）</li> <li>○老人スポーツ大会（健康福祉課）</li> <li>○健康相談（健康福祉課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容が固定化しており、マンネリ化がみられる。</li> <li>・町民の健康に関する情報がまだ少ない。</li> <li>・他の課との連携がないまま事業が行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他課との情報交換・連携を行う中で、継続的な健康教育事業を計画する。</li> <li>・健康に関する情報紙を配布する。</li> </ul>
交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者の持つ、豊かな人生経験や優れた知識・技能を地域の中に生かし、声のかけ合えるまちづくりを推進する。</li> <li>○世代間交流や学社融合を推進する中で、豊かな人間関係づくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ウィークエンドサークルまなびっ子学校週5日制の対応事業。地域のボランティアが講師を務める。</li> <li>○うしお活動 中学校の総合的な学習の時間の一環として、地域のボランティアが講師を務める。（生涯学習課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ふれあい高齢者（一人暮らし）の集い（社会福祉協議会）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業プログラムの固定化がある。</li> <li>・継続的な活動につながらない状況がある。</li> <li>・児童生徒と高齢者との取組への温度差がある。</li> <li>・その場だけの取組となり、事業の効果が薄い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の事業を見直し、三世交代事業を実施する。</li> <li>・イベントとなりがちな取組を日常化できるように学校と社会教育関係課との話し合いを定期的に実施する。</li> <li>・児童生徒が高齢者に教えたり、高校生が参画する事業を実施する。</li> <li>・コーディネイトを公民館が中心に行っていく。</li> </ul>
社会参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>○町民に系統的かつ専門的な学習内容を提供し、地域活動の中心的役割を果たす人材を育成する。</li> <li>○郷土に伝わる歴史や文化に誇りを持ち、伝承者としての役割を学び、地域社会の活性化につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○シニアセミナー 地域の歴史を学び歴史ボランティアガイドをめざす。（公民館）</li> <li>○生涯学習指導者名簿（生涯学習課）</li> <li>○町民神楽講座（公民館）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習指導者名簿（人材バンク）登録者の活躍の場が無く、積極的な活用が成されていない。</li> <li>・伝統芸能の継承者の不足がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習指導者名簿への登録と啓発を行う。</li> <li>・学校に人材バンクコーディネーターを設置する。</li> <li>・コーディネーターに対する研修会を実施する。</li> <li>・伝統芸能の発表の機会を増やし、参加体験できる場（三世交代等）を設定する。</li> <li>・人材バンク等のアピールの工夫とうしお活動での活用を検討する。</li> </ul>

IV 年間事業計画（平成17年度高齢者教育事業計画）

(1) 社会教育目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>生涯にわたり、共に学び合い、心豊かな町民になろう。</li> <li>豊かな自然を愛し、「やすらぎとうるおいのある町」にしよう。</li> <li>健康な心と体をつくり、「声かけあえる町」にしよう。</li> </ol>
(2) 高齢者教育目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>いつまでも、イキイキと、仲間と共に、楽しく学び合おう。</li> <li>愛する郷土、歴史と文化、豊かな自然を、次の世代に伝えよう。</li> <li>楽しく、汗を流し、心身ともに、明るく健康で充実した毎日を送ろう。</li> </ol>
(3) 社会教育行政目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>生涯学習推進体制の整備・促進と、学習活動の支援に努める。</li> <li>社会教育関連施設の整備・充実に努める。</li> <li>柔軟性に富んだ、創造力・行動力を持った人材の育成に努める。</li> </ol>
(4) 高齢者教育行政目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>多様な学習機会を提供し、自主的な活動を推進する。</li> <li>世代間交流を推進するとともに、郷土の歴史・文化を継承する人材の育成を図る。</li> <li>健康教育事業の充実を図るとともに、スポーツ活動の拡充を図る。</li> </ol>

(5) 高齢者教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
学 び あ い	○さくら大学	○健康で生きがいのある豊かな生活を営むための学習や体験を提供する。また、地域の歴史や文化に対する理解を深め、地域社会に貢献する姿勢を養う機会を提供する。	○企画への参画を募集し、高齢者自身による課題の発掘に努める。 ・地域の課題、健康、文化等について、講義、実習、グループ討議等、多様な形態で学習する。	60歳以上 150人	年10回	1,000	原則として3年で卒業 健康福祉課 町民課、社会福祉協議会 ○町学校等と連携
	○さくら大学院	○さくら大学卒業後のステップアップとして、地域の特色ある分野の学習を深め、地域のリーダー的な人材を育成する。	○さくら大学卒業生の企画運営の参加により、自主的な運営で進める。 ・おらほの町歴史ガイド科 ・郷土料理おらほの味科 ・町の環境を守ろう科 ・町の語り部になろう科 ・おらほの土で焼物科 ・パソコンの達人になろう科	63歳以上 20人×6クラス	各科 年10回	1,200	健康福祉課 町民課、社会福祉協議会 ○町高校等と連携
	○潮彩フェスティバル	○文化講演会や作品展をとおして地域の芸術・文化活動の活性化・サークル間の交流を図る。	○企画への参画を募集し、実行委員会形式で実施する。 ・作品展 ・伝統芸能発表会 ・○町文化フォーラム	町民	11月上旬	1,500	健康福祉課 と連携
健 康	○おらほも元気・おめほも元気塾	○自らの健康について関心を持ち、栄養生活習慣を改善し、健やかな生活を送るための、知識や態度を育成する。	○食生活と健康に関する懇談会（健康相談） ○介護に関する知識の習得と実技の体験 ○レクリエーションとトレーニング	60歳以上 50人	年9回	200	保健福祉課 と連携 社会福祉協議会と連携 体育振興課と連携
	○長寿ペナントレース	○運動や遊びを通じ、地域間の交流を深め、楽しみながら健康増進を図る。	・ニュースポーツチーム対抗定期競技会	60歳以上 60人	年5回	250	体育振興課 と連携 多目的運動場、体育館の備品整備

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
健康	○さくら通信	○高齢者に係わる学習機会や健康・行事等の情報を提供する。	○行政各課の主催する健康に関する講座や行事等の情報を掲載した情報紙を作成、配布する。 ○栄養や運動に関する啓発活動	全戸数配布	月1回	100	印刷配布ボランティア
交流	○ウィークエンドわらしっ子	○学社融合の一環として、地域の中の豊かな人生経験や優れた知識を有する者を講師に活用するとともに、高齢者の活躍の場を創る。	○学校、高齢者との協議によりプログラムを作成し、広く子どもたちに学習の場を提供する。 ・小学生、中学生ごとに実施(書道教室、手芸教室)	小中学生 40人 高齢者 40人	年9回	300	小中学校学校教育課と連携
	○めんこいタイム	○学社融合の一環として、高校生を対象に地域の中の豊かな人生経験や優れた知識を有する者を講師に活用するとともに、高校生、高齢者が互いに学びあうことで、交流を図る。	○高校の授業の中で、学校と高齢者との協議により、プログラムを作成し、互いに教えあう場とする。 ・漬物講習 ・魚の捌き方講習 ・新しい歌の合唱	高齢者 40人 高校生 40人	年3回	100	高校学校教育課と連携
	○わいわい市場	○地域における豊かな人間関係づくりを目指し、異世代交流の推進を図る。	○三世代が一同に会い、各世代が持つ経験・知識等を生かして、異世代との交流事業を行う。 ・昔の遊びコーナー ・孫が先生、パソコン体験コーナー ・ふれあい高齢者コーナー等	高齢者 50人 子ども 50人 町民	年2回	500	健康福祉課と連携
社会参加	○うしおネット	○高齢者のスムーズな社会参加を支援し、円滑な事業推進を図る。	○社会参加の情報提供、人材の発掘、人材バンクの整備を行う。 ○コーディネーターの育成のための組織づくり	高齢者 学校 町民	定例会 年12回 随時	500	学校教育課と連携
	○プラチナ工房	○高齢者のボランティア活動等とおして社会参加を推進する。	○さくら博士院卒業生等により、学校や地域で環境美化を行い、地域に環境の大切さを伝える。	さくら博士院 卒業生を中心とした 高齢者 40人	年24回 随時	100	健康福祉課と連携
	○えびす倶楽部	○高齢者の語り部を育成し、その知識、技能を発揮することで豊かな地域社会の向上を図る。	○さくら博士院卒業生等により、幼児から高齢者まで語りを行う。	さくら博士院 卒業生を中心とした 高齢者 40人	年24回 随時	100	幼稚園、各学校、健康福祉課と連携
	○〇町舞ステージ	○地域の伝統技術の素晴らしさを再発見しその普及と伝承を推進する。	・法印神楽、獅子舞等の伝承を行う。 ・各地での公演 ・小中高校への訪問指導、道具の整備	高齢者 40人 町民	年24回 随時	100	文化振興課と連携

V 高齢者教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	さくら大学（高齢者学級）	
(2) 事業の目的	1 健康で、生きがいのある豊かな生活を営むための学習や体験を提供する。 2 地域の歴史や文化に対する理解を深め、地域社会に貢献する態度を養う機会を提供する。	
(3) 実施主体	さくら大学運営委員会、生涯学習課	
(4) 対象者・定員	60歳以上の高齢者 150人	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	5月～2月	1回の学習時間 2時間×10回
(6) 学習場所	生涯教育センター 他	
(7) 学習目標	1 仲間と共に、学び合う喜びを知り、心身ともに、明るく健康で豊かな日常生活を営むための学習を行う。 2 郷土の歴史と文化に対する理解を深め、豊かな自然を守り育てる態度を身に付ける。	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1 (5月)	出会い講座 「わくわく入学式」	○オリエンテーション ○実行委員紹介 ○プログラム内容の説明（運営委員代表） ○講義（交通安全と防犯） ○アトラクション（○町舞スターズ）	・さくら大学運営委員 ・○町交番 ・○町舞スターズ	・生涯教育センター
2 (6月)	趣味講座1 「なつかしっちゃ 唄う っちゃ」	○鑑賞（昔の○町の風景スライドを見ながら朗読を聞く） ○実技（童謡合唱）	・地元コーラスグループ ・えびす倶楽部 ・アコーディオン奏者	・生涯教育センター ・スライド ・懐かしい曲
3 (7月)	健康講座 「散るまで満開、健康講座」	○講義（栄養、生理学、生活習慣等） ○実技（座ってできる軽体操、自分でできる健康チェック）	・町立病院医師・看護師 ・体育振興課 ・体育指導員 ・保健師	・生涯教育センター ・玄米ダンベル ・手ぬぐい
4 (8月)	ボランティア講座1 「おらがまちを自慢しよう!？」	○講義（「自慢できるまちとボランティア活動」） ○グループ討議（「まちづくりをとおして○町を見なおそう」）	・プラチナ工房 ・町民課 ・地元NPO	・生涯教育センター ・10グループ
5 (9月)	ボランティア講座2 「きらきらいキキキ ○町ちょボラ隊」	○実技（グループごとのボランティア体験） ・海岸、鳴り砂清掃 ・花いっぱい運動 ・老人ホーム、学校清掃	・プラチナ工房 ・町民課 ・地元NPO ・老人ホーム、各学校	・現地集合、一部バス送迎 ・10グループ ・プラチナ工房との事前打ち合わせ
6 (10月)	若者講座 「知って得する若者くん」	○パネルディスカッション（「うまいくの!?!三代」高校生vsおやじ世代vsさくら大学生） ○講義（「三代、うまいくんです〜う!」） （I大学教授）	・高校 ・実業団（40～50代） ・I大学	・生涯教育センター ・コーディネーター、パネリスト等との打ち合わせ
7 (11月)	交流・スポーツ講座 「孫になんか負けないぞ!」	○実技 ・ニュースポーツ（ペタンク、グランドゴルフ等） ・昔遊び（独楽回し、竹馬、お手玉等） ・フォークダンス	・体育指導員 ・小学校 ・保健師	・小学校 ・10グループ ・健康チェックコーナー
8 (12月)	趣味講座2 「腕自慢集まれ」	○実技 ・手芸、陶芸、パソコン、料理、書道、絵画、彫刻等	・さくら大学博士院 ・サークル活動者 ・食生活改善員 ・一般企業	・生涯教育センター ・グループ（自由選択）

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
9 (1月)	趣味講座3 「腕自慢集まれ」	○実技 ・手芸、陶芸、パソコン、料理、書道、 絵画、彫刻等	・さくら大学博士院 ・サークル活動者 ・食生活改善員 ・一般企業	・生涯教育センター ・グループ（自由選択）
10 (2月)	ふりかえり講座 「キャリアアップ 終業式」	○グループ討議（「さくら大学を振り返って」） ・自己評価 ・学んだことを今後どう生かすか。 ○修了証・皆勤賞授与 ○オリエンテーション ・さくら大学博士院入学説明 ・実行委員応募について ○講話 さくら大学学長	・さくら大学運営委員 ・保健師	・生涯教育センター ・作品・活動風景展示「見て見ておらほの力作を！」 ・健康チェックコーナー

※ 前年度に、企画への参画を募集して運営委員会を組織し、高齢者自身による課題の発掘に努める。

※ 人間関係が偏らないように、第4回講座よりグループ編成を配慮する。

※ さくら大学博士院への入学は、さくら大学修了生を原則とする。

## 第6節 生涯スポーツ振興計画

<分析シート1>

### S市生涯スポーツ振興計画

#### 1 S市の概要

##### (1) 地勢・地域条件等

- ① C県の北東部に位置し、T川を挟んでI県と接する伝統的な町並みが残る商業都市である。
- ② 人口は平成17年2月現在、47,695人（男23,577人、女24,118人）、世帯数は15,840世帯である。
- ③ T都から70km圏、N空港から15km圏に位置している。

##### (2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 産業構造は、平成12年度国勢調査時、第3次産業（65.1%）の占める割合が最も高く、続いて第2次産業（24.7%）、第1次産業（9.7%）となっている。
- ② 10年間は人口、世帯数ともほぼ横ばい状態で、一世帯平均3.13人である。（平成15年度）

##### (3) 教育・文化的環境

###### ◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	5 (12)
小 学 校	14 (うち分校2)
中 学 校	5
高 等 学 校	3
大 学 ・ 短 大	0
専 門 学 校	0

###### ◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数	種 別	数
市民体育館	1	コミュニティーセンター	1
市民プール	1	公 民 館	1
野 球 場	4	図 書 館	1
テニスコート	3		
運動広場（多目的）	2		
民間スポーツクラブ	2		

###### ◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 市民のスポーツ活動の拠点となる中核スポーツ施設の整備・拡充を図りながら、生涯スポーツ振興を進めている。
- ② 平成17年度インターハイ（ハンドボール男子）の会場となり、施設整備、選手強化を進めている。
- ③ 高齢化社会の到来とともに、各年齢層に応じたのスポーツを楽しむ生涯スポーツの意識が高まっている。
- ④ 市民の多様なニーズに応えるため、市教育委員会主催のスポーツ教室等は、民間スポーツクラブと連携して開催している。



2 生涯スポーツ振興の現状と課題

区分	施策	現 行 の 事 業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
競技スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種スポーツ大会の開催やスポーツ施設の充実を図る。</li> <li>全国大会に出場することを目的とし、競技力の維持・向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者養成講座の開催（社会教育課）</li> <li>スポーツ優秀選手表彰（社会教育課）</li> <li>学校施設開放（社会教育課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種競技大会（体育協会活動）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①競技力を維持・向上させるための施設が充実していない。</li> <li>②どのような指導者がいるか、どのようなサークル活動がされているか、把握されていない。</li> <li>③指導者や団体の十分な情報提供がされていない。</li> <li>④組織的な指導者の養成が十分にされていない。</li> <li>⑤一貫した指導体制が確立されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①重点競技を定め、強化に努める。</li> <li>②指導者や団体の情報の収集と整備を行う。</li> <li>③指導者や団体の情報収集と整備をした上での情報提供を行う。</li> <li>④著名な選手指導者を招へいし、講習会を開催する。</li> <li>④⑤日本体育協会の資格制度、指導者養成、講習等を紹介し、啓発を図る。</li> <li>②③④⑤体育協会の活用、委託の仕方の見直しを図る。</li> </ul>
健康スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつでも、どこでも、だれもがスポーツ活動に参加できる、各種スポーツ大会の開催やスポーツ施設の充実を図る。</li> <li>高度化し多様化する市民のスポーツニーズに対応するため、スポーツ団体との連携はもとより、積極的な振興策を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種健康スポーツ講座の開催（社会教育課）</li> <li>指導者養成講座の開催（社会教育課）</li> <li>スポーツ教室（公民館）</li> <li>学校施設開放（社会教育課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域交流大会母集団研修会（スポーツ少年団活動）</li> <li>市民スポーツレクリエーション大会（体育協会活動）</li> <li>新春歩け歩け会（スポーツ普及委員会）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①事業がマンネリ化している。</li> <li>②どのような指導者がいるか、どのようなサークル活動がされているか把握されていない。</li> <li>③指導者や団体の十分な情報提供がされていない。</li> <li>④組織的な指導者の養成が十分にされていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①明確な方向性から事業の計画の見直しを図る。</li> <li>①②③④体育協会の活用、委託の仕方の見直しを図る。</li> <li>②③指導者や団体の情報の収集と整備を行う。</li> <li>④指導者や団体の情報収集と整備をした上での情報提供をする。</li> </ul>
世代間交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ・レクリエーションを通じた、世代間等様々な人々との交流事業を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世代間交流事業の開催（社会教育課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民スポーツレクリエーション大会（体育協会活動）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①参加者が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①市民意識の啓発を図る。</li> <li>①魅力あるプログラムの展開を図る。</li> </ul>
総合型地域スポーツクラブ	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合型地域スポーツクラブ設立のための基盤整備を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラブマネージャー養成講習会の案内（社会教育課）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>①総合型地域スポーツクラブに対する認識や理解が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①総合型地域スポーツクラブに対する認識と理解を深める方法として研修会等を開催する。</li> </ul>

IV 年間事業計画（平成17年度生涯スポーツ振興事業計画）

(1) 社会教育目標	個性を生かし地域文化を創造しよう。
(2) 生涯スポーツ振興目標	一人ひとりが輝けるスポーツライフを実現しよう。
(3) 社会教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつでも、どこでも、だれでも自由に学習できるまちづくりを推進する。</li> <li>・郷土理解を深め、歴史と文化を大切にしたまちづくりを推進する。</li> <li>・生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現を目指す。</li> </ul>
(4) 生涯スポーツ振興行政目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々が好きなスポーツに親しみながら、健康づくり、体力づくり、生きがいづくりを目指す。</li> <li>・S市の顔となるスポーツを育成する。</li> <li>・スポーツを通して世代間の交流を深める。</li> <li>・総合型地域スポーツクラブの育成を目指す。</li> </ul>

(5) 生涯スポーツ振興年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
競技スポーツ	ジュニアスポーツ教室（新規）	①競技種目の基礎練習と競技選手になれる基礎体力の増強を図る。	①ハンドボール、柔道（2種目）を実施する。	小学生（4～6年）25名	6ヶ月 週1回 全24回	150	①体育協会と各競技団体との連携を図る。
	ジュニアチャンピオンズスポーツクラブ（新規）	①全国大会等での入賞を目標に、重点種目を定め強化を行う。	①ハンドボール、柔道（2種目）を実施する。 ②優秀指導者・チームを招へいする。	小学生（5～6年） 中学生 30名	通年	300	①体育協会と各競技団体との連携を図る。
	指導者養成講座（継続）	①中央講師を招いて、指導者の資質向上を図る。	①トレーニングと栄養についての講習会を開催する。	スポーツ関係 団体指導者 30名	年2回 (10月、2月)	120	①体育協会と各競技団体との連携を図る。
	スポーツ優秀選手表彰（継続）	①表彰を通して選手のスポーツ活動への意欲を高める。	①全国大会等で優秀な成績をおさめた者を表彰する。	在勤在学在住者	年1回 (1月)	120	①体育協会、小中高等学校との連携を図る。
	学校施設開放（継続）	①学校体育施設を開放することで市民にスポーツをする場を提供する。	①市内全小中学校の体育施設を無料開放する。	市民	通年	0	①学校との連携を図る。
健康スポーツ	スポーツ教室（継続）	①様々なスポーツを体験し、スポーツの楽しさを体験する機会を提供する。	①親子ボーリング、フットサル、乗馬、小学生水泳教室、軽運動を実施する。	在勤在学在住者 25名	年6講座 全24回	120	①民間スポーツクラブとの連携を図る。
	はつらつ元気塾（新規）	①高齢者を対象に年間を通じて運動に親しみ、健康づくり・体力づくり・生きがいづくりを目指す。	①身体体力測定、健康診断を実施する。 ②転倒予防体操、軽運動を実施する。	高齢者 30名	5ヶ月 月2回 全10回	60	①保健センターと連携を図る。
	学校施設開放（継続）	①学校体育施設を開放することで市民にスポーツをする場を提供する。	①市内全小中学校の体育施設を無料開放する。	市民	通年	0	①学校との連携を図る。

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
健康スポーツ	大会イベント S町並み健康ウォーク (新規)	①ウォーキングを通してS市の自然や文化を再発見する機会を提供する。	①ウォーキングを実施する。	全市民 100名	年1回 (5月)	50	①体育協会、体育指導員との連携する。 ②救急体制には十分配慮する。
	大会イベント 新春歩け歩け会 (継続)	①ウォーキングを通して、地元の伝統文化に触れる機会を提供する。	①伝統行事の見学を兼ねたウォーキングを実施する。	全市民 100名	年1回 (1月)	0	①スポーツ普及委員会との連携を図る。
世代間交流	大会イベント 市民スポーツレクリエーションフェスティバル (継続一部新規)	①スポーツを通じて住民相互の親睦を図り、あわせて市民のスポーツレクリエーションの祭典とする。 ②各スポーツ関係団体活動の発表の場を提供し、もって各団体の活動の活性化を図る。	①種目別大会でヘルスパレーボール、綱引き、長縄跳び、グランドゴルフ、輪投げ、ユニカーを実施する。 ②交流大会でペタング、グランドゴルフ、キンボールを実施する。 ③スポーツ活動発表をする。	小学生～高齢者 100名	年1回 (10月)	0	①体育協会と連携する。 ②救急体制には十分配慮する。
総合型地域スポーツクラブ	研修会 総合型地域スポーツクラブ育成 研修会 (新規)	①総合型地域スポーツクラブの必要性について理解を深めるとともに課題を明確にする。	①市内スポーツ関係団体に対する研修会を開催する。	市内スポーツ 団体関係者 50名	年3回 (6月、11月、 2月)	50	①体育協会と体育指導員との連携を図る。

V 生涯スポーツ振興学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	はつらつ元気塾	
(2) 事業の目的	高齢者を対象に年間を通じて運動に親しみ健康づくり・体力づくり・生きがいづくりを目指す。	
(3) 実施主体	S市教育委員会社会教育課スポーツ振興班	
(4) 対象者・定員	おおむね65歳以上でこれからスポーツをしてみたい方・30名	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	5月～6月 9月～11月	1回の学習時間 2時間×10回
(6) 学習場所	S市市民体育館ほか	
(7) 学習目標	① 自分の体力の現状を知り、運動に親しみ健康で生き生きとしたスポーツライフを送れるようにする。 ② 運動を通して、何事に対しても積極的に取り組む気持ちを身につける。 ③ 様々な活動を通して、仲間との交流を深める。	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
第1回 5月	みんなで仲良く活動しよう！	①開講式 ・オリエンテーション ②講義：「健康とスポーツ」 ③健康診断 ・問診、身体測定、血圧、血液検査、尿検査、視力、聴力の検査をする。 ④アイスブレイキング	②大学教授 ③医師、看護師 ④体育指導員 ・教育委員会 ・保健師	○事業全体のねらいと展開についての周知を行う。 ○学習者の健康管理体制について配慮するとともに、自己管理に努めるよう指導する。 【教材・教具】 音響機器
第2回 5月	楽しく体力テスト	①実習：体力テスト （文部科学省新体力テスト） ・握力、上体起こし、長座体前屈、閉眼片足立ち、10m障害物歩行、6分間歩行の体力テストを実施する。 ②実習：転倒予防体操 ・脚力アップ、バランス保持を目的とした体操を行う。	①②スポーツ指導員 ・教育委員会 ・保健師	○音楽を流すなど、楽しんで体力テストが出来るよう配慮する。 ○転倒予防体操は毎回行う。 【教材・教具】 テストに必要な用具 音響機器
第3回 6月	タオルで体操してみよう	①実習：タオルを使った体操 ・関節可動域をひろげる体操をタオルを使って行う。 ②実習転倒予防体操 ・脚力アップ、バランス保持を目的とした体操を行う。	①②スポーツ指導員 ・教育委員会 ・保健師	【教材・教具】 タオル 音響機器
第4回 6月	水中をゆかいに歩こう	①実習：水中ウォーク ・水中を様々な動作で歩く。 ②実習：転倒予防体操 ・脚力アップ、バランス保持を目的とした体操を行う。	①Lスポーツクラブ指導員 ②スポーツ指導員 ・教育委員会 ・保健師	○会場：Lスポーツクラブ 【教材・教具】 水着
第5回 9月	簡単リズムで脂肪とさよなら	①実習：リズム体操 ・脂肪燃焼を目的に、音楽に合わせて体操を行う。 ②実習：転倒予防体操 ・脚力アップ、バランス保持を目的とした体操を行う。	①②スポーツ指導員 ・教育委員会 ・保健師	○学習者の健康状態に留意する。 【教材・教具】 音響機器

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
第6回 9月	リズムに合わせて水中で踊ろう	①実習：水中エアロビクス ②話し合い：参加者による運動会のプログラム立案・企画 ・3グループに分かれて大運動会にむけて、1グループで1種目内容を企画・立案する。	①Lスポーツクラブ指導員 ・教育委員会 ・保健師	○会場：Lスポーツクラブ ○学習者が事業に参画するのを支援する。 【教材・教具】 水着 音響機器
第7回 10月	秋を満喫！さわやかウォーキング！	①ウォーキング ・史跡を巡り、文化に触れながらウォーキングを実施する。 ②実習：転倒予防体操 ・脚力アップ、バランス保持を目的とした体操を行う。 ③話し合い：参加者による運動会のプログラム立案・企画 ・3グループに分かれて大運動会にむけて1グループで1種目内容を企画・立案する。	①文化財主事 ②スポーツ指導員 ・教育委員会 ・保健師	○会場：S市内ウォーキングコース ○安全確保、救急体制について留意する。 ○学習者が事業に参画するのを支援する。 【教材・教具】 筆記用具 昼食
第8回 10月	ステップ運動で足腰元気！	①実習：ステップ運動 ・誰にでも簡単にできるスキップやステップ運動を行う。 ②実習：転倒予防体操 ・脚力アップ、バランス保持を目的とした体操を行う。 ③話し合い：参加者による運動会のプログラム立案・企画の確認 ・大運動会にむけての企画・立案内容を確認し、準備を行う。	①②スポーツ指導員 ・教育委員会 ・保健師	○学習者が事業に参画するのを支援する。 【教材・教具】 音響機器
第9回 11月	秋だ！はつらつ大運動会	①学習者企画の運動会 ・各グループで企画した種目を含めてグループ対抗で実施する。	①スポーツ指導員 ・教育委員会 ・保健師	○学習者の健康状態に留意する。 【教材・教具】 種目に応じた用具
第10回 11月	輪になって話そう	①実習：体力テスト (文部科学省新体力テスト) ・握力、上体起こし、長座体前屈、閉眼片足立ち、10m障害物歩行、6分間歩行の体力テストを実施する。 ②ワークショップ：ふりかえり ・5人くらいのグループで話し合いを行う。 ・グループごとに発表会をする。 ③閉講式	①スポーツ指導員 ・教育委員会 ・保健師	○学習者の健康状態に留意する。 ○参加者の意見や感想を聞くことにより適切な事業評価を行う。 【教材・教具】 テストに必要な用具 筆記用具

# 第7節 環境教育計画

<分析シート1>

## MD市環境教育計画

### 1 MD市の概要

#### (1) 地勢・地域条件等

- ① C県の北西部、都心より20km圏に位置し、首都圏の典型的な住宅都市として発展してきた。
- ② JR線が市の市街西部をほぼ南北に走り、これを境にE川に至る低地とS台地の一部に属する起伏の多い台地とに分割されている。
- ③ 人口は現在約47万人である。近年は、地域の大規模開発もなく、人口流入も抑制されつつある。

#### (2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① MD市は市域の約72%が市街化され、多くが住宅地として利用されている。そのため、緑地とオープンスペースが少ない。
- ② 家庭内のゴミ分別や節電に対する住民の意識が高い反面、ゴミのポイ捨てなどモラルの低下が見られる。
- ③ 市民生活に直接係わりのあるごみ処理施設の整備を中心とした生活環境整備と清掃事業が推進されてきた。

#### (3) 教育・文化的環境

##### ◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	40 (49)
小 学 校	47
中 学 校	21
高 等 学 校	10
大 学 ・ 短 大	4
専 門 学 校	18

##### ◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
公 民 館（分館を含む）	20
青少年会館	2
図 書 館（分館を含む）	20
市民会館・ホール・劇場	3
博物館・歴史館	2
スポーツ施設	19

##### ◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 市内に20の公民館と3の市民会館等を整備し、地域のコミュニティ活動の拠点として生涯学習を振興している。
- ② 環境教育については、主に環境計画課及び学校教育課を中心に推進している。
- ③ 市民がゆとりや生きがいを実感できるように、市民の文化活動への参加を積極的にすすめるとともに、優れた文化・芸術に気軽に親しめる機会を提供するなど、文化ホールや市民会館を活用した文化活動のための環境を整えている。
- ④ 人権尊重都市宣言を行い、一人一人の人権が尊重される社会を目指して、積極的に取り組んでいる。

2 環境教育の現状と課題

区分	施策	現 行 の 事 業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコロジーに対する消費者の意識の向上を図る。</li> <li>・生活排水やゴミの減量化・資源化を推進する中で、環境意識の向上を図る。</li> <li>・住民に緑を育てる心を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近なことから始めてみませんか（講座）（社会教育課）</li> <li>エコロジー講座</li> <li>身近な地球温暖化防止対策講座（公民館）</li> <li>緑のまちづくりに向けて（講座）（公民館）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴミ減量啓発・促進事業（環境計画課）</li> <li>花いっぱい運動（みどりと花の課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般に周知されておらず、一部の参加者にとどまっている。</li> <li>・家庭から出るゴミの分別化はできているが、地域における実践に繋がっていない。</li> <li>・参加者だけの楽しみに終わり、市全体への広がりが見られない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所等からの協力を得る。</li> <li>・インターネット等を使って情報を発信する。</li> <li>・NPOや関係機関との連携の中で、市全体として取り組む。</li> <li>・花作り講座の開設</li> <li>・住民参加コンクールの創設</li> </ul>
地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散乱ゴミを出さない住民の意識づくりを行う。</li> <li>・地域ゾーンの特色にあわせた緑化を推進する。</li> <li>・豊かな自然が残る魅力ある河川の保全の大切さを啓発する。</li> <li>・トンボや蛙などが生息する水辺環境を創造する。</li> <li>・安全で快適な地域づくりを目指す住民の意識を高めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>貝塚を考える（教室）（社会教育課）</li> <li>環境情報の提供（広報・冊子・ネット）</li> <li>講演会・観察会の開催（社会教育課）</li> <li>地域生態学入門（講座）（社会教育課）</li> <li>市内巨樹古木ツアー（教室）（社会教育課）</li> <li>竹炭づくり（教室）（社会教育課）</li> <li>リーダーキャンプ（公民館）</li> <li>水生生物による河川調査（調査）</li> <li>自然環境講座（公民館）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>E川クリーン作戦（環境計画課）</li> <li>水辺環境整備（環境計画課）</li> <li>環境ボランティア活動への参加（環境保全課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者に必要な情報が手に入りにくい。</li> <li>・単発的の事業であるので、一過性であることが多い。</li> <li>・参加者の目的意識がそれぞれ違うことが多く、参加者が限られている。</li> <li>・調査活動に終わることが多く、次の活動に発展することが少ない。</li> <li>・首長部局との連携体制がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H Pのコンテンツの内容充実を図る。</li> <li>・学習者のニーズに合った情報提供をする。</li> <li>・博物館等と連携した総合的講座の企画</li> <li>・広報の充実</li> <li>・ボランティアリーダーの養成</li> <li>・調査結果の2次、3次的利用の促進</li> <li>例) ホームページの作成</li> <li>データを生かした講座の開設等</li> </ul>
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に対して豊かな感性や周囲の環境を保全しようとする態度を育てる。</li> <li>・環境問題や環境に対する人間の責任や使命について理解を深める。</li> <li>・環境問題を解決するための技能を身につけ、自分でできることを実行したり、情報を発信したりする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>林間学校(学校教育)</li> <li>環境チェックノート(環境計画課)</li> <li>小中学校合同S川調査(学校教育課)</li> <li>「わたしたちの環境」</li> <li>・「身近な自然」冊子配布(学校教育課)</li> <li>・子どもエコクラブ育成事業(環境省)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習スタート時でのつまずきから継続が難しい。</li> <li>・子ども達の主体的活動のため、時間がかかる。</li> <li>・現状と内容の食い違いがある。</li> <li>・エコクラブサポーターの不足</li> <li>・学社連携・融合による取り組みが不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェックノートの柔軟な活用方法を周知する。</li> <li>・継続調査を行う。また、調査対象河川を拡大する。</li> <li>・現状に合わせた内容に改訂する。</li> <li>・サポーター養成講座の開設</li> <li>・ビオトープづくりを通して、水辺環境の保全のための実践力を身につけさせる。</li> <li>・NPOや民間等関係団体との連携を図る。</li> </ul>
企業・団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存エネルギーの見直しを行い、環境意識の向上を図る。</li> <li>・エコエネルギーやリサイクルの利用を促進する。</li> <li>・地域環境づくりへの積極的参画を促す。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>エコオフィス行動プラン(環境計画課)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業毎の取り組みが把握されていない。</li> <li>・企業が地域と結びついた学習機会がない。</li> <li>・企業との連絡協議会等の連絡機関が設置されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の取り組みを調査し、把握する。</li> <li>・企業等のリーダーのエコマインド養成講座を充実させる。</li> <li>・公民館等と共催して学習機会を提供する。</li> <li>・PR館を活用した事業を行う。</li> </ul>

IV 年間事業計画（平成17年度環境教育事業計画）

(1) 社会教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ習慣を身につけた市民を目指そう。</li> <li>・自ら問題を見つけ、解決する力を身につけた市民を目指そう。</li> </ul>
(2) 環境教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を理解し、自らの役割のなかで環境と調和した生活を築こう。</li> <li>・自然を大切にし、その出会いを喜びと感じる豊かな心を育てよう。</li> <li>・身の回りの環境を振り返り、よりよい環境づくりに努めよう。</li> <li>・「地球市民」として、環境問題に積極的に取り組もう。</li> </ul>
(3) 社会教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯にわたる学習活動を推進する。</li> <li>・家庭・地域の教育力回復の施策を推進する。</li> <li>・学習機会・場、情報提供の充実を図る。</li> <li>・地域文化の保護・継承・創造に向けた支援を行う。</li> <li>・人権意識の高揚を図る。</li> </ul>
(4) 環境教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境政策への住民参画体制を整備する。</li> <li>・環境を配慮した生活や事業活動の実践を促進する。</li> <li>・環境ボランティア育成に努める。</li> <li>・独自の取組を実践するための地域活力を増進する。</li> <li>・庁内各部門の環境政策への参画と環境実績を確保する。</li> <li>・環境推進体制の整備と評価システムづくりに努める。</li> </ul>

(5) 環境教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
総合	3つのRでゴミを減らそう	ゴミ減量、資源化に関する広報活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスター、パンフレットの作成、配布</li> <li>・マスコミ等を使った広報活動</li> </ul>	市民一般	年間	1,000	環境計画課 社会教育課 共催
	環境・リサイクルフェスティバル	地球環境保護の視点に立ち、循環型社会の構築を目指して、その啓発・推進を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコ商品づくり体験</li> <li>・環境エコカーの試乗会</li> <li>・おもちゃの病院</li> <li>・記念講演会</li> <li>・環境エネルギー展</li> <li>・MD市の自然写真展</li> </ul>	市民一般	年1回 2月	5,000	首長部局 各関連部局
	花いっぱい運動	花いっぱい運動を通して、環境美化への意識の高揚を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苗、土づくり講座</li> <li>・ガーデニング教室</li> <li>・花いっぱいコンクール</li> </ul>	市民一般	年間	2,000	社会教育課 みどりと花の課共催 コンクール：6月開催
	市民大散歩会	MD市の環境に触れ、自然に親しむ心を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民大散歩会</li> </ul>	市民一般	9月	500	環境計画課 健康福祉課 共催
成人	「これがわたしのおすすめびゅ～」をつくろう！	環境学習やマップづくりを通して、環境保全や改善への関心を高め、実践力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地調査</li> <li>・マップ作成</li> <li>・ウォークラリー</li> <li>・ワークショップ</li> </ul> ※事業終了後市民大散歩会に向けての準備（環境マップを使って）	成人 50人	5～8月 全10回 2～3h	300	環境計画課 河川清流課 社会教育課 共催 各環境施設



区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
成人	エコエコ・ママ&パパ (地域のママとパパです)	エコロジーに係わる講座を通して、環境保全への意識の高揚と実践力を養う。	・エコ商品の紹介 ・エコッキング教室 ・リサイクル商品の開発	成人 40人 男女性各20人	2ヶ月 5回 2h	50	社会教育課 消費者友の会共催
	あなたの姿が 手本です	環境問題解決のためのリーダーを養成する。	・環境全般に関する講話 ・ワークショップ ・ボランティア活動の実践	成人 20人	2ヶ月 5回 2h	50	社会教育課 子育てNPO
	大人のための ビオトープづくり	自然と共生した生活を目指し、地域の環境に配慮した態度を養う。	・ビオトープづくり ・観察(動植物の環境変化) ・手入れ	成人	年間	500	環境計画課 社会教育課 共催
	ゴミはどこへ?	ゴミ処理の方法の実体を知り、環境問題への関心を高くさせる。	・ゴミ処理について学ぶ(昔と今) ・焼却場、処分場見学	成人 50人	2ヶ月 4回	50	環境計画課 社会教育課 共催
青少年	MDクリーン アップキャンペーン	新しく施行された「安全で快適なまちづくり条例」の普及を図る。	・ボランティア募集 ・ノーボイ運動 ・街頭キャンペーン	成人50人 (ボランティア)	4月1日～ 4月7日	130	環境計画課 社会教育課 共催 各関連部局
	チャレンジ ・マイ・リ ヴァーinM D市	野外活動を通して、自然に親しみ、河川の浄化と愛護に努める心を育てる。	・動植物についての学習 ・河川流域環境調査 ・探検ツアー	小中学生 40人	3ヶ月 7回 2h	100	河川清流課 社会教育課 学校共催
企業・団体	かんきょう をチェック するノート	よりよい環境づくりをしようとする態度を育てる。	・チェックノート配布 ・生活環境の自己評価	市内小学5 年生	年1回配布	60	学校教育課 環境計画課 共催
	企業環境奨 励制度	企業・団体の環境への取り組みに対する奨励制度の整備を行う。	・奨励制度の創設	企業・団体	年間	500	環境計画課 商工観光課 社会教育課 共催
企業・団体	エコ・マイ ンド講座	環境について幅広い視野を持ち、環境学習についてのリーダーを養成する。	・地球環境・環境保全活動についての学習 ・自然観察・水質調査等の体験活動 ・プログラム作成・体験	地域、企業・ 団体のリー ダー 30人	年8回 5～2月 2h	100	民間事業者 環境計画課 社会教育課 共催

V 環境教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	「これがわたしのおすすめびゅ～」をつくろう！	
(2) 事業の目的	環境学習やマップづくりを通して、環境保全や改善への関心を高め、実践力の向上を図る。	
(3) 実施主体	環境計画課、河川清流課、社会教育課共催	
(4) 対象者・定員	成人・50人	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	5月～8月	1回の学習時間 2～3時間×10回
(6) 学習場所	博物館、図書館、MD市内各所（公民館・分館含む）	
(7) 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境学習やマップづくりを通して、環境保全や改善への関心を持つ。</li> <li>・環境改善の実践を身につけよう。</li> </ul>	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1	MDの自然Ⅰ いまとむかし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開講式（オリエンテーション）</li> <li>・アイスブレイキング（グループ分けを行う）</li> <li>・講座（MD市の50年前と今の自然環境全般）</li> <li>・ふりかえり（感想発表、環境チェック）</li> </ul>	環境計画課職員 社会教育主事 博物館職員	博物館 視聴覚機器等 環境チェックカード （1～5回使用） 2h
2	MDの自然Ⅱ 野鳥ウォッチング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座（MD市の野鳥を中心に）</li> <li>・ふりかえり（感想発表、環境チェック）</li> </ul>	MD野鳥の会会長 社会教育主事	博物館 視聴覚機器等 2h
3	MDの自然Ⅲ 身近な草木を見に行こうよ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座（MD市の植物を中心に）</li> <li>・ふりかえり（感想発表、環境チェック）</li> </ul>	C大学園芸学部教授 社会教育主事	博物館 視聴覚機器等 2h
4	MDの自然Ⅳ だれがわたしをくるしめるの？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座&amp;参加体験型学習（MD市の生活公害について：水質、騒音、大気汚染etc） （参加体験型学習は水質について行う）</li> <li>・ふりかえり（感想発表、環境チェック）</li> </ul>	C県環境研究センター職員、 環境ボランティア 社会教育主事	博物館 視聴覚機器等 水槽等実験セット 2h
5	22世紀の森と広場でミニミニマップをつくろう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワーク（現地にて）</li> <li>・模擬マップ作成（現地にて）</li> <li>・ふりかえり（感想発表、環境チェック）</li> </ul>	環境計画課職員、 河川清流課職員、 森と広場ボランティア、 生き物調査調査員	22世紀の森と広場 デジカメ、 3h
6	おすすめマップづくりⅠ 環境びゅ～ポイントを決めよう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ協議 （希望により3～6のエリアに分かれ調査を行う場所、内容、手順、方法等を決定する）</li> </ul>	環境計画課職員、 社会教育主事	博物館 参考資料「生きもの調査報告書」 3h
7	おすすめマップづくりⅡ びゅ～ポイントの蟻ん子隊調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワーク（グループ毎に現地にて）</li> <li>・現地調査</li> </ul>	環境計画課職員、 河川清流課職員、 環境ボランティア、 町内会長	MD市内各所 デジカメ、MD市マップ 3h
8	おすすめマップづくりⅢ バードびゅ～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワーク（グループ毎に現地にて）</li> <li>・調査のまとめ</li> </ul>	環境計画課職員、 河川清流課職員、 環境ボランティア、 町内会長	MD市内各所 デジカメ、MD市マップ 3h
9	おすすめマップづくりⅣ ビストロびゅ～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マップ作成 （地図、コメント、写真を工夫しながら作成する）</li> </ul>	環境計画課職員、 環境ボランティア	図書館 3h
10	これがわたしのおすすめびゅ～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会（マップ）</li> <li>・ワークショップ （環境チェックカードをもとにして～環境に対する気づき～）</li> <li>・閉講式</li> </ul>	環境計画課職員、 社会教育主事 他講座等学習支援者	博物館 環境チェックカード 視聴覚機器 3h

※ 事業終了後市民大散歩会に向けての準備（環境マップを使って）

VI 学習展開計画（展開プログラム）

(1) 事業名	「これがわたしのおすすめびゅ～」をつくろう！	第4回（6月4日 金曜日）
(2) 学習テーマ	MDの自然Ⅳ ～だれがわたしをくるしめるの？～	
(3) 学習目標	身近な環境問題について関心を持つとともに、自分の生活が環境にどうかかわっているかを理解する。	

<p>(4) 準備するもの（チェックリスト）</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 色つきシール</td> <td><input type="checkbox"/> 水槽等実験セット</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 旗</td> <td><input type="checkbox"/> アンケート用紙</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> レジュメ</td> <td><input type="checkbox"/> マジック</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> プロジェクター</td> <td><input type="checkbox"/> 新聞紙</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> パソコン</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 模造紙</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 付箋紙</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> はさみ</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/> 色つきシール	<input type="checkbox"/> 水槽等実験セット	<input type="checkbox"/> 旗	<input type="checkbox"/> アンケート用紙	<input type="checkbox"/> レジュメ	<input type="checkbox"/> マジック	<input type="checkbox"/> プロジェクター	<input type="checkbox"/> 新聞紙	<input type="checkbox"/> パソコン	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 模造紙	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 付箋紙	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> はさみ	<input type="checkbox"/>	<p>(5) 会場図</p>
<input type="checkbox"/> 色つきシール	<input type="checkbox"/> 水槽等実験セット																
<input type="checkbox"/> 旗	<input type="checkbox"/> アンケート用紙																
<input type="checkbox"/> レジュメ	<input type="checkbox"/> マジック																
<input type="checkbox"/> プロジェクター	<input type="checkbox"/> 新聞紙																
<input type="checkbox"/> パソコン	<input type="checkbox"/>																
<input type="checkbox"/> 模造紙	<input type="checkbox"/>																
<input type="checkbox"/> 付箋紙	<input type="checkbox"/>																
<input type="checkbox"/> はさみ	<input type="checkbox"/>																

(6) 展 開

展開	時間	学 習 活 動	学習支援者	留 意 点	備 考
導 入	10	1 アイスブレイク ①「同じ色に集まれ!!」 ・コミュニケーションとグループ分け  ②「旗揚げアンケート」 ・身近な環境についての質問し、学習の下地を作る。	社会教育主事	・コミュニケーションがうまく取れない人はいないか注意する。  ・身近な質問からはじめて、環境に関する質問を行い講義につなげる。	[会議室] 色つきシール  旗（グループ数分）
	50	1 講義・演習 ①講義「C県の環境問題」  ②演習「O川の水質検査」 学習支援者の説明にしたがって、各グループごとに水槽実験を行う。 最後に、学習支援者からのまとめの話をを行う。	C県環境研究センター職員  環境ボランティア	・レジュメの配布と機器の動作確認を行っておく。  ・グループ内で演習に参加できない人がいないか注意する。 ・演習中に薬品等の取り扱いに注意を促す。	レジュメ、プロジェクター、パソコン  水槽等実験セット
展 開	25	2 話し合い 「身近な生活公害について考える」 ～日常生活の中で環境を汚染しているものは何でしょう～ ①グループ内自己紹介、役割分担 ②KJ法による問題点の抽出	社会教育主事	・話し合いのポイントを板書して明示する。 ・巡回して必要に応じて助言する。	模造紙、マジック、付箋紙、はさみ、新聞紙
	15	3 発 表 各グループごとに発表する。	社会教育主事 学習リーダー	・発表の視点を確認する。 ・発表する順番を参加者に決めてもらう。	
ま と め	10	1 ふりかえり ①この時間で考えたこと ②環境を守る日常生活とは	社会教育主事	・学習目標に関わる質問をし、気づきを促す。	
	5	2 次回の内容について	社会教育主事	・次回の学習に対して興味を持つようにする。	
	5	3 アンケート	環境ボランティア		アンケート用紙

## 第8節 人権教育計画

<分析シート1>

### K市T区人権教育計画

#### 1 K市T区の概要

##### (1) 地勢・地域条件等

① T区はK市域の西北端に位置し、その地形はT丘陵の一部とT川中流の右岸の沖積平野の部分からなっており、面積は20.39平方キロメートルである。  
N用水沿いの平坦な地域を中心にした梨畑などの農地とN線やO線沿線を中心にした住居系の市街地が形成されている。

② かつては広い田園地帯を形成していたが、現在は、T都に通勤する人たちの住宅地となっている。ただ、現在でも緑を多く残し、T川等の自然とともに、「水と緑を生かし育てる出会いと学びのまち」を目標としている。

##### ③ 人 口

T区の人口は、197,200人（男103,265人 女93,935人）で、世帯数は、91,916世帯である。うち外国人登録者数は、3,280人（1.7%）、障害者は、5,907人（3.0%）となっている。人口割合は、0～14歳は、13.1%、15～64歳は、74.8%、65歳以上は12.1%である。

（平成16年4月1日現在）

##### (2) 地域住民の生活状況の特徴

① T区住民は、隣接するT都に勤務している者が多く、また、T区はK市の農業の中心地区となっていながらも、都市化の進展が著しく、住宅地ということもあり、営農活動がしだいに困難になってきている。

② 複数の大学があるので、昼は学生の存在によって、町に活気が与えられている。

③ 平成12年「K市人権施策推進指針」が策定され、市民と行政が協働し実現に向けて各事業が展開されており、住民の人権意識も向上している。

##### (3) 教育・文化的環境

###### ◇ 学校等数（私立を含む）

種 別	数
幼稚園(保育所)	14 (10)
小 学 校	15
中 学 校	9
高 等 学 校	8
大学・短大	4
専 門 学 校	2

###### ◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
市 民 館	1
図 書 館	1
こども文化センター	8
老人いこいの家	7
美術館・博物館 等	7

###### ◇ 教育・文化的環境の特徴

① T区住民の生涯学習への関心は高く、人権意識も決して低くはないが、個々の具体的な取り組みという点ではまだ弱い。そこで「K市子どもの権利に関する条例」を全国に先がけて施行し、「人権オンブズパーソン」を設置している。

また、在住外国人が多いこともあり、識字教育に力を入れるなど市民の人権感覚を高める努力を続けている。

② 課題としては、上記のような活動への住民の参加率が低く、参加者も固定化していることである。

③ T区には、N民家園、青少年科学館、O美術館、M城址など各種施設を含む豊かな緑のM緑地や、Fパーク、Yランド、さらにはM大学、S大学、N女子大学などの文化・余暇・教育施設が存在しており、文教地区としての環境は整っている。

2 人権教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
啓発・広報	○人権問題に関する多様な情報を提供し、人権問題に関する学習意欲向上に努める。	・ビデオ貸し出し (市民館)	・冊子・広報誌 ・標語・ポスター ・ガイドブック (市民局 人権・男女共同参画室) (男女共同参画センター) (健康福祉局)	①広報が伝わっていないのかわからない。 ②啓発活動が固定化している。	①対象者(子ども・高齢者・在住外国人)を明確にした広報誌の作成 ②事業に関連させた啓発活動を実施する。
学級・講座	○高齢者、女性、子ども、障害者、外国人、同和地区出身者をはじめとした社会的弱者を人権問題の重要な柱として位置づけ、市民一人ひとりがその解決を目指すための学習機会と共生の場の提供に努める。	・識字学級 (生涯学習課) ・障害者青年教室 (生涯学習課) ・平和・人権学級 (市民館) ・男女平等推進学級 (生涯学習課) ・共学セミナー (生涯学習課) ・市民自主企画事業 (たまあそぼう会・世界のひろば)	・人権フォーラム (市民局 人権・男女共同参画室) ・日本語教室 ・外国語講座 (国際交流センター) ・起業家セミナー ・アサーショントレーニング (男女共同参画センター) ・生活能力訓練 (健康福祉局) ・T区ふれあい祭り (社会福祉協議会)	①国際理解を進めていく必要がある。 ②ボランティア間の意思統一が不十分 ③参加者の固定 ④参加者の開拓 ⑤家庭教育の充実 ⑥子ども向けの講座が少ない。 ⑦大学との連携強化	①在住外国人と市民との交流の場を増やすとともに、在日外国人同士の交流を促進するような場も増やす。さらに識字学級の指導者と学習者が相互に教え合えるようなシステムを構築する。 ②ボランティア研修の充実を図る。 ③参加しやすい身近な課題の設定 ④出前講座の実施 ⑤親子で参加できる講座の開設など特化したプログラムを実施する。 ⑥子どもたちが参加できる体験型の人権講座を実施する。 ⑦大学と連携したプログラムを設ける。
研修	○人権教育を推進するため、人権教育に関する深い認識、実践力を身につけた熱意ある指導者を養成・確保・指導力の向上を図る。	・識字ボランティア研修 (生涯学習課) ・障害者ボランティア研修 (生涯学習課) ・人権教育ファシリテーター養成研修 (生涯学習課)	・研修事業 (K市人権擁護委員協議会)	①ボランティアとしての心構えや意識、態度に温度差がある。 ②研修のねらいに学習者のレベルが到達しない。	①ボランティア自身の資質の向上を図るための学習機会を設ける。 ②専門的知識の習得のみならず人間性豊かな対応ができるような資質の向上を目指した研修プログラム作りを実施する。
相談・連携	○関係機関と連携した人権学習相談活動の確立・推進を図る。 ○大学との連携をめざす。	・学習相談 (市民館)	・K市人権オンブズパーソン制度 (K市人権オンブズパーソン) ・チャイルドライン (民間ボランティア団体) ・ハロー・ウィメンズ110番 (男女共同参画センター)	①学校との連携が弱い。 ②大学の資源活用ができていない。	①学社連携事業の開発を進める。 ②大学の施設活用や講座開催及び講師・学生ボランティア派遣の働きかけを行う。

IV 年間事業計画（平成17年度人権教育事業計画）

(1) 社会教育目標	すべての人々が、互いの個性や人格を尊重しあい、「差別」や「偏見」のない平和な「人権・共生のまちづくり」をすすめるよう。
(2) 人権教育目標	基本的な人権を尊重する精神を持ち、あらゆる差別の解消に努力する豊かな人間性あふれる市民となるための学習活動をすすめるよう。
(3) 社会教育行政目標	(1) 人権尊重と共生社会創造の精神に基づいて事業を行う。 (2) まちづくり・市民活動を支援し、あらゆる場面での市民参画と協働による市民自治の実現をめざす。 (3) 市民の自主的学習支援システムを構築するとともに、市民ネットワークづくりを推進する。
(4) 人権教育行政目標	(1) 人権思想の高揚とその普及啓発を行う。 (2) 相談機能の充実と自立支援体制の整備を図る。 (3) 市民の参画による人権関連施策の推進を図る。 (4) 市民・企業・自治体がともに取り組む人権尊重社会を構築する。

(5) 人権教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
啓発・広報	人権啓発広報活動	人権問題を身近な問題として捉えてもらうとともに、人権意識の高揚を図る。	冊子・広報誌・リーフレット・ポスター ※内容に応じて、子ども・家庭・外国人等配布対象別に作成する。	市民	随時	4,800	市長部局 予算
	たまたまウォーク	人権に関する事業やそれを行っている関連施設を訪れ、幅広い年齢層への様々な人権問題の意識啓発を図る。	人権ウォークラリー（住民参加型学習） ※人権フォーラムとの関連事業	市民 500名	年度当初 1回	400	賞品を美術館、博物館の入場券とする。
学級講座	識字学級 識字学級 国際理解講座	外国人市民等が日常生活に必要な日本語を身に着けるための学習を行うとともに、多様な文化をもつ市民がともに生きる地域社会の実現をめざす。	日本語学習を通して学習者と学習支援者（ボランティア）が学びあうとともに、互いの文化への理解を深める。	外国人市民等 昼・夜 各80名	年40回 (昼・夜)	1,000	
	平和・人権教育 人権カンガルー講座	親子で参加できる体験型の人権講座を実施し、人権尊重の精神を養う。	平和について考える朗読劇、ロールプレイ等の疑似体験型学習などを通して、人権感覚を豊かにする。	区内の小学3・4年生とその保護者 20組	6～9月 7回	75	小学校と連携して、受講者を募る。
	平和・人権教育 ニューシネマ パラダイス講座	市民と大学生が共同で「人権啓発ビデオ」を制作することで、その主体的な制作・広報活動を通して、「人権啓発・意識高揚」をめざす。特に大学生と市民に呼びかけることで、双方の生涯学習推進への連携強化もめざす。	「人権啓発ビデオ」の制作スタッフ（監督・脚本・出演者等）を募集し、参加者が共同でビデオの企画、脚本づくり、撮影等の作品制作を行う。	市民 区内大学生 50名	夏期 38回	500	完成したビデオは、地域内の各小・中学校や図書館に配布し、大学においても上映する。
	障害者青年教室	グループ行動を通じて、仲間との結びつきを深め活動範囲を広げる。	メンバーとボランティアの交流を推進する。	区内の障害のある青年 40名	6回 (A・B)	150	

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
学級・講座	共学セミナー (ダンス・デ・コミュニケーション)	様々な動きを体験しながら、自己表現を楽しみ障害のある人もない人もともに学びあい新しい関係作りをする。	コミュニケーションダンスの練習と発表	15歳以上の知的障害のある人と区民各15名	10回	150	
	男女共生セミナー	男女平等に関わる人権意識を高め、男女ともに自立し、平等で快適に暮らしていくことをめざす。	講義とグループワークによる演習	市民 30名	10回	180	保育つき
研修	ボランティア養成講座 識字・障害者	人間性豊かな対応ができるような資質の向上を図る。	外国人市民や障害者の背景を学び、その人たちを支援するためのスキルを学ぶ。	市民 20名	年間各講座 20時間	300	市長部局予算
	人権教育 ファシリテーター養成研修	人権教育を推進するファシリテーターを養成する。	国際理解教育で扱う様々な概念を整理・体系的に理解できるようにするとともに、参加者がビジョンを持って幅広いテーマに応用できる、アクティビティやスキルトレーニングを行う。	市民 30名	3日間	1,500	市長部局予算 講座終了後、各学校の人権教育担当者と共に共同で事業開発を行う。
相談・連携	人権学習相談支援窓口	人権学習相談支援窓口を設置するとともに、情報収集、情報提供をし、学習支援を図る。	情報収集・提供	指導者・市民	随時	4,000	臨時職員の配置 IT機器の維持管理

V 人権教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	人権カンガルー講座		
(2) 事業の目的	親子で参加できる体験型の人権講座を実施し、人権尊重の精神を養う。		
(3) 実施主体	K市教育委員会（T市民館・T区内小学校）・T区町内会連合会		
(4) 対象者・定員	小学3・4年生とその保護者 20組		
(5) 学習期間・学習時間（回数）	6月～9月	1回の学習時間	2時間×5回 4時間×2回
(6) 学習場所	T市民館・T区内小学校		
(7) 学習目標	親子で、様々な人権問題について考えることを通して人権感覚を豊かにし、進んで人権問題の解決に向けて行動できるようにする。		

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
	人権フォーラム (たまたまウォーク)	人権カンガルー講座のPR 事前アンケート		
1 6月	ウォーミングアップ 「行列のできる人権相談 あなたにジャッジ」	オリエンテーション（受講者に対しての説明） アクティビティを通して、人権に対する興味を持ってもらう。 <ワークショップ>	社会教育主事 人権教育ファシリテーター	各回事後アンケートをとる 日曜 10:00～
2 6月	男女共同参画 「自分らしく 生きていこう！」	家族をテーマに、性・親子・夫婦などを入れ替えてロールプレイを行い、みんなで男女共同参画について考える。 まとめの話を聞く。 <ワークショップ・講義>	女性センター職員 (コーディネーター)	日曜 10:00～
3 7月	障害者 「ふれあいオリンピックに参加しよう！」	障害者の方への接し方や支援の方法を学ぶ。障害者青年教室の活動（運動会）に参加する。 <講義・実技>	障害者青年教室 ボランティア	N小学校 日曜 10:00～15:00
4 7月	外国人 「めざせ地球人！」	外国人の生活に学ぶ 親…座談会 <講義と話し合い> 子…体験と話を聞く <講義とワークショップ>	親…外国人市民代表者会議 メンバー 子…ふれあい館職員	日曜 10:00～
5 8月	平和（公開講座） 「『へいわ』って なんだろう？」	朗読劇 スライド上映（解説つき） 生活体験コーナー（すいとん） <鑑賞・実習>	戦争を語りつぐ会 K市地域史研究会 地域老人会メンバー	区内3校で実施 日曜 10:00～
6 8月	インターネット（公開講座） 「ネチケットについて学ぼう」	インターネット上で使用されている言葉をもとに、人権について考える。 <ワークショップ・実習・講義>	情報担当の指導主事 小学校情報担当 教諭 臨床心理士	区内3校で実施 日曜 10:00～
7 9月	ふりかえり 「『わたしたちの町の人権宣言』をつくろう」	わたしたちの町の人権宣言づくり（グループワーク） 発表・質疑・応答 修了証交付・まとめ <ワークショップ・プレゼンテーション>	社会教育主事 人権教育ファシリテーター	修了証 日曜 10:00～15:00



## 第9節 国際理解教育計画

<分析シート1>

### S市A区国際理解教育計画

#### 1 S市A区の概要

##### (1) 地勢・地域条件等

- ① M県の中央部に位置し、北西方向に帯状に広がっている。H川（全長35km）が区内を東西に貫いている。
- ② 近代的な都市機能と豊かな自然環境が共存する。
- ③ 人口は、282,199人であり、20代の占める割合が高い。  
0～14歳（12.8%）、15～64歳（70.5%）、65歳以上（16.8%）

##### (2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 区の中央に行政機関・金融機関・事務所・商店が集中し、新旧の住宅団地群が丘陵地帯に広がる。
- ② 東部は、宅地開発と区画整理が行われ人口が急増、北西部では畜産・農林業などが営まれている。
- ③ 外国人登録者は約1万人（平成16年）で、そのうち留学生数は1,800人である。

##### (3) 教育・文化的環境

###### ◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	32 (28)
小 学 校	31
中 学 校	21
高 等 学 校	15
大 学・短大	8
専 門 学 校	27

###### ◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
公 民 館（市民センター）	16
博物館・資料館	21
コミュニティ・センター	13
文化会館	10
美 術 館	6
国際センター	1

###### ◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① T大学をはじめ多くの大学、研究機関、専門学校があり、文教ゾーンを形成しているとともに、国際文化交流の拠点施設である国際センターが設置されている。
- ② SLLプラン21（平成6年）で市民一人一人が生きがいのある充実した学習を実現するため、「市民による市民のための生涯学習」を基本理念として掲げている。
- ③ 生涯学習に関する調査の結果、住民が希望する学習内容は以下の通りである。1位：パソコン（37%）  
2位：英語・英会話（12%）。年齢別に見た英語・英会話の希望状況は、20代では1位、30～40代では2位、50代は4位となっている。また、60～70代は5位以内にランクされていない。 \*平成13年調査

2 国際理解教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性	
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等			
青少年	教室・講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際社会に積極的に対応する教育と子供の個性を尊重する教育を充実する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語で遊ぼう (小学1・2年生) (生涯学習課)</li> <li>チャイルドスクール (小学4・5年生) (生涯学習課)</li> <li>キッズクラブ (小学1～3年生) (生涯学習課)</li> <li>子ども自由塾 (小学3～6年生) (生涯学習課)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校英語活動サポート事業 (学校教育課)</li> <li>青少年国際理解講座 (S国際交流協会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育と学校教育の連携が不十分であり、系統的でない。</li> <li>帰国子女対策が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関のネットワークを強化し、連携を図っていく。</li> <li>地域人材等を活用し、帰国子女の心のケアをする。</li> </ul>
	交流事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な分野において、海外都市との多様で重層的な交流を作り出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流事業 青少年の海外派遣、受け入れ (生涯学習課)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームステイプログラム(ユネスコ)</li> <li>アメリカ交換留学生 (ユネスコ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流の場面で、派遣先での治安に対する不安が残る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットを積極的に活用し派遣先の情報の収集を図る。</li> <li>新たな国際交流プログラムを開発する。</li> </ul>
成人	教室・講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国の文化・生活について学ぶとともに国際理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイについての井戸端会議(公民館)</li> <li>国際交流講座 (公民館)</li> <li>ボンジョールノイタリア (公民館)</li> <li>私のスペイン (スペイン料理) (公民館)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際理解教育支援事業 (MIA)</li> <li>エスペラント語講習会 (市民活動サポートセンター)</li> <li>日本語教育市民講座 (民間団体)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り上げる題材が表面的であるとともに、継続的でない。</li> <li>学ぶ国が偏っている。</li> <li>講座開催時間が昼のため、参加者が限定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な講師を開拓する。</li> <li>地域を限定し、長いスパンで世界の各地域を紹介する。</li> <li>市民の関心がある講座を参加可能な時間に開催する。</li> </ul>
	リーダー研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>国籍・文化・言語など異なる人々が快適に暮らせるよう国際化を推進する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語ボランティア育成講座 (国際交流協会)</li> <li>災害 (語学) ボランティア養成 (国際交流協会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人に対する差別や偏見をなくすプログラムが少ない。</li> <li>教授法だけではなくボランティアとしての意識を高めるプログラムが不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化・民族・習慣に関しての講座を開く。</li> <li>生涯学習ボランティアの育成プログラムの積極的な導入を図る。</li> </ul>
	交流事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流活動や情報の発信を通して、コミュニケーションへの関心を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Let's話すっちゃ (公民館)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語日本語スピーチフォーラム (民間団体)</li> <li>誰かに教えたくない日本語 (民間団体)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の発信を通してコミュニケーションへの意欲を高める講座が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>座学だけでなく、参加体験型のプログラムを組む。</li> </ul>
高齢者	教室・講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際化社会のニーズに合わせて世界で最も幅広く使われている英語を学ぶ。</li> <li>外国の文化・生活について学ぶとともに国際理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SHALL WE ENGLISH (公民館)</li> <li>シニアのための英会話、度胸だめし (公民館)</li> <li>老荘学園 (公民館)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者は語学学習へのニーズが低い。</li> <li>生活習慣を学ぶ場がない。</li> <li>学んだ成果を発揮する機会が少ない。</li> <li>参加者は固定している。(経済的に恵まれていない人のためのプログラムがない。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者側から見たニーズを把握し、企画する。</li> </ul>

IV 年間事業計画（平成17年度国際理解教育事業計画）

(1) 社会教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な人との関わりを通して、主体的に学ぶ力を身につけよう。</li> <li>・生きがい作りや学び直しを通して、自分に合った方法で学ぼう。</li> </ul>
(2) 国際理解教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な国の文化を理解し、自らの生活に生かしていきける力を身につけよう。</li> <li>・文化の違いを超えて、互いに尊重し合い、ともに生きていく態度を身につけよう。</li> </ul>
(3) 社会教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民一人ひとりの学ぶ力をはぐくむために、生涯学習施設の機能の充実を図る。</li> <li>・人材、資料、施設などの学ぶ環境を市民が活用できるようにする。</li> </ul>
(4) 国際理解教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化理解に関する情報提供に努め、生活経験を生かし、社会の変化に対応できる人材を育成する。</li> <li>・国際交流の場の提供を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。</li> </ul>

(5) 国際理解教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考	
青少年	教室・講座	・英語であそぼう	・コミュニケーションへの関心を高める。	・海外のTVを見る。 英語の歌、漫画、ゲームに触れる。	小学生 (1~3年生, 20人)	隔週1回 (3ヶ月)	120	博物館 学校へ出前 学校から出前 大学への依頼
		・英語を使おう	・表現力を高める。	・英語の歌、漫画などを和訳、日本の歌を英訳して楽しむ。	中学生 20人	隔週1回 (3ヶ月)	120	
		・キッズスクール	・外国の文化についての理解を図る。	・言葉、歴史、衣服、食文化、遊び、日常生活についての学習をする。	小学生 (4~6年生, 20人)	隔週1回 (3ヶ月)	120	
少年	交流事業	・見るっちゃA知るすべ世界Part1	・自分の住んでいる地域についての理解を深める。	・フィールドワークを中心とした地域調べをする。 ・地域に居住する外国人へのインタビューを行う。	小学生 (5~6年生, 10人) 中学生 10人	5~8月 夏季休業中合宿を含め10回	40	図書館 公民館
		・見るっちゃA知るすべ世界Part2	・外国の人の目を通して、日本の現状を見つめ直す機会とする。	・地域についての英語での情報を発信する。 ・海外(外国人、日本人学校に通う日本人)とのインターネットを活用した交流を行う。	小学生 (5~6年生, 10人) 中学生 10人	隔週1回 (3ヶ月)	20	公民館
成人	教室・講座	・世界を身近に感じたい(韓国編)	・韓国文化の様々な側面に触れて「近くて遠い国」という既存のイメージを払拭する。	・食文化、伝統民族衣装を紹介し合う。 ・韓国のドラマのビデオ鑑賞をする。 ・鑑賞後、ディスカッションを行う。(恋愛観、家族観、人生観について) ・パネルディスカッション(在日韓国人の日本観)を実施する。 ・ハングル文字の学習をし、講師に簡単な礼状を書く。	一般市民 50人	月1回 計10回	80	公民館 年度ごとにテーマを設定

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考	
成人	リーダー研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語ボランティア実践講座</li> <li>災害(語学)ボランティア実践講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人に対する差別や偏見をなくすため異なったものの見方価値観との出会いを試みる。</li> <li>災害発生時に外国籍市民を支援するボランティアを育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象国の言葉および文化に対する学習を深める。</li> <li>防災知識習得のための研修会や市主催防災訓練に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアおよび希望者 30人</li> <li>ボランティアおよび希望者 50人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6時間を10講座</li> <li>研修会2回 訓練1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>200 国際交流協会との共催 公民館</li> <li>40 公民館 市消防局、警察署との連携</li> </ul>	
	交流事業	・エンジョイいんぐりっしゅ	・英語圏の生活を疑似体験し、文化交流を図り国際理解を深める。	・外国人の教員、留学生とともに日本語を使わずにロールプレイ、ティーパーティー、ゲームなどを通して楽しみながらコミュニケーションを図る。	一般市民 30人	通年 計10回	70	公民館
高齢者	教室	・歳の差なんて...	・話し合いを通して異文化理解を図る。 ・帰国子女の心のケアを図る。	・高齢者と小中学生の帰国子女とのディスカッションをする。	小中学生帰国子女 高齢者 50人	年4回	0	学校教育課
	講座	・やるっちゃグラウンドゴルフ	・グラウンドゴルフを通して臆せずコミュニケーションを図ることができる度胸をつける。	・地域に居住する外国人と一緒にグラウンドゴルフをすることを通して交流を深める。	高齢者 居住外国人 各20人	年2回	0	学校グラウンドゴルフ協会との連携
	講座	・やるすべ BONSAI	・ガーデニングを通して英国の歴史や文化に触れる。	・英国の歴史、文化について学ぶ。 ・ガーデニングに関する知識技術の習得を図る。	高齢者 20人	年4回	60	公民館

V 国際理解教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	見るっちゃA地区 知るすぺ世界 Part 1	
(2) 事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の住んでいる地域についての理解を深める。</li> <li>・外国の人の目を通し、地域・日本の現状を見つめ直す機会とする。</li> </ul>	
(3) 実施主体	S市教育委員会 生涯学習課	
(4) 対象者・定員	小学生（5～6年生）10人、中学生10人	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	5月～8月	1回の学習時間 2時間×8回 宿泊（1泊2日）9時間
(6) 学習場所	図書館 公民館（宿泊時）	
(7) 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域調べを通し、郷土についての理解を深める。</li> <li>・外国人へのインタビューを通し、自分たちの住んでいる地域の現状について考える。</li> </ul>	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1 5月	やっぺ (入学式)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開講式</li> <li>・オリエンテーション、アイスブレイキング 班分け（小学生2人、中学生2人）5班</li> <li>学習内容の確認</li> </ul>	居住外国人 図書館司書 社会教育主事 嘱託社会教育主事 ボランティア	2時間
2～4 5・6月	なんだりかんだり調べっちゃ (調べ学習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域調べ（班別活動）</li> <li>フィールドワークは外国人も一緒に活動（H川、B山、史跡、たなばた、伝統芸能）</li> <li>グループディスカッション、協議</li> <li>・発表準備</li> </ul>	居住外国人 社会教育主事 歴史保存会 教職員 図書館司書 嘱託社会教育主事 ボランティア	2・3回：フィールドワーク 各2時間 4回：図書館 2時間
5 7月	まず聞くっちゃ (発表会その1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間発表会</li> <li>互いに発表</li> <li>質疑応答</li> </ul>	居住外国人 地域振興課職員 社会教育主事 図書館司書 嘱託社会教育主事 ボランティア	2時間 実物投影機
6 7月	準備すっぺし (宿泊事前準備)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりかえり</li> <li>・インタビューの事前準備</li> </ul>	居住外国人 社会教育主事 図書館司書 嘱託社会教育主事 ボランティア	2時間
7～8 7・8月	泊まりにあべ 聞きにあばいん (宿泊学習交流会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館で宿泊（一泊二日）しながら、地域に居住する外国人へのインタビューをし、自分たちの住んでいる地域の姿について知る。</li> <li>&lt;1日目午後&gt;</li> <li>・アイスブレイキング</li> <li>・外国人へのインタビュー（A地区の住みやすさ、住みにくさについて）</li> <li>&lt;1日目夜&gt;</li> <li>・外国人と一緒にバーベキューをして交流を深める。（含：すずめ踊り）</li> <li>・インタビューのふりかえり</li> <li>&lt;2日目午前&gt;</li> <li>・協力してもらった外国人の方へ礼状作り</li> <li>・インタビューをもとに発表準備</li> </ul>	居住外国人 公民館長 社会教育主事 嘱託社会教育主事 ボランティア	公民館 1日目午後4時間 1日目夜 2時間 2日目午前3時間  図書館  銭湯へ行くためのバスを市より借用

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
9 8月	いまっと思ってみっべ (発表会その2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューの成果の発表会 互いに発表 質疑応答</li> <li>・外国人からの発表 質疑応答</li> </ul>	居住外国人 国際交流協会 社会教育主事 嘱託社会教育主事 ボランティア	2時間
10 8月	んでまず (とりあえず卒業式)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体のまとめ</li> <li>・Part 2の概要を知る</li> <li>・閉講式</li> </ul>	居住外国人 生涯学習課長 社会教育主事 嘱託社会教育主事 ボランティア	2時間

## 第10節 健康教育計画

<分析シート1>

### M市健康教育計画

#### 1 M市の概要

##### (1) 地勢・地域条件等

- ① 市の中心をT川やH川が流れるなど、緑豊かな環境の中で、「水と緑と詩（うた）のまち」をキャッチフレーズとする北関東の中心都市である。
- ② かつては絹織物の中心地であったが、今はG県の県庁所在地として、政治・文化の中心地となっている。
- ③ 人口、284,334人（※平成15年度末現在）。人口の推移を見ると現在は横ばいとなっているが、少子高齢化が進んでいる。平成16年度中には、近隣町村と合併し、40万都市となる予定である。

##### (2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 職業別にみると、第三次産業が69%と多く、職業としては会社員が多い。また、核家族化、少子化のため、一世帯あたりの人員も年々減っている。
- ② スポーツやレクリエーションを通じて健康づくり、仲間づくりを図っている住民が多く、週1回運動している人は37%である。
- ③ 高齢化が年々上昇している。（平成15年、65歳以上18.8%）また、死亡者全体の約6割が生活習慣病（心筋梗塞等）によるものである。

##### (3) 教育・文化的環境

###### ◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	32 (50)
小 学 校	40
中 学 校	19
高 等 学 校	14
大 学 ・ 短 大	12
専 門 学 校 専 修 学 校	34

###### ◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
公 民 館（コミュニティーセンター）	16
市民会館	1
市民体育館	1
温水プール	3
総合教育プラザ	1
勤労青少年ホーム	1
A少年自然の家	1
総合福祉会館	1
保健センター	1

###### ◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 市内16の公民館を中心に、住民の生涯学習活動を積極的に進めており、各種学習団体やサークル活動が盛んである。
- ② 「健康M計画21」を作成し、広報や各種健康教室により、住民の健康づくりへの関心を高めている。なお、健康教育については、市保健センター及び教育委員会スポーツ課を中心に推進している。
- ③ 健康に関する住民の学習ニーズ調査によると、以前と比べ健康への関心度は高まっている。特に「食生活」「運動」「心の健康」の順に学習ニーズが高い。その結果を踏まえた市民の健康づくり教育の推進が求められている。

2 健康教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
広報・啓発	・「健康M計画21」を広く市民に啓発し、市民の健康づくり運動を推進する。	健康づくり計画や健康教育等の関連事業の啓発をする。(インターネット、広報紙等) (生涯学習課)		・広報は配布しているが、健康計画の関心はあまり高まっていない。また、各教室への参加者も増えていない。	・紙面の工夫等による広報の一層の充実を図ることや、地域の公民館等を利用してPR活動を多くする。
講座・教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が自らの健康に関心を持ち、健やかで心豊かな生活をするための知識や実践力を身につけるための学習活動を提供する。</li> <li>① 運動の重要性と自己の体力づくり</li> <li>② 自分に合ったストレス解消法の実践や心の悩みの解消</li> <li>③ 生活習慣病予防のための生活改善</li> <li>④ 薬物・喫煙・飲酒が及ぼす健康への影響</li> <li>⑤ 食生活の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生き生き健康教室 健康体力づくりの実践 (公民館)</li> <li>未成年者の薬物乱用・喫煙防止教室 (生涯学習課)</li> <li>エイズ教育 (小1保護者・小6児童・中3・高)の実施 (生涯学習課)</li> <li>公民館での健康料理教室 (公民館)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すこやか健康教室 (保健センター)</li> <li>メンタルヘルス講座「こころの健康づくり」(保健センター)</li> <li>第1回市民健康講座「睡眠と生活習慣病」(健康福祉課)</li> <li>M市母子保健計画 (健康福祉課)</li> <li>個別健康教室(禁煙) (健康福祉課)</li> <li>思春期保健教育 (小・中・高対象) (各学校)</li> <li>高齢者等に対して訪問栄養指導の実施健康テレホンサービス (健康福祉課)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室への参加者が少ない。</li> <li>・成人層に精神的疲労・ストレスを感じている人の割合が多い。</li> <li>・講座の開設場所が少ないので、参加しにくい。</li> <li>・喫煙・飲酒している未成年者の割合が多い現状が改善されていない。</li> <li>・性的な成熟の早期化や性に関する情報や産業が氾濫するなどの社会環境の変化により性の逸脱行動が問題化している。</li> <li>・住民の食生活への関心は高まっているが、実際の食生活の改善につながっていない人が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康や体力に対する正しい認識が持てるよう、また、興味・関心が高まるよう学習内容を工夫する。</li> <li>・成人が気軽に講義に参加できるように、実施時期、曜日、時間等を検討する。</li> <li>・地域の公民館で講座を実施し、気軽により多くの市民が参加できるようにする。</li> <li>・中高生向けや親向けの講座をさらに工夫、充実させる。</li> <li>・現代の社会状況に対応した性に関する指導を効果的に行えるような、適切な指導資料や教材を開発することなどの関連施策を更に充実する</li> <li>・講座修了者にはたつきかけ、次の講座や各地区での講座の指導者や健康づくりボランティアとして活躍してもらう。</li> </ul>
相談	・住民の健康づくり運動への取り組みや健康不安を取り除くための支援を行う。	健康づくりやスポーツに関する相談や情報提供 (生涯学習課)	健康相談 (窓口相談・電話相談)	・健康相談のサービスを知らない人が多い。	・広報活動の充実を図る。
調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民からの健康学習のニーズを探り、次の事業に生かす。</li> <li>・市民の健康に関する生活実態把握を行い、今後の計画推進のための資料とする。</li> </ul>	健康づくりのための学習ニーズ収集 (生涯学習課)	市民健康生活アンケート調査の実施 (健康福祉課) ヘルスアセスメント (健康度評価)の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関との連携が不十分</li> <li>・アンケート調査の結果の広報の仕方及び事業への生かし方が明確でない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関との連携の強化を図る。</li> <li>・アンケート調査の積極的な提示方法の工夫をする。</li> <li>・新しい健康づくりのための事業をアンケート結果より検討する。</li> </ul>



IV 年間事業計画（平成17年度健康教育事業計画）

(1) 社会教育目標	市民一人一人が主体的な学習を通じて、健康で心豊かな地域づくりを目指す。
(2) 健康教育目標	健康についての学びを深め、生き生きとした明るい地域づくりに努める。
(3) 社会教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青少年の健全育成を図る。</li> <li>・ 社会教育団体及び指導者の育成と社会教育事業の活性化に努める。</li> <li>・ 生涯学習の拠点としての公民館活動の充実を図る。</li> <li>・ 学級又は講座を充実し、生涯学習を推進する。</li> </ul>
(4) 健康教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民一人一人に、より健康に暮らそうとする意欲・態度を育成する。</li> <li>・ 各関係団体と連携を図りながら、様々な健康教室等を開催し、生涯にわたり健康教育の振興及び指導者養成を図る。</li> <li>・ 様々な健康教育の場を通し、市民一人ひとりのライフスキルの向上を図る。</li> </ul>

(5) 健康教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
広報・啓発	M市健康学習講座案内	案内紙を通し、市民に講座のねらいや内容を広く周知する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 案内紙の配布</li> <li>・ M市広報誌や地域放送を通し、広く案内する。</li> <li>・ リーフレットやインターネットによる健康チェック</li> </ul>	全家庭	1回 (4月)	200	
	「あなたの健康を診断」	自分に合った健康度のチェックと講座のお知らせ				100	
講座・教室	A〈栄養・食生活〉 「みんなで広めよう！健康料理」	食生活を通して健康づくりを広めるボランティアの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア会員研修</li> </ul>	ボランティア希望者 30名	3回 (5月)	30	健康料理を広めるボランティアの育成を図り、料理教室の援助をしてもらう。
	「みんなで考えよう！健康（運動と栄養）」 「バッチリ健康クッキング」	健康（運動と栄養）に関する正しい知識を提供し生活習慣病の予防を図る。一人一人の健康と生活の質の向上を図るために、適度な運動のある生活やバランスのとれた食生活の実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理栄養士による講演</li> </ul>	成人・高齢者 200名	1回 (5月)	20	管理栄養士との連携を図る。
	①わいわいコース（親子）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親子クッキング（成長を支える料理）</li> </ul>	小学生と保護者 20組	5回 (6月～10月)	100	それぞれテーマをもった健康教室を開催する。
	②バリバリコース（成人）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康維持のためのバランスのよい食事と運動</li> </ul>	成人 30名	5回 (6月～10月)	100	調理の材料費は参加者負担とする。
	③生活習慣病予防コース（成人・高齢者）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活習慣病予防のための生活改善計画</li> </ul>	成人・高齢者 30名	5回 (6月～12月)	100	
	「みんな健康ハッスルハッスル!!」	ライフスキル教育による青少年の健康づくりと危険行動の予防を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①食習慣健康教育「ファイトー発はごはんから」</li> <li>②飲酒・喫煙の防止「君はどうする？飲酒・喫煙」</li> <li>③薬物乱用の防止「君はどうする？薬物乱用」</li> </ul>	中学生 40名	3回（6月～2月の間に実施）	50	学校との連携を図り、出前講座を行う。
				中高生 各40名	2回（6月～2月の間に実施）	50	
				中高生 各40名	2回（6月～2月の間に実施）	50	
	B〈運動〉 「健康はつつ教室」	運動不足の解消法を知り、健康の維持増進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体力測定、運動プログラム</li> <li>・ 軽スポーツ</li> <li>・ サークル活動</li> <li>・ ウォーキング</li> <li>・ 踏み台昇降</li> <li>・ 社交ダンス</li> <li>・ スマイルボウリング</li> <li>・ 交流</li> </ul>	成人・高齢者 50名	50回 (週1回)	50	
	「生涯現役いけいけ講座」	「寝たきりゼロ」、「活力ある生活」を目指す。		高齢者 30名	35回 (4月～12月)	50	
相談・調査	「コーディネーター事業」	健康学習のニーズに応える場づくりや健康相談の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業開催の支援</li> </ul>	随時	随時	10	講座・教室参加者や高齢者団体等に調査を依頼
	参加者の意識調査	健康学習のニーズや満足度の調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート調査の実施</li> <li>・ 結果の分析と事業の改善</li> </ul>	随時	随時	10	

V 健康教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	バッチリ健康クッキング～バリバリコース～		
(2) 事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の健康と生活の質の向上を図る。</li> <li>地域のボランティアの活動の場を提供する。</li> </ul>		
(3) 実施主体	M市教育委員会		
(4) 対象者・定員	成人30名		
(5) 学習期間・学習時間（回数）	6月～10月	1回の学習時間	3時間×5回
(6) 学習場所	市内公民館（調理室・講義室） 体育館		
(7) 学習目標	食事や運動についての学習をもとに、自分の生活を見直し、より健康的な生活を実践することで、活力ある生活ができるようにする。		

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     みんなで考えよう！「健康（運動と栄養）」の講演会に参加した後、この事業に参加する。                 </div>				
1	バランスのよい食事 ～食材五色バランス健康 法～	○開講式 オリエンテーション ○講義 「市民の実態と生活の改善」 ○協議 <ul style="list-style-type: none"> <li>ある受講生の食事メニューについての意見交換（6グループで）</li> <li>受講生個々の生活チェック</li> <li>食材五色バランス料理の夕食メニューづくり</li> </ul>	栄養士 保健指導員 食生活改善推進員 社会教育主事	講義室  市保健センターと連携し、指導員等を派遣してもらう。
2	バランスのよい食事づくり	○ある日の夕食メニューづくり（調理実習） <ul style="list-style-type: none"> <li>赤、白、黄、緑、黒の五色の食材を使って夕食メニューを作り、1日30品目の理想的な栄養バランスの食生活について理解する。</li> <li>感想、意見</li> </ul>	栄養士 食生活改善推進員 ボランティア 社会教育主事	受講者材料費実費負担 調理室
3	健康な生活のための簡単な運動	○講義と実技 <ul style="list-style-type: none"> <li>ながら運動（料理・仕事・テレビを観ながらできる運動）</li> <li>ストレッチ運動</li> <li>簡単な筋力アップトレーニング</li> </ul>	体育指導委員 健康運動指導士	体育館
4	高血圧予防のための食事法	○講義 <ul style="list-style-type: none"> <li>高血圧の症状について</li> <li>血圧を下げる食材や食事法</li> </ul> ○協議（血圧を下げる食材を使った夕食メニューを考える） <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ分け</li> </ul>	保健師 食生活改善推進員 栄養士 社会教育主事	
5	受講者オリジナルメニューの調理と評価	○オリジナルメニューづくり（調理実習） グループごとに調理  ○試食及び説明 ○講評 ○学習のまとめ <ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことをもとに、個々の今までの食生活について見直したいことを自己改善カードに書き込む。</li> </ul> ○閉講式	栄養士 食生活改善推進員 ボランティア 社会教育主事	調理室 受講者材料費実費負担   調理室 自己改善カード （食生活の反省、自己の食生活で気をつけたいこと等を記入）

# 第11節 情報化に関する教育計画

<分析シート1>

## K市情報化に関する教育計画

### 1 K市の概要

#### (1) 地勢・地域条件等

- ① K市はT都のほぼ中央に位置し、市の面積は11.48Km<sup>2</sup>で、緑と水に恵まれた地域である。天平13(741)年に国内最大規模の国分寺が建立された古代からの歴史を持つとともに、江戸時代の享保年間に新田開発が盛んにおこなわれ、農村として発展した。明治22年の市町村制施行で10村が合併し、その後町村を経て、昭和39(1964)年、都内では14番目の市としてスタートした。
- ② 現在のK市は、JRや私鉄線の主要な駅がある交通至便な住宅都市で、都心へ通勤・通学する市民が多い一方で、企業や大学・高校などの先端知識や技術の拠点が立地しているなど、昼夜、多くの人が集散・通過している。このようなことから、K市は文化や情報の収集・発信の面で恵まれており、生涯学習社会実現の面で高い可能性を持っている。
- ③ 人口は増加の一途にあり、市制施行後直後の昭和40(1965)年の58,464人から平成7(1995)年に105,786人(国勢調査)、平成12(2000)年には111,310人(国勢調査速報値)になった。平成16年には、113,320人(平成16年住民基本台帳)であり、増加傾向にある。市の人口構成は、年少人口(14歳以下)が徐々に減少し平成10年1月現在では12.7%、老年人口(65歳以上)は増加し13.4%となり、高齢化が進行している。一方20代の人口は、年代別人口比で見るとT都の他市町村と比較しても高く、その点では、K市は若者のまちという側面もある。

#### (2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 昼間人口における就業者数が少なく周辺都市や都心への流出が多い。
- ② 20代の若い世代が多い。(20.1%) また、高齢者の人口も多い。(14.6%)
- ③ 市民意識調査によると、市民の約5割が「同好のサークルやグループで」、「本やテレビなどを利用して一人で」、「民間の大規模な教室や講座等で」、「市主催の講座等で」等の多様な方法で学習活動している。

#### (3) 教育・文化的環境

##### ◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	6 (8)
小 学 校	11
中 学 校	6
高 等 学 校	2
大 学 ・ 短 大	1
専 門 学 校	2

##### ◇ 生涯学習関連施設(民間を含む)

種 別	数
公 民 館	5
図 書 館	5
市民ホール	2
女性センター	1
教育センター	1
地域センター	6

##### ◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 市民の生涯学習参加への期待が高く、「市主催の講座等」を中心に市民の多様な学習要望に応えられる学習環境の整備が求められている。
- ② 学習情報源は「新聞・雑誌・書籍」が6割を超えて高く、あとは「市の広報誌など」「近所の人・友人・知人」が約5割となっているが、20歳代では「インターネット」が2割を超えるなど、若い層から新しい情報媒体の利用が徐々に進んでいる。
- ③ ほしい学習情報として、「教室・講座の内容等に関する情報」を望む割合が飛び抜けて高く、半数を超えている。

(市民意識調査より)

2 情報化に関する教育の現状と課題

区分	施策	現 行 の 事 業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
メディア受容・表現能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々なメディアを通じて得た情報を取捨選択し内容を判断する能力を養う</li> <li>○メディアを介して自ら自分の考えを世の中に発信できる能力を養う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○メディア・リテラシー講座／市民（公民館）</li> <li>○メディア・リテラシー向上／市民（公民館）</li> <li>○メディア・リテラシー教育フォーラム／市民（生涯学習推進課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○メディア・リテラシー向上（男女平等人権課）</li> <li>○メディア・リテラシーに関する講演会（PTA連合会）</li> <li>○情報学習／小中学生（教育部指導室）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育市民会議やPTA連合会で情報倫理についての問題が緊急課題となっているが、十分な対応策がとられていない</li> <li>○学校教育でも同様であるが指導者レベルで具体的な方策がない</li> <li>○メディア表現能力に対応した施策が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ネット利用上のルールやマナー、危険性についての知識を身に付けるための講座の開設</li> <li>○指導者養成や研修の充実</li> <li>○メディア表現能力を養う講座を提供し、継続して育成する機会を整備する</li> </ul>
メディア利用能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々なメディアを通して情報を取得したり発信するための機器を操作する能力を養う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種パソコン習得講座／市民（公民館、生涯学習推進課）</li> <li>○高齢者パソコン基礎講習（公民館）</li> <li>○情報バリアフリー化／障害者（公民館）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種パソコン習得講座／市民（男女平等人権課）</li> <li>○60歳以上の女性パソコン基礎講習（男女平等人権課）</li> <li>○パソコン中級講座（男女平等人権課）</li> <li>○情報バリアフリー化／障害者（生活福祉課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各講座の人气が高く全ての希望者が受講できていない</li> <li>○行政と民間の事業連携がない</li> <li>○社会教育行政と他の行政との一体感がない</li> <li>○障害者対象の講習が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○民間講座との連携を図りつつ、講座を拡大して提供する</li> <li>○NPOとの連携を強化し、より厚く講座を提供する</li> <li>○他の行政機関との事業の体系化を図る</li> <li>○障害者対象の講座の拡充を図る</li> </ul>
情報化を支える環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○上記の3つの能力を支える環境づくりを行う</li> </ul> <p>（物的側面から）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校パソコン教室設備開放／市民（公民館）</li> <li>○市民用パソコンの常設／市民（公民館）</li> <li>○青少年インターネットコーナー／小学生以上（公民館）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校パソコン教室設備開放／市民（教育部指導室）</li> <li>○教育センターコンピューター室・パソコンの整備（教育部指導室）</li> <li>○コンピューター実技研修会／教員（教育部指導室）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材の管理コストが高く学校の機器の開放が難しい</li> <li>○パソコンの数が不足している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭用パソコンの収集と再利用を行う</li> <li>○機器の保守のボランティアの育成をする</li> </ul>
	（人的側面から）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民パソコン教室指導ボランティア／青少年（公民館）</li> <li>○人材バンクの拡充／市民（生涯学習推進課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民・ボランティア団体の活動支援／市民（文化コミュニティ課）</li> <li>○シルバー人材センターの支援・育成／高齢者（地域福祉課）</li> <li>○シルバーボランティアの育成・活動支援／高齢者（地域福祉課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導者の配置や稼働時間が少ない・指導者活用に関する予算が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講座の受講者などを指導・支援ボランティアとして育成する</li> </ul>
	（情動的側面から）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公民館HP（公民館）</li> <li>○学習情報データベース／市民（生涯学習推進課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市HP（広報広聴課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○それぞれの学習情報がまとめられていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習情報の提供の体系化を図る</li> </ul>

IV 年間事業計画（平成17年度情報化に関する教育事業計画）

(1) 社会教育推進目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人が楽しく学び育つ環境をつくろう。</li> <li>地域が活力にあふれるまちをつくろう。</li> <li>仲間とともに豊かで健康な暮らしをつくろう。</li> </ul>
(2) 情報化に関する教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディア受容能力を高めよう。</li> <li>メディア表現能力を高めよう。</li> <li>メディア利用能力を高めよう。</li> </ul>
(3) 社会教育推進行政目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる年代で誰もが学べる学習の場を提供する。</li> <li>現代的課題に対応した学習の場を提供する。</li> <li>学んだことを地域で生かすシステムを整備する。</li> </ul>
(4) 情報化に関する教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の取捨選択能力を向上させる場を提供する。</li> <li>情報発信能力高める学習を提供する。</li> <li>機器操作能力を高める学習を提供する。</li> <li>情報教育を支える環境を整備する。</li> </ul>

(5) 情報化に関する教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考						
メディア受容・表現能力	○メディア・リテラシー講座	ネット利用上のルールやマナー、危険性についての知識を身につけるために情報の取捨選択能力を高める											
	・「インターネット我が家のルールづくり」							・講座：保護者向け「家庭でのインターネット」	保護者 20人	5、6月 6回5会場	900	アンケートP連	
	・「インターネット探偵団！」							・講座：青少年のためのインターネットの読み解き方	青少年 20人	8月 6回5会場	900	アンケートP連	
	・「インターネットの光と影」							・講座：情報モラルの啓発・指導者講習会	教員・青少年 指導者 30人	8月 5回1会場	300	将来的に講座講師に意見メールを受付けてもらう。	
	・「インターネット探偵団HP版」							・講座：ネット上のメディア・リテラシー講座	市民 子ども	通年	-	HP上で実施し、費用はぶんNET設立費に含む	
	○「ぶんNET」エディター養成講座							市民参画による「ぶんNET」（学習情報データベース）運営のために、必要な知識とメディア・リテラシーを兼ね備えた運営支援ボランティアを養成する	・講座：ぶんNETエディター養成	市民 (HP作成経験者) 30人	10～2月 10回	500	
	○メディア・リテラシー啓発事業							ネット利用上のルールやマナー、危険性についての知識を身につけるために情報の取捨選択能力を高めるために啓発活動を行う					
・「ぶんNETブック」	・啓発：ハンドブック発行・配布	市民	年1回	200	経済課・消費生活センターと連携								
・「情報化社会を生きる！」	・啓発：フォーラム講演会	市民	年1回	100									

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
メディア利用能力	○パソコン習得講座 ・「今さら聞けないパソコン講座」 ・「孫とメール」 ・「社会にアクセス」	パソコン・インターネットを利用して情報を取得したり、発信するための機器を利用する能力を養う	・講座：パソコン講習 ・講座：高齢者社会参加、パソコン講習 ・講座：障害者社会参加、パソコン講習	市民 20人	6回×3期 5会場	2,700	アンケート
	高齢者 20人			8回×1期 5会場	1,350	アンケート 高齢者相談室	
	障害者 10人			8回×1期 3会場	810	アンケート	
	市民 20人			6回×1期 3会場	150	民間企業・ 大学・NPO	
	○地域情報ネットワーク事業	民間団体等との連携を図り、高度な学習プログラムを広く市民に提供する	・事業：民間企業・大学機関・NPO等との連携事業				
情報化を支える環境づくり	○パソコンリサイクル	地域や家庭の余剰のパソコンを回収整備し、公民館で設置と貸し出しを行う	・事業：パソコン回収、パソコン整備、ネットワーク整備	市民 企業	通年	1,000	民間企業・リサイクル推進課と連携
	○パソコンリサイクルボランティア			市民 企業 学生	通年	500	
	○IT指導・支援ボランティアの育成	講座の受講者をこれからのIT講座の指導・支援リーダーとして育成する	・運営：指導・支援ボランティアの育成	講座の受講者	通年	1,000	
	○学習情報データベース「ぶんNET」の設立	市内学習情報ポータルサイトを開設し、生涯学習情報の体系化を図る	・運営：HPの運営	市民	通年	20,000	情報システム課と連携

V 情報化に関する教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	「ぶんNET」エディター養成講座	
(2) 事業の目的	市民参画による「ぶんNET」（学習情報データベース）運営のために、必要な知識とメディア・リテラシーを兼ね備えた運営支援ボランティアを養成する	
(3) 実施主体	K市教育委員会 生涯学習推進課 公民館 K市情報システム課	
(4) 対象者・定員	市民（ホームページ作成経験者）30人、（ただし、公開講座は市民100人）	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	10月～2月	1回の学習時間 3時間×10回
(6) 学習場所	K市教育センター	
(7) 学習目標	① 「ぶんNET」（学習情報データベース）の役割を理解し、管理・運営の手法を学ぶ ② メディア・リテラシーの概念を理解し、情報の活用能力を身につける ③ ネットワーク・エディターとしての自覚・役割を理解し、必要な資質を身につける	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1	「ぶんNET」ってなあに？	導入 ○開講 ○アイスブレイク・自己紹介ゲーム・グループ分け ○ワークショップ「生涯学習情報とは何か」「K市の概要」「社会教育の必要性」 ○講義「ぶんNETの目的及び役割」	教育長 社会教育主事	
2	インターネットの光と影	概論 ○講演会「メディア・リテラシーとは何か」	T経済大学教授（情報化）	公開講座 公民館ホール 100人 アンケート
3	「ぶんNET」作成のために1	各論1 ○講義「サーバー管理のための知識と技術」 ・セキュリティ・ポリシーとシステム運用基準 ・学習情報サーバー管理術 ・サーバー管理データの漏えい ・ネット上の危険性	市情報システム課 セキュリティ関連団体 システム・エンジニア	
4	「ぶんNET」作成のために2	各論2 ○講義「ホームページ管理の知識と技術」 ・取り扱い情報の可否 ・ホームページ管理とルール作りの方法 ・市民が参加と交流しやすいホームページ運営のコツ ・市民が参加と交流しやすい掲示板運営のコツ ・市民が参加と交流しやすい携帯端末サイト運営のコツ	市広報広聴課 ホームページ作成企画会社	
5	「ぶんNET」作成のために3	各論3 ○講義「情報関連法規」（著作権・肖像権・個人情報保護・不正アクセス防止法） ○講義「デジタル・デバイドと社会参加」	T経済大学教授（情報化）	
6	「ぶんNET」作成のために4	各論4 ○講義「インターネット利用のルールとマナー（子ども・大人）」 ○講義・ワークショップ「学習情報の集め方」	市情報システム課 インターネット協会 社会教育主事 他市学習相談員	他市の事例を参考に にする
7	「ぶんNET」をつくろう！1	実践1 ○演習「学習情報提供ホームページの作成」	社会教育主事 研究者（生涯学習情報／インターネット） NPO団体（ホームページ作成）	
8	「ぶんNET」をつくろう！2	実践2 ○演習「学習情報提供ホームページの評価」	社会教育主事 研究者（生涯学習情報／インターネット） NPO団体（ホームページ作成）	7回目に作成したHPを相互評価する
9	「ぶんNET」をつくろう！3	実践3 ○講義「学習支援ボランティアの資質とは」 ○ワークショップ「学習支援ボランティア活動の運営と継続」	ボランティアセンター職員	7回目に作成したHPを自己評価する
10	「ぶんNET」でつながろう	まとめ ○グループ・ディスカッション 「これからのぶんNET」①子育て支援、②青少年問題、③高齢者の参画、④学校との連携、⑤他市との連携 ○講座の評価（感想・今後の活動に向けて）	各種団体・市民等関係者 社会教育主事	修了証 受講アンケート ボランティア登録申請書配布

\*評価 ①HP内容の評価（相互評価、自己評価）、②講座内容の評価（話し合い、アンケート）、  
③ボランティア登録者数／受講者数

## 第12節 高齢社会に関する教育計画

<分析シート1>

### K町高齢社会に関する教育計画

#### 1 K町の概要

##### (1) 地勢・地域条件等

- ① K町は、S県の東部に位置し地域一の大河T川を擁し、水と緑豊かな自然環境の中にある。北は丘陵地帯、南は大部分が平坦な水田地帯が続き、T平野の一角を形づくっている。
- ② 産業構造の特徴としては、製造業とサービス業で全就業者数の過半数を占め（50.3%）、農業を中心とした第1次産業は8.2%である。
- ③ 面積は16.62km<sup>2</sup>、人口は11,191人で3,624世帯である。（平成16年3月31日現在）

##### (2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 65歳以上の高齢者 2,500人（平成16年3月31日現在）  
（高齢化率 平成7年 16.7% 平成11年 18.8% 平成16年 22.3%）
- ② 就業者の25.0%がサービス業であり、そのほとんどが近隣の都市で日中働いている。一方、製造業は25.3%であり、町内の中小企業の工場で勤務している。
- ③ 高齢者の一人ぐらしの世帯は、209世帯（5.8%）である。元気な高齢者もいる反面、S県内で最も一人当たりの医療費が高額である。

##### (3) 教育・文化的環境

###### ◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	2 (2)
小 学 校	1
中 学 校	1
高 等 学 校	0
大 学 ・ 短 大	0
専 門 学 校	0

###### ◇生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
公 民 館（分館）	1 (19)
総合運動場（体育館・運動場・テニスコート・河川敷）	1
海洋センター（プール）	1
運動広場	1
武 道 館	1
保健センター（養護老人ホーム・ふれあい広場）	1

###### ◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 「いきいき暮らせる、すまいるK町」をテーマに掲げ、子どもから高齢者が、都市的利便性と自然環境が共存する快適で住みよいまちを目指している。
- ② 公民館、総合運動場、保健センターなど主要な施設が町内に点在しており、特に高齢者が利用する場合に、施設までの交通や手続きの面で使いづらい。
- ③ 公民館分館は、40～150戸の地区ごとにあり、地域に根ざした活動（地区運動会、まつり等）を行っている。
- ④ 高齢者層や若年層の学習関心は高く、生涯学習関連施設の利用率が高い。その反面利用者の固定化がみられる。また、30～40代の特に男性の社会教育事業への参加は少ない。



2 高齢社会に関する教育の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
家庭教育	○核家族化・少子化・地域コミュニティの希薄化に伴い、育児不安を抱える親が増加しているため、親に対する育児相談を実施する。	○青少年地区懇談会（生涯学習課）	○育児のつどい（福祉保健課） ○親子わくわくサロン（福祉保健課）	・少子化問題を直接的に取り上げた事業が少ない。 ・育児相談は、保健福祉課が所管している。 ・「親子わくわくサロン」は、平日の午後に開催され、共働きの家庭に対応できていない。	・少子高齢社会の問題を考えるプログラムを企画する。 ・他課との連携、情報交換を密に行い、事業を計画する。 ・学習者が参加しやすい時間帯での研修を企画すると共に、公民館分館を活用して、地域の高齢者による育児相談の場を新たに設ける。
少年	○少子化、核家族化が進行し、人との交流経験が不足する子どもが多くみられることから、地域や高齢者等との交流を図り、心のふれあいを通じて、少年期から豊かな心を育む。	○子どもクラブペタリンク大会（生涯学習課）	○昔遊び大会（小学校との連携）	・高齢者との交流は、学校ごとに行っている。 ・継続的な活動につながらない状況がある。	・既存の事業を見直し、三世代交流事業を実施する。 ・日常的な活動とするために、学校など、他機関との連絡会を行う。
青年	○高齢社会に向けて、より多様で効率的な活動ができるように、ボランティア連絡協議会を核としてボランティア団体のネットワーク化を支援していく。	○K町夏まつり（生涯学習課）	○デイサービス・カラオケ・茶道・踊り（社会福祉協議会からの補助金を得てのボランティア活動）	・ボランティア＝福祉という考えが強く、ボランティア活動に広がりがない。 ・ボランティアコーディネーターが不足している。	・生涯学習指導者名簿を作成し、登録と啓発を行う。 ・自立して活動できる力を育み、組織づくりを支援するために、ボランティアリーダー及びコーディネーターの育成に力を入れる。
成人	○健康教育の充実や健診などを通じて、町民の健康づくりに対する意識を高め、食生活改善や軽スポーツを含めた、健康づくりを推進していく。	○健康フェスタ・ニュースポーツ・体力テスト（生涯学習課） ○町民運動会（生涯学習課） ○各種スポーツ大会（生涯学習課）	○健康づくり教室（福祉保健課） ○成人検診（福祉保健課）	・町民運動会や各種スポーツ大会は、参加者に偏りがあり、自主性に乏しく、町民全体のスポーツ活動となっていない。 ・スポーツ関係以外の社会教育事業への参加が少ない。	・実行委員を広く町民から募り、各種スポーツ事業を実行委員会主体で展開する。 ・第二の人生のスタートを支援するキャリアアップ講座や、起業研修の充実を図る。
女性	○男女共同参画社会実現のため、育児休業制度など、町内企業に対して「働きながら子育て出来る職場づくり」の普及・啓発を行っていく。	○女性教養講座・講話（男女共同参画について） ・研修視察（生涯学習課）	○養護老人ホーム訪問（婦人会）	・男性や事業者などへの働きかけがない。 ・学習形態が講演中心で単調である。	・男女で参加できる講座の開設、事業者との連携のための連絡協議会を設置する。 ・ディベートやディスカッションなど、参加型学習形態を導入する。
高齢者	○高齢者の経験や技能を生かした学校教育及び社会教育・就労促進・シルバーボランティアの推進など、高齢者が生きがいを持って暮らせる地域づくりを目指していく。	○寿学級・講話（老いを生きる） ・健康管理（お茶の効用） ・時事問題（総選挙） ・人権問題（公民館）	○いきいきクラブ・レク大会・ダンス、気功・食改善（福祉保健課）	・趣味の講座は充実しているが、技能や教養を磨く学習の場がない。 ・参加者が固定化している。 ・他課との連携が不足しているため、類似の事業が多い。	・特に、学校教育や家庭教育で高齢者の経験・技能を伝えるための、実践的なスキルアップの機会を設ける。 ・学習者が参加しやすいように交通手段を考慮する。 ・他課との連携を図っていく。

IV 施策の展開（平成17年度高齢社会に関する教育事業計画）

(1) 社会教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心のふれあいを大切にし、支え合い・助け合うことによって、誰もが安心して暮らせる町をつくろう。</li> <li>・子どもから高齢者までが、健康で生きがいを持って暮らせるようにしよう。</li> <li>・子どもたちが、健全な心と健康な体を持つことができるよう、地域ぐるみで子育てに取り組もう。</li> </ul>
(2) 高齢社会に関する教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいで、心うるおうまちづくり。</li> <li>・いつでも笑顔で生き生きと、仲間とともに学び合おう。</li> <li>・町ぐるみで、子育て・老いを考えよう。</li> </ul>
(3) 社会教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世代間交流や地域との交流・町の文化遺産への理解を通じて、町およびそこで暮らす人への愛着を養い、周りを思いやり、大切にできる子どもたちの育成を目指す。</li> <li>・全ての町民が、学習やスポーツに気軽に取り組むことができるよう、時代に対応した機能を有する施設・設備の整備や、学習機会の提供を図る。</li> <li>・子どもたちを「地域ぐるみで育てていく」意識の醸成を図る。</li> </ul>
(4) 高齢社会に関する教育行政目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世代間交流を推進し、心のふれあいを通じて、豊かな人間形成を図る。</li> <li>・健康で生きがいのある豊かな生活を営むために、多様な学習機会を提供し、自主的な活動を推進する。</li> <li>・地域ぐるみの、子育て相談・支援体制を整備する。</li> </ul>

(5) 高齢社会に関する教育年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
家庭教育	○なかよしクラブ（新規）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○誰もが参加しやすい育児相談や交流の場を提供する。</li> <li>○少子高齢社会の問題を考える機会を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公民館や公民館分館において、高齢者による子育て相談や親の情報交換を推進する。</li> <li>○公民館において、講義、グループ討議等、多様な形態で学習する。</li> </ul>	現在子育てに関わっている人 子育て経験者 150人	5月～9月 月2回 計10回	60	福祉保健課との連携で事業を企画し、公民館で開催する場合の交通手段を確保する。
少年	○つどい・体験・創作！ニュースポーツ～50年後のK町～（新規）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ニュースポーツを中心とした活動を通して、日頃ふれあいが少ない世代間の交流を実施する。</li> <li>○各地区に点在している生涯学習関連施設を利用しての、継続的な活動に発展させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講話・実習（世代に応じた体づくり）</li> <li>○ニュースポーツの紹介</li> <li>・グラウンドゴルフ</li> <li>・シャッフルボード</li> <li>・ペタンクなど</li> <li>○自分たちで、用具やルールを工夫したり教え合ったりして楽しむ。</li> </ul>	小中学生 36人  高齢者 36人  成人 36人	7月～2月 2時間×10回	380	学校と協力した広報活動  「子どもの居場所づくり」の中のひとつの事業につなげていく。
	○ようこそ大センパイ！（新規）	○高齢者の豊富な経験や知識を生かし、未来の自分の生き方を考える機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ</li> <li>・インタビュー</li> <li>・グループ学習</li> <li>・高齢者疑似体験</li> </ul>	小学生 90人 高齢者 18人	10月～12月 90分×6回	24	小中学校の総合的な学習のプログラムとして学校との連携を図る。
	○カッコよくエイジング！（新規）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・話し合い</li> <li>・ワークショップ</li> <li>・シンポジウム</li> <li>・実習</li> </ul>	中学生 90人 高齢者 18人	10月～12月 90分×6回	24	
青年	○まなびのクリエイトセミナー（新規）	○生涯学習社会構築のために、自立して活動できる力を育み、各団体の活性化を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会</li> <li>・ワークショップ</li> <li>・シンポジウム</li> <li>・調査、研究の成果の提供</li> </ul>	町内各団体の代表者	4月～5月 計5回	60	ボランティア連絡協議会を中心に運営

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
青年	○ボランティア人材バンク事業(新規)	○地域の教育資源(人材)活用を含めた学習機会の拡充のための情報提供をする。	○生涯学習指導者の登録を行い、登録者リストを全戸配布し、町民の要望があった場合、適当な指導者を紹介する。	町民及び町内在勤者	年1回配布	200	近隣の地方公共団体との連携
	○K町夏まつり(継続)	○様々な団体が連携をとりながら、生きがいづくりを推進するとともに、みんなで支え合う思いやりのあるまちづくりを目指す。	○よさこいおどり、出店、カラオケ大会等を、実行委員会中心に運営していく。	町内各種団体ボランティア(実行委員として30人)	6～8月10回(実行委員会も含む)	80	商工会との連携
成人	○シニアの生き方発見講座(新規)	○現在の生活の基盤を見直し、これからの人生を豊かに過ごすための方策を考える機会を提供する。	・講演会(今後のライフプランや起業について考える)(時事問題) ・演習(これからのマネープラン) ・実習(IT)	40歳前後の成人 30人	11月～3月 月2回 計10回	200	
	○健康フェスタ(継続)	○実行委員を広く町民から募り、各種スポーツ事業を実行委員会主体で展開する。	○健康フェスタ ・ニュースポーツ ・体力テスト	町民	11月	100	種目決定等計画段階から、実行委員会主体で行う。(会議は随時行う。)
	○町民運動会(継続)		○町民運動会 ・リレー ・分館対抗種目		10月	1,500	
○各種スポーツ大会(継続)	○スポーツ大会 ・バレーボール・野球 ・スーパーキックベースボール		4月～1月		800		
女性	○すまいる成人塾(新規)	○男女で共に、男女共同参画社会や老いを考える、参加学習形態を取り入れた講座を提供する。	・講話 ・ディベート ・ディスカッション ・研修視察	30歳～50歳の男20人 女20人	6月～10月 月2回 計10回	350	
	○働く女性の応援団(新規)	○町内企業に対して、「働きながら子育てできる職場づくり」の普及・啓発を推進していく。	○事業者との連絡協議会の設置 ・話し合い ・講話	企業代表者20人 社会教育主事2人	7月～8月 2回	80	各企業への事前の案内を配布する
高齢者	○寿学級(継続)	○健康で生きがいのある豊かな生活を営むための、学習や体験を提供する。	・講話 ・レク大会 ・ダンス ・実習(食改善) ・研修旅行	高齢者 150人	10月～3月 計10回	300	福祉保健課との連携で事業を企画し、交通手段を確保する。
	○まちづくりベテラン講座(新規)	○学校教育や家庭教育で、高齢者の技能を伝えるための、実践的なスキルアップの研修を行う。	・講義(住民参画とまちづくり) ・実技(ボランティア活動の実際) ・グループ討議(社会参加について)(世代間理解から世代間交流へ)	高齢者 40人	4月～6月 週1回 計10回	50	社会福祉協議会や学校教員の協力を得て行う

V 高齢社会に関する教育学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	つどい・体験・創作！ニュースポーツ～50年後のK町～	
(2) 事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースポーツを中心とした活動を通して、日頃ふれあいが少ない世代間の交流を実施し、高齢社会に関する教育を推進する。</li> <li>・各地区に点在している生涯学習関連施設を利用し、継続的な活動に発展させる。</li> </ul>	
(3) 実施主体	K町教育委員会 体育指導委員会 協力機関（グラウンドゴルフ愛好会、社会福祉協議会、S大学など）	
(4) 対象者・定員	（小中学生12人 高齢者12人 成人12人）×3会場 合計108人	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	7月～2月	1回の学習時間 2時間×10回
(6) 学習場所	総合運動場 保健センター K町小学校	
(7) 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースポーツを通して、いろいろな世代の人々との交流を深める。</li> <li>・体験活動や話し合いを通して、それぞれの世代で高齢社会を考える機会とする。</li> <li>・みんなが楽しめるニュースポーツを創り出すことで、地域への愛着や思いやりの心を身につける。</li> </ul>	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1	わくわく開講式 「GO!GO!ゴルフ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○開講式</li> <li>○オリエンテーション</li> <li>○実技                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラウンドゴルフ（6人1組×9ホール）×2回</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育指導員</li> <li>・公民館職員</li> <li>・グラウンドゴルフ愛好会</li> </ul>	108人全員で実施 <評価> みんなでグラウンドゴルフを楽しめたか。（実技終了後、各チームで感想発表をする。）
2	高齢社会を考えるI 「50年後のK町を 考えよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○演劇鑑賞「50年後のK町」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「50年後の家族や社会の姿がどう変わっているか」をテーマに演じてもらう。</li> </ul> </li> <li>*3部屋に分かれて活動</li> <li>○コーディネーター中心のディスカッション                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介及び劇を観ての感想発表をする。</li> <li>・望ましい50年後のK町について語り合う。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館で活動している演劇サークル</li> <li>・福祉ボランティア（コーディネーターとして）</li> </ul>	108人全員で実施 <場所> K町公民館 108人の参加者を、活動場所ごとに3クラスに分け実施 （36人×3クラス） <場所> 公民館内3部屋 <評価> 以下の観点について、コーディネーターから問いかける。 *小中学生* 50年後の自分や老いについて、考えることができたか。 *成人* 高齢社会を見通したライフステージや、これからの自分の生活について、考えることができたか。 *高齢者* 人生の先輩としての知恵や力をもって、K町のまちづくりに参加しようという心情になれたか。
3	「エンジョイ！ペタンク」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実技                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペタンク</li> <li>トリプルス（3人対3人）で行う</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育指導員</li> <li>・公民館職員</li> <li>・S県ペタンク協会</li> <li>・子どもクラブ（ペタンク経験者）</li> </ul>	3クラスで実施 <場所> 総合運動場 健康センター K町小学校 <評価> ペタンクについて、第1回と同じ観点・方法で評価する。

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
4	「レッツ！シャッフル」	○実技 ・シャッフルボード ラウンドロビンで行う。 (1人対1人対1人)	・体育指導員 ・公民館職員 ・S県レクリエーション協会	各クラスで実施 <場所> 3カ所 <評価> シャッフルボードについて、第1回と同じ観点・方法で評価する。
5	体づくり講座 「間違いだらけの体の使い方」	○講義 ○演習 ・正しい体の使い方 ・体ほぐし	・S大学教授 ・体育指導員 ・公民館職員	全員で実施 <評価> 講義・実習を通して自分の体の使い方について見直すことができたか。(感想カードに記入する。)
6	「ホップ！ステップ！ フライング」	○実技 ・フライングディスクゴルフ (3人1組×12ホール)	・体育指導員 ・公民館職員 ・S県レクリエーション協会	各クラスで実施 <場所> 3カ所 <評価> フライングディスクゴルフについて、第1回と同じ観点・方法で評価する。
7	「チャレンジ！ ユニカール」	○実技 ・ユニカール (3人対3人)	・体育指導員 ・公民館職員 ・S県レクリエーション協会	各クラスで実施 <場所> 3カ所 <評価> ユニカールについて、第1回と同じ観点・方法で評価する。
8	高齢社会を考えるⅡ 「実感！ 体験！ 未来のわたし」	○これまでの自分を語る ・少人数(各世代2人ずつ、計6人)で、各自が昔の写真等を持ち寄り、提示しながら話をする。 ○高齢者疑似体験 ・高齢者疑似体験器具を身につけて、加齢に伴う身体機能や感覚の変化を実感する。 ○話し合い・ふりかえり	・社会教育主事 ・公民館職員 ・社会福祉協議会 (疑似体験指導・用具操作) ・福祉ボランティア (コーディネーターとして)	各クラスで実施 <場所> 3カ所 <評価> 以下の観点について、コーディネーターから問いかける。 *小中学生* *成人* 体験活動を通して、高齢者の立場を理解することができたか。 *高齢者* 自分の経験や思いを、次世代に伝えることができたか。
9	「つくろう！K町スポーツ」	○話し合い及び実技 12人×3グループ ・グループ毎に、どの世代の人も楽しめる新スポーツを創る。(ルール、用具等) ○発表 ・各グループで新スポーツを発表し、クラスで1つのK町スポーツを創りあげる。	・体育指導員 ・公民館職員 ・S県レクリエーション協会	各クラスで実施 <場所> 3カ所 <評価> 各世代が協力して、みんなが楽しめるスポーツを作ることができたか。(発表の場でグループの相互評価をする。)
10	ふりかえり講座 「決定!! K町スポーツ」	○発表 ・各クラスで完成させたK町スポーツを発表する。 ○感想用紙の記入 ○感想発表 ふりかえり ・各世代3名ずつ感想を発表する。 ○閉講式 ・K町スポーツ認定式(町長より認定) ・町長より、本講座で深めたふれあいを大切に、高齢社会についての知識・気づきを今後の生活に生かしていくように話をしてもらう。	・町長 ・体育指導員 ・公民館職員	全員で実施 <評価> 世代間交流を通して、今後の高齢社会を考えることができたか。 (感想用紙に記入する。) ----- ○本講座が修了しても、拠点とした生涯学習関連施設を「子どもの居場所」のひとつとして、自主的・継続的な活動に発展していくように支援する。

# 第13節 生涯学習によるまちづくり推進計画

<分析シート1>

## S市O区生涯学習によるまちづくり推進計画

### 1 S市O区の概要

#### (1) 地勢・地域条件等

- ① 全国有数のターミナル駅であるO駅（乗降客数1日約619,000人＝O区人口の約6倍）と、県内一の商業・業務地区を擁し、交通・経済の中心地として発展している。
- ② 桜の名勝地であるO公園・H神社など歴史資源や緑も多い。
- ③ 人口は107,146人（男性53,234人、女性53,912人）、世帯数は46,080世帯である。

#### (2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① 交通の利便性が高いため、コンサートや展示会等のイベントも多く、さまざまな情報収集をしやすい環境にある。
- ② O区は、人口あたりの犯罪発生件数が全国平均の約4倍と高い。（参考：H15年度は1万人あたり936件）
- ③ O区の高齢化率は約18%で、S市内で第1位である。（参考：S市全体の高齢化率は15.3%）

#### (3) 教育・文化的環境

##### ◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	9 (8)
小 学 校	9
中 学 校	7
高 等 学 校	2
大 学・短大	0
専 門 学 校	0

##### ◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数
生涯学習センター	1
公民館、教育文化施設	14
図書館	2
博物館	2
スポーツ施設、公園等	3
青少年教育施設	0
郷土資料館	0

##### ◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 市町村合併により、区独自の文化が明確でないなか、地域への愛着（郷土愛）の醸成が急務である。
- ② 地元プロサッカーチームへの応援活動を軸に、生涯スポーツの意識が高まっている。
- ③ 社会問題やボランティア活動への関心は26%である。（市民意識調査より）

2 生涯学習によるまちづくり推進の現状と課題

区分	施策	現 行 の 事 業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
（生涯を通じて学習できる環境の創造）	学習環境 ユニバーサルデザインによる環境づくりや交流の場の充実	○学習環境のユニバーサルデザイン化 ○交流の場(サロン)の拡充	○福祉のまちづくりの推進(福祉総務課)	○ユニバーサルデザインについて十分に理解されていない ○交流の場についての広報が不足している	○意識向上と情報提供に努める ○広報を工夫する
	学習施設 開かれた生涯学習関連施設づくり	○公民館やコミュニティ施設の適正配置とサービス向上 ○学校施設の有効利用 ○図書館の適正配置	○地域に開かれた学校運営の推進(指導1課)	○住民ニーズに沿っていない	○住民の参画による企画充実を図る
（市民一人ひとりへの学習支援サービス充実）	学習情報 ハードとソフトの整備	○生涯学習情報の提供 ○NPO・民間教育サービスなどの情報活用	○広報誌の発行(広報課) ○市民のIT活用の支援(情報政策課)	○学習者に情報が届かない	○広報を工夫する
	学習機会 多彩な学習機会の提供	○ライフステージに応じた学習機会の提供 ○生涯スポーツの振興 ○文化財の活用、伝統文化の継承	○Sシティカップ開催事業(スポーツ企画課) ○スポーツ文学賞事業(文化振興課) ○盆栽文化の振興・活用(政策調査課)	○担当部署の横のつながりが無い ○内容に偏りがある	○情報を的確に統括する部署が必要である ○学習プログラムの精選と充実を図る
	課題学習 現代的課題への対応	○地域における安全教育・リスク学習の推進 ○消費者学習の推進 ○環境教育の推進	○消費生活安全事業(消費生活総合センター) ○環境教育・学習の推進(環境総務課・指導1課)	○魅力ある講座に結びつかない	○時代に即応した職員研修による企画を充実させる
	家庭での学習親子がふれあい、向き合う学習の支援	○子育て・家庭教育の支援	○子育て支援ネットワーク事業(子育て支援課) ○子育て支援総合事業(子育て支援課)	○担当部署の横のつながりが不足している	○情報交換の場づくりに努める
（学習成果かや人材の活用促進）	学習成果 評価と活用	○学習成果の発表の機会の拡充 ○生涯学習人材バンクによる人材活用の促進 ○中高年の人材活用の促進	○市民活動団体等支援事業(コミュニティ課)	○個人的な学びで終わっている ○連携不足で人材活用が停滞している	○地域づくりへの活用のシステムを構築する
	団体学習活動 自主的な活動の支援	○学習団体・サークルへの支援	○市民活動団体支援事業(コミュニティ課)	○活動が地域づくりに結びついていない	○地域ボランティアの発掘とコーディネートを行う
	地域社会での学習 相互学習(学び合い)の促進	○家庭・学校・地域の連携強化 ○児童や青少年の体験活動・世代間交流の場づくり ○体験活動を支援する人材の育成・活用	○青少年の健全育成事業(青少年課)	○学校と地域の連携が不足している	○共通の目的づくりによって、連携を強化する

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
(学習成果や人材の活用促進)	まちづくり 学び合う地域社会の 担い手づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自主企画講座への支援</li> <li>○地域づくりの人材確保・活用</li> <li>○生涯学習関連施設での人材活用促進</li> <li>○区のまちづくりへの協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域講師派遣事業(指導1課)</li> <li>○シルバー人材センターの充実(高齢福祉課)</li> <li>○まちづくりへの市民参加の推進(都市総務課)</li> <li>○市民活動団体等支援事業(コミュニティ課)</li> <li>○市民活動サポートセンターの整備(コミュニティ課)</li> <li>○環境美化推進事業(廃棄物政策課)</li> <li>○防犯対策事業(市民総務課)</li> </ul>	○2007年問題で地域に戻ってくる人達をどう担い手にしていくかが課題である	○中高年対象プログラムの充実を図る



IV 年間事業計画（平成17年度生涯学習によるまちづくり推進事業計画）

(1) 社会教育目標	いつでも、どこでも自由に楽しく学ぶことのできる心豊かなまちづくりをすすめよう。
(2) 生涯学習によるまちづくり推進目標	身のまわりの環境をふりかえり、安全で住みよいまちづくりに努めよう。
(3) 社会教育行政目標	自ら学び、その学習成果を地域づくりに生かせるよう、市民の学び合い・交流を支援する。
(4) 生涯学習によるまちづくり推進行政目標	教育・文化的環境や住民の生活状況等を把握し、有益な施策・事業を実施することにより、安全で住みよいまちづくりを推進する。

(5) 生涯学習によるまちづくり推進年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
学 べ る	あなたが地域のユニバーサルデザイナー	○ユニバーサルデザインに関する理解を深め、独自のアイデアでまちづくりに貢献する。	○ユニバーサルデザイン講座を開設し、住みよいまちづくりとは何かを話し合い、○市へ提言する。	全区民 20人	月1回開催 (12回)	50	社会福祉協議会と連携
	僕らのまち地域交流マップ・コンテスト	○交流の場を、青少年の力で住民にPRし、周知を図る。	○中学生の手作りによる交流の場MAPを作成し、各校区内に全戸配布する。	中学生 各校1チーム	ワーク(夏休み10回) コンテスト(秋1回)	2,300	各校単位で参加 希望者は他校区区分MAPも入手可能
	ガチネットワーク会議	○各小学校と地域の連携を図ることにより、施設の有効活用と人的ネットワークの充実を図る。	○各小学校長、自治会長、地域ボランティア等で組織を作り、連携した活動を考案・実施する。	各小学校長、自治会長、地域ボランティア	年10回開催	25	
選 べ る	「学ぶ・はぐくむ」広場	○ホームページに生涯学習情報を集約することにより、学習者が情報収集しやすくする。	○S市ホームページを活用した各種学習情報を提供する。そのホームページにNPO・民間教育サービスのホームページとのリンクをはる。	全区民	通年	0	既存のホームページの充実
	まなび祭り	○幅広い学習機会の提供と各種学習団体の交流を図り、区の文化を創り出す。	○団体による自主講座の開催、展示発表、ホームページ上のバーチャル体験 (例：盆栽、Jリーグ)	全区民	5～12月 月1回 (全8回)	500	実行委員会形式(テーマ別に、強化月間を設定する)
	行政スキ研(理論編・実践編)	○現代的課題を市民と協働で解決するための企画スキル研修を通じ、感度が高く企画ノウハウを身につけた職員を育成する。	○首長部局・社会教育職員合同の、市民向けプログラム企画立案研究を行い、終了後、実際に市民向けに講座を実施・運営する。	環境総務課、コミュニティ課、公民館職員など10人	1セット6回 2セット/年	30×2 セット	首長部局・社会教育職員との協働作業

<様式4>

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
選 べ る	子育てよろず相談所	○子育てに関する各種事業の連携を図り、親への支援を充実し、地域で子育てに取り組む。	○行政、民間、地域の子育て関係者が一同に集まり、合同相談所を開設する。 (例：子育て支援課、保健所、子育てサークル、おばあちゃんおじいちゃん)	全区民	年3回	150	ブース展示  実行委員会形式
	「ご近所の底力」発掘プロジェクト	○安全なまちづくりの課題を、地域住民が共有し、解決に向けた地域、人材の発掘・活用を支援する。	○公民館等で「安全・安心」をテーマにした連続講座を開催し、地域課題の抽出と、地域人材を活用する連携のしくみをつくる。	高校生以上30名	5回連続	100	市民参画の企画づくりを成果とする
生 か せ る	護身術入門講座	○団体やサークルのポテンシャルを、安全で住みよいまちづくりに活かす。	○合気道や柔道等のサークルの指導により、小中学校で、基礎的な護身術や心構えのミニ講座を実施する。	小中学生30～100人程度	通年(随時)区内全小中学校16箇所	100	防犯パトネット～委員会のアドバイス等も参考にする
	キャンパスに描く街～街ガイドブック作成物語～	○身のまわりの環境を見直して、安全で住みよいまちづくりを目指した住民参画をすすめる。	○歴史講座、街探検、ガイドブックづくり等を組み合わせる。 ○ガイドブックを成果物とする。	55才以上30人	11回	150	小学生にイラスト提供ボランティアを依頼
	防犯パトネットたちあげ委員会	○地域の防犯パトロールの現状と課題を把握・共有し、パトロールのネットワークシステムを構築する。	○治安に関する講座、意見交換会、防犯MAP作成等を行う。	全区民	6～3月 月1回 (全10回)	100	防犯関係団体代表者や「マイタウン再発見」受講者に企画協力依頼

V 生涯学習によるまちづくり推進学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	キャンパスに描く街～街ガイドブック作成物語～	
(2) 事業の目的	身のまわりの環境を見直して、安全で住みよいまちづくりを目指した住民参画をすすめる	
(3) 実施主体	〇区拠点公民館と〇区コミュニティ課による共催事業	
(4) 対象者・定員	55才以上・30人	
(5) 学習期間・学習時間（回数）	5月～7月	1回の学習時間 2時間×2回、3時間×8回、6時間×1回（計11回）
(6) 学習場所	区内各所（〇区拠点公民館等）	
(7) 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の歴史と文化に対する理解を深める。</li> <li>・ガイドブックづくりを通して、安全で住みよいまちづくりへの参画意識をもつ。</li> <li>・地域の課題に対して、自分が貢献できることを探る。</li> </ul>	

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1	第一章 出会い…2006 (3時間)	導 入 ○開講（講座の趣旨・概要の説明） ○講義「〇区の歴史」（文化財等を視覚的資料も用いて学ぶ） ○演習「お互いを知り合う」（自己紹介等）	S市教育長（挨拶） 郷土史研究家（講義） 社会教育主事（演習）	〈場所〉公民館 ・全員で〇区の歴史について共通認識をはかる。
2	第二章 その先に見えるもの (2時間)	概 論 ○講義と演習「〇区の現状と課題」（さまざまな視点から〇区の現状と課題について学び、意見交換する）	S市コミュニティ課長 S県警防犯担当 社会教育主事	〈場所〉公民館 ・地域課題掘り起こし。 ・防犯パトネット事業への関連づけ。
3	第三章 いつも隣に君がいた（2時間）	実 践 ① ○グループディスカッション「地域を見つめ直そう」（文化財やモノだけでなく、地域の課題なども出し合い分野分けする。分野例：家族お散歩ガイド、防犯ガイド等） ○関心のある分野ごとに編集グループをつくる。	社会教育主事	〈場所〉公民館 ・小グループ討議で〇区の問題点も洗い出す。 ・関心によって編集グループを決める。
4	第四章 未来予想図 (3時間)	実 践 ② ○講義「ガイドブックのつくりかた」 ○グループディスカッション（ガイドブックのテーマ設定と次のフィールドワークの準備）	タウン誌編集者（またはデザイン系の専門家） 社会教育主事	〈場所〉区内各所 ・紙面作成の技術を学ぶ。 ・フィールドワークのテーマ設定及び行動日程の企画。
5	第五章 瞳に写った景色 (3時間)	実 践 ③ ○フィールドワーク「我が街探検」（各テーマごとのグループに分かれて実際に街歩きをする）	グループに応じて、行政の関係各部署等からのアドバイザー	〈場所〉区内各所 ・グループ毎に課題を絞った現地研修。
6	第六章 想いを形に vol.1 (3時間)	実 践 ④ ○演習「ガイドブック作成①」（グループ別作業。フィールドワークの結果をまとめておおまかな紙面をつくる）	社会教育主事	〈場所〉公民館 ・フィールドワークで得たデータの整理とガイドブックの基本構想。
7	第七章 想いを形に vol.2 (3時間)	実 践 ⑤ ○演習「ガイドブック作成②」（グループ別作業。ガイドブックの一次完成。小学生にイラストを依頼。）	社会教育主事	〈場所〉公民館 ・分担、協力してガイドブック原稿作成。 ・区内小学校との連携を図り、まちづくりへの子ども達の参画につなげる。

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
8	第八章 想いを形に vol. 3 (6時間)	実践 ⑥ ○フィールドワーク「トライアルウォーク」 (グループ別に、他グループ作成のガイドブックを持って歩き、チェックする) ○演習「ガイドブック作成③」 (トライアルウォークでの評価をもとに修正)	社会教育主事	〈場所〉区内各所、公民館
9	第九章 想いを形に vol. 4 (3時間)	実践 ⑦ ○演習「ガイドブック作成④」 (講師によるアドバイスと最終チェック。発表の準備)	タウン誌編集者	〈場所〉公民館
10	第十章 汗と涙の結晶 (3時間)	まとめ ① ○ガイドブック発表とふりかえり ○事例研究「△△の場合」 (活動継続に向けて、先進的な他所の事例を聞く)	タウン誌編集者 (コメント) タウン誌やMAPづくりを継続的に行っている他地域の市民(事例発表) 社会教育主事	〈場所〉公民館 ・グループ毎に、ガイドブックのテーマと気づいたことを発表。
11	第十一章 ここから始まる物語(3時間)	まとめ ② ○グループディスカッション「ガイドブックの活用&今後の活動に向けて」 (ガイドブックの作成者として、ガイドブックの効果的活用への方策を検討するとともに、自らが地域に今後どう関わっていけるかを話し合う) ○交流会「出版記念パーティ」 ○閉講	区長(挨拶) 社会教育主事	〈場所〉公民館 ・今後のまちづくりへの、参加者の主体性を高める。 ・協力者にも声かけする。

## 第14節 学社連携・融合推進計画

<分析シート1>

### N市学社連携・融合推進計画

#### 1 N市の概要

##### (1) 地勢・地域条件等

- ① N市は、C県の北部に位置し、江戸時代の城下町として栄え、醤油の町として有名である。
- ② 総面積は103.54平方キロメートルで、地形的には、市の最北端部でT川、E川が分流し、東をT川、西をE川、南をT運河によって、三方を河川に囲まれる大地と緑と水の町である。
- ③ 人口は、平成15年度にS町と合併し、153,243人となった。

##### (2) 地域住民の生活状況の特徴

- ① N市の市民意識調査によると、「N市は住み良い。」と回答した人が7割を越えている。理由として、緑の保全や自然環境などの生活環境についての評価が高い。
- ② 平成9年に、豊かな自然と歴史を生かした健康的な文化都市を目指すために、「個性豊かなまちづくりを行う人権・平和尊重都市宣言」をした。
- ③ 自治会・町内会への加入率は、9割を越えている。また、6割以上が地域活動に参加している。しかし、居住年数3年未満の新住民の加入率は7割を切っている。

##### (3) 教育・文化的環境

###### ◇ 学校等数

種 別	数
幼稚園(保育所)	13 (13)
小 学 校	20
中 学 校	12
高 等 学 校	5
大 学 ・ 短 大	1
専 門 学 校	0
養 護 学 校	1

###### ◇ 生涯学習関連施設（民間を含む）

種 別	数	種 別	数
公 民 館	11	体 育 館	3
図 書 館	4	野 球 場	3
郷土博物館	6	庭 球 場	4
音楽ホール	3	ふれあい広場	4
文化会館	1	水 泳 場	1
科学教育センター	1	陸上競技場	1
視聴覚フィルムライブラリー	1		

###### ◇ 教育・文化的環境の特徴

- ① 各小学校を会場として、毎週土曜日の午前中2時間、小学生を対象とし算数の学習をするサタデースクールを開設、また、第1・3・5土曜日の午前中2時間、小・中学生を対象として日本古来の伝統的文化・芸術に関するものや体育に関する活動の場としてオープンサタデークラブを開設している。指導者は、地域から希望者を募っている。
- ② 小学校3、4年生の算数学習では少人数授業やチームティーチングをしている。教員免許状を持っている地域の人が講師として採用されている。
- ③ ボランティア活動に住民の3人に1人が参加し、意識の高さがうかがえる。
- ④ スポーツ関連施設が充実しており、利用者も多く関心が高い。

2 学社連携・融合推進の現状と課題

区分	施策	現行の事業		現状の問題点・課題	問題解決・課題達成のための方向性
		社会教育行政	学校・関連行政・民間・団体等		
推進体制	学社連携・融合を積極的に推進するための体制づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習講演会（生涯学習課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA連絡協議会（各学校）</li> <li>総合学習推進委員会（各学校）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民・行政職員・教員の学社融合への理解が不足している。</li> <li>社会教育行政とその他関連団体・機関との連携が図られていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学社融合に関する市民、教育関係者、行政職員が合同あるいは個別（地区ごと）の研修会・情報交換会を開催する。</li> </ul>
学習機会の提供	市民の学習ニーズに対応し市民が、個性ある地域社会の生活文化を形成する原動力になるという認識のもと、子ども達が自発的に参加できる学校外体験学習の機会づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒の学校外体験活動の活性化</li> <li>市民の学習機会の拡充と支援</li> <li>市民参加型の自主文化事業</li> <li>教育環境改善事業（生涯学習課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の活動（各学校）</li> <li>部活動</li> <li>クラブ活動</li> <li>体験活動</li> <li>作文、ポスター、標語の募集（各種団体）</li> <li>交通安全教室（交通安全協会）</li> <li>伝統文化の伝承（各保存会）</li> <li>サタデースクール</li> <li>サタデーオープンクラブ</li> <li>T大公開講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学社融合に取り組む姿勢に学校間で差がある。</li> <li>学校と社会教育施設の連携が図られていない。</li> <li>学校の教育課程と社会教育事業の連携がとれていない。</li> <li>学習ニーズにあったプログラムとなっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各校で学社融合コーディネーターを決め定期的な会合を開催し情報交換をする。</li> <li>学校と社会教育施設の連絡協議会を開催する。</li> <li>地域ごとの学習要求調査を取り計画に活かす。</li> </ul>
人材活用	学習者の多様なニーズに対応するために、地域の人材を学校教育や社会教育に活かすよう努めるとともに、教師の地域活動や社会教育への参加を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育指導員</li> <li>社会体育指導員</li> <li>教育人材バンク</li> <li>NPOの活用（生涯学習課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学公開講座</li> <li>青少年育成推進委員（生活安全課）</li> <li>PTA連絡協議会</li> <li>生活科・総合学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人材を活用できていない。</li> <li>学校や地域が人材バンクを十分に活用していない。</li> <li>教員の地域への参加が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報などを通して人材募集を常時行う。</li> <li>人材活用のためのプログラム開発を図る。</li> <li>学習講座修了者及び教員に人材バンク登録を依頼し、資質能力を地域に活用する。</li> </ul>
広報・情報提供	市民に生涯学習推進のための情報を提供する。（市民や民間団体が発信する情報を含む。）	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習相談窓口の開設（生涯学習課）</li> <li>公民館だより（公民館）</li> <li>まなびだより</li> <li>文化財だより（生涯学習課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小・中学校だより</li> <li>広報（広報課）</li> <li>市政だより</li> <li>ホームページ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習情報が地域に活かされていない。</li> <li>広報やたよりに目を通しての人が少ない。</li> <li>人材バンクの情報が不十分で活用までつながらない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連機関とのネットワークを進め、情報検索を容易にするシステムの構築を図る。</li> <li>メディアを有効に活用する。</li> <li>社会教育施設や学校に相談窓口を開設し学社融合を推進するコーディネーターを置く。</li> </ul>
イベント・行事	学習の意欲や喜びを喚起する機会を提供する。世代間交流を深める行事を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭（各公民館）</li> <li>教育講演会（教育委員会）</li> <li>健康づくりスポーツフェスティバルの開催</li> <li>各種スポーツ大会の開催（市民大会）（社会体育課）</li> <li>マラソン大会（社会体育課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区別体育祭</li> <li>出土文化財等展示事業</li> <li>各地区体育大会</li> <li>夏祭り</li> <li>みこしパレード</li> <li>お囃子・太鼓演奏</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事と社会教育事業の開催時期の調整がとられていない。</li> <li>単発なものが多く年間を通してのものが少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と社会教育の定期的な連絡会を開催する。</li> <li>段階を追ってプログラム構成を図り、シリーズ化する。</li> <li>学社融合の視点をふまえた新しいプログラムを開発する。</li> </ul>
施設開放	市民の自主企画講座などの活動を活発にするため、学校教育施設の開放を進める。児童生徒の体験活動を深めるとともに、情操を育み、文化・芸術への関心を高めるため、学校の社会教育施設の積極的利用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育施設無料開放（生涯学習課）</li> <li>スポーツ施設開放（社会体育課）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小・中学校施設開放（教育委員会）</li> <li>高等学校開放講座（県教育委員会）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校施設の開放が十分になされていない。</li> <li>利用者、利用施設に偏りがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育施設を利用できる事業の情報提供等を行う。</li> <li>行政による学校への啓発活動を積極的に行う。</li> <li>学社融合の視点をふまえた計画的な学校開放を進める。</li> </ul>

IV 年間事業計画（平成17年度学社連携・融合推進事業計画）

(1) 社会教育目標	「未来を拓く文化とふれあいのまち」を基本目標とし、一人ひとりの生涯学習活動が個性ある地域社会の生活文化を形成する原動力になるという認識のもと、学習環境の充実に努めよう。
(2) 学社連携・融合推進目標	地域、学校、家庭がそれぞれの教育的役割を果たすために融合し、21世紀を担う「確かな学力」と「豊かな心」をそなえた、たくましい児童・生徒の育成に努めよう。
(3) 社会教育行政目標	市民の生きがい創出を支援できる地域の教育環境の整備および充実に努める。
(4) 学社連携・融合推進行政目標	学社融合をめざして、関係機関の協力と連携を深め、地域住民の積極的な交流の場として施設の有効活用を図るとともに、児童生徒の学びの場として自発的に参加できる教育環境を整備する。

(5) 学社連携・融合推進年間事業計画表

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
推進体制	N市地域教育推進協議会	学社連携・融合推進体制の基盤を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備計画の立案</li> <li>・先進地視察研修</li> <li>・調査・実態分析</li> <li>・関係機関との連絡調整</li> <li>・実行委員会の構成</li> </ul>	関係部局 社会教育施設 代表学校代表 商工会代表 保護者代表 30人	年4回	400	教育委員会
	学社融合シンポジウム	市民への学社融合の理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演</li> <li>・シンポジウム</li> <li>・事例研究</li> </ul>	市民 500人	年1回	800	教育委員会 文化会館
	学校開放推進事業	学校開放を推進することによって、学校への理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校紹介</li> <li>・住民参加型授業参観</li> <li>・学社融合推進コーディネート設置</li> </ul>	各種団体学校代表	随時	0	学校 教育委員会
学習機会の提供	N市ふれあいフェスティバル	学校や社会教育施設を利用し、スポーツ活動や文化活動を通して地域での交流を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民作品展（幼・小・中・高・養護学校および成人）</li> <li>・グランドゴルフ大会</li> <li>・ソフトボール大会</li> <li>・本とお話し会</li> <li>・生涯学習講演会</li> <li>・国際交流</li> <li>・民俗芸能発表会</li> </ul>	市民	年1回	5,000	学校 教育委員会 社会教育施設 地域住民 婦人会 商工会 関係団体
	Nっ子通学合宿	生活体験をとおして、生きる力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育施設や民家に宿泊し協力して生活体験をさせる。</li> </ul>	各小学校5・6年生 40人	年4回 (1週間)	600	社会教育施設 地域住民
	農業体験教室	地域の土地を利用し、作物を育て収穫までを体験する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・枝豆</li> <li>・ジャガイモ</li> <li>・トウモロコシ</li> </ul> （関連教科：理科）	小学校3～6年生 80人	年2回 (2日間)	800	学校 地域住民
	発進！N市民芸隊	N市の民俗芸能を学び、伝統文化に誇りと愛着を持たせる。	<民俗芸能体験> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発進！N市民芸隊（学習編）</li> <li>（体験編）</li> <li>（合宿編）</li> <li>（発表編）</li> </ul> ・発信！民芸隊通信 （関連教科：総合）	N小6年生 90人 市民 5人	6月～12月 年7回	800	学校 教育委員会 社会教育施設 民間企業 NPO団体 地域ボランティア 保護者 民俗芸能関係者

区分	事業名	事業の目的	事業内容	対象者・定員	実施期間・回数	予算(千円)	備考
学習機会の提供	N市を食べよう(郷土料理教室)	地元の特産物を知り、それを使った郷土料理を学習することで郷土への理解を深める。	<調理実習> ・枝豆饅頭づくり ・煎餅づくり ・さんがづくりなど (関連教科:家庭科)	中学校1年生～高校3年生 240人	年3回	50	婦人会 商工会 学校
人材活用	人材バンク登録者養成講座	学社融合に対する共通認識を深め円滑に推進していくために、地域指導者の養成を図る。	・人材バンク登録者や登録希望者を対象に、学校支援ボランティアや各教育機関の指導の理解を深め、講座・ワークショップ視察などを実施	人材バンク登録者や登録希望者 200人	年4回	300	学校 社会教育施設
	学習ニーズ調査	プログラム開発及び人材バンク作成のための資料を得る。	・学校や地域の学習ニーズを、アンケートで把握	幼・小・中・高・大、及び成人の2%	随時	120	社会教育施設
広報・広聴提供	Nネット事業	地域の教育資源として提供できるものを一覧表にし、情報を公開するシステム作り、それぞれの持つ情報の検索を容易にする。	・社会教育施設・学校・商工会・農協などの間のオンライン対策 ・学習情報のデータベース化と検索システムの整備	市民	年1回	900	学校 社会教育施設
	公民館だより	広報誌による定期的な事業の情報を提供する。	・広報誌による定期的な市民への情報提供	市民	年12回	1,800	社会教育施設



V 学社連携・融合推進学習プログラム（個別事業計画）

(1) 事業名	発進！N市民芸隊		
(2) 事業の目的	N市の民俗芸能を学び、伝統文化に誇りと愛着を持たせる。		
(3) 実施主体	学校 教育委員会 社会教育施設		
(4) 対象者・定員	N小学校6年生 90人 市民 45人		
(5) 学習期間・学習時間（回数）	6月～12月	学習時間 計5回 1回目 2時間 2回目 4時間 3回目 2泊3日 4回目 2時間 5回目 2時間	
(6) 学習場所	学校、少年自然の家、社会教育施設		
(7) 学習目標	学習や地域の民俗芸能体験を通して伝統文化を理解し、郷土愛を高める。		

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
	地域文化体験	総合的な学習の時間を使って、地域の民俗芸能や文化を体験するために、事前に学習の準備等を行う。	教職員 NPO団体 地域ボランティア	学校
1	発進！N市民芸隊 (学習編)	○講義：N市の伝統文化について小学生90人、市民45人が講義形式で受講 種類・バツパカ獅子舞 ・つく舞 ・つく太鼓 ・おはやし ・民俗芸能の種類や歴史を知ってもらい、地域の伝統文化に興味を持ってもらう。	民俗芸能関係者 教職員 公民館職員	学校 対象者アンケート
2	発進！N市民芸隊 (体験編)	○実習：民芸文化体験 ・全体説明 ・体験活動（グループ別） ・グループごとの話し合い ・コース希望調査 ・それぞれ4つの民俗芸能のうち、どれをやりたいかを体験し考えてもらう。	民俗芸能関係者 教職員 公民館職員	学校 対象者アンケート
3	発進！N市民芸隊 (合宿編)	○体験：＜合宿（2泊3日）＞ ・それぞれ希望する民俗芸能コースに分かれ、指導者について練習し交流を図る。 ・バツパカ獅子舞コース ・つく舞コース ・つく太鼓コース ・おはやしコース	民俗芸能関係者 教職員 公民館職員 保護者 少年自然の家職員 地域ボランティア (練習手伝いー大学生など)	少年自然の家 対象者アンケート
4	発進！N市民芸隊 (発表編パート1)	○発表： ・N小フェスティバルで実演し、学習した成果を発表し、地域文化の理解を図る。	民俗芸能関係者 教職員 公民館職員 保護者 地域ボランティア	学校
5	発進！N市民芸隊 (発表編パート2)	○発表： ・N市ふれあいフェスティバルで実演し、地域の民俗芸能を通して郷土愛を育てる。	民俗芸能関係者 教職員 公民館職員 保護者 地域ボランティア	市文化会館 対象者・見学者アンケート
	発信！民芸隊通信	○ワークショップ：コース討議、まとめ ・コースごとにこれまでの体験などを通して、N市の伝統文化を理解し、感じたことなどを話し合い、感想をまとめ、広報誌を作成し、市民に配布する。	教職員 民俗芸能関係者	学校 対象者アンケート



## 参 考



## 参考 1

### 参加型学習の様々な手法

#### 1 参加型学習とは何か

##### (1) 参加型学習の紹介と広がり

参加型学習は、1980年代の人権教育、開発教育、グローバル教育、環境教育といった欧米の新しい教育運動のなかで起こってきたものといわれている。イギリスの開発教育・グローバル教育の運動の1つであるワールドスタディーズプロジェクトや人権教育、アメリカの環境教育の活動書が翻訳されて広く知られることになったのである。主なものを紹介しておく。

- ・ラルフ ペットマン『人権のための教育—授業にすぐ使える活動事例集』明石書店、昭和62年(1987年)、平成15年(2003年)に新版
- ・サイモン・フィッシャー、ディヴィッド・ヒックス『WORLD STUDIES—学びかた・教えかたハンドブック』めこん、平成3年(1991年)
- ・アメリカ森林協議会編『「木と学ぼう」活動事例集—PLT ACTIVITY GUIDE K-6—』国際理解教育・資料情報センター、平成4年(1992年)
- ・グラハム パイク『ヒューマン・ライツ—たのしい活動事例集』明石書店、1993年
- ・スーザン・ファウンテン『いっしょに学ぼう—学びかた・教えかたハンドブック』国際理解教育・資料情報センター、平成6年(1994年)
- ・ディヴィッド・セルビー、グラハム・パイク『地球市民を育む学習』明石書店、平成9年(1997年)

日本でも、このような動きに触発されて、参加型学習に関するいろいろな事例集や指導者養成のテキストが出てくるようになった。

- ・開発教育推進セミナー編『新しい開発教育のすすめ方』古今書院、平成7年(1995年)、改訂新版、平成11年(1999年)
- ・ERIC 国際理解教育センター編『参加型で伝える12のものの見方・考え方』ERIC 国際理解教育センター、平成9年(1997年)
- ・ユニセフ『ユニセフの開発のための教育』ユニセフ、平成10年(1998年)
- ・角田尚子・ERIC 国際理解教育センター著『環境教育指導者育成マニュアル—気づきから行動へ参加型研修プログラム—』ERIC 国際理解教育センター、平成11年(1999年)
- ・開発教育研究会編『新しい開発教育のすすめ方 2 難民—未来を感じる総合学習』古今書院、平成12年(2000年)
- ・(財)国際協力推進協会編『小中学校教員用副読本 開発教育・国際理解教育ハンドブック』(財)国際協力推進協会、平成13年(2001年)。  
O[http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/kk\\_krk/kyouzai/handbook/](http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/kk_krk/kyouzai/handbook/)
- ・『じんけんスキルブック』兵庫県人権・同和教育研究協議会、平成13年(2001年)
- ・森良・エコ・コミュニケーションセンター『学びから参加へ—コミュニティ・エンパワーメント』

萌文社、平成 13 年（2001 年）

- ・ 開発教育協会編『参加型学習で世界を感じる 開発教育実践ハンドブック』開発教育協会、平成 15 年（2003 年）

また、最近では、開発途上国の地域づくりやコミュニティ開発に関する参加型開発の手法(PRA)も、国際協力の観点から紹介されている。

- ・ ロバート・チェンバース『参加型開発と国際協力ー変わるのはわたしたち』明石書店、平成 12 年（2000 年）
- ・ ロバート・チェンバース『参加型ワークショップ入門』明石書店、平成 16 年（2004 年）

このように、参加型学習は、学校教育や社会教育の領域をこえて、参加型のまちづくりや地域おこしなど都市計画や社会環境の領域にもその概念が拡大されている。

## (2) 参加型学習の特徴

参加型学習は、ともすれば、アクティビティといった言葉に代表されるように、動きのある学習活動といったイメージでとらえられがちであるが、活動における学びを自己啓発やエンパワーメント、社会改善や社会創造に結びつけていく「文脈をもった学習活動」といえる。たしかに、参加型学習は、テーマやトピックを設けて、ロールプレイやゲーム・シミュレーション、ディベート、ブレインストーミング、ランキングなど、刺激的で楽しく多様なアクティビティを取り入れている。

だが、参加型学習の特徴は、以下に示したように、①アクティビティや手法の愉しさ、おもしろさを体験的、主体的に学ぶ (active learning)、②互いに学びあい、自己と他者、地域と世界との関係やつながりにきづいていく (interactive learning)、③冷静な思考、話し合う力、調査・観察・表現する力、協力する態度を身に付け、市民として社会に参加しようとする (participatory learning) という、3つの契機を、「ふりかえり」(reflection)を通して、獲得しようするところにある。「ふりかえり」を学びのプロセスに組み込むことによって、アクティビティ(活動)という「経験」を通して、世界と自分とのつながりや関係性に気づき、自らの存在(内部)へのまなざしと外部(コミュニティや国家、世界)へのまなざしを獲得し、エンパワーメントと社会変革の契機を得ていくという文脈が、参加型学習にはあるといえるのである。

## (3) 学校教育との関連

参加型学習は、学校教育では、「総合的な学習の時間」に見られるような、子どもの興味関心を中心に、学習課題を見つけ、問いを立て、課題を追求し、調べ、疑問を解決していく学習活動の導入によって、あらかじめ決められた学習内容を学んでいく従来の教科学習に比べると、よりその学習の場を獲得しているようにみえる。特に、上述の第1の契機である主体的・活動的な学習は「総合的な学習の時間」に見られるものである。

しかし、なんのために学ぶのかといった目的や文脈を見失った学習も見られるという指摘もある。第2の契機はいうまでもなく、特に社会教育との連携においては、第3の契機も見落としてはいけないものである。

## 2 参加型学習の形態と学習プログラム

### (1) 多様な学習形態と方法

では、参加型学習の手法には、どのようなものであるか。表1は、参加型学習を、学習形態、方法、特色、留意点の4つの項目からまとめたものである。

残念なことに、アイス・ブレーキング、ブレイン・ストーミング、ウエビング、フォトランゲージ、ゲーム、シミュレーション、ロールプレイ、ディベート、ランキング、ルール・メイキング、ポリシー・メイキング、リフレクションとすべてカタカナ（英語）が並んでいる。参加型学習が欧米から導入されたことを如実に示すものである。そこで、稚拙ではあるが、カッコ内にとりあえずの日本語の名称を付しておいた。

表1では、参加型学習を、おおむね、学習の導入、問題の気づき・発見、課題の探求や事実関係や原因や結果の分析、問題解決のための考え方や立場の吟味、解決の行動や政策の立案、そして最後にふりかえりと評価といった「学習の流れ」にそって配置している。

### (2) 文脈としての学習プログラム

参加型学習は活動自体を自己目的にするものではない。なんのために学ぶのか、何をめざすのか、「ねらいや目標」を明確にする必要がある。そのためには、学習者が、自らを取り巻く社会的な状況や事象を、学習課題とするような文脈づくりを行うことが必要である。そうすることによって、問題の発見、課題の探求や原因結果の分析、解決のための考え方や立場の吟味、解決へむけた行動の立案、ふりかえり・評価といった一連の学習プログラムが生じてくるのである。

このような、学習プログラムでは、アクション・リサーチの手法はよく採用されることがある。アクション・リサーチとは、計画を立て、実行し、評価するという一連の学習過程（いわゆる Plan、Do、See）をさすものであるが、学習の文脈づくりの観点からいえば、①気づく、問いをみつける、②課題を見つける、③情報をあつめる、背景・つながり・因果関係などを検討する、④行動計画を立てる、⑤行動する、⑥ふりかえり、評価をする、という6つのステップが重要である。

表1 参加型学習（筆者作成）

形態	方法	特色・ねらい	留意点
アイス・ブレーキング（緊張ほぐし）	活動を行う前の緊張ほぐし	自己紹介カードやフルーツバスケット、バースデーラインによるグループ分けなど多様	短時間で緊張がほぐれる
ブレイン・ストーミング	アイデアなどをたくさん集めるときに使う。数人のグループで行い、他の人の発言から連想力を活用する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質より量</li> <li>・自由な発想大歓迎</li> <li>・批判はしない。</li> <li>・連想力を働かす。</li> </ul>	他人からの批判が自由な発想や発言の妨げになるという点に着目

形態	方法	特色・ねらい	留意点
ウェビング (網の目関連図)、マッピング (構造図)	収集したデータを整理するためにカードを使って、クモの巣やマップにし、全体を見ながら討論する。	収集したデータがいかされて、相互の関連や関係がわかり、全体の概観がえられることで、思わぬ発想につながる。	できるだけ多くのデータがあるほうがよい。
ウーリー・シンキング (人間クモの巣)	毛糸を使って、課題や問題の相互依存を認識する。地球的課題のような因果関係の複雑さを体感するのによい。	課題にはさまざまな原因やつながりがあり、相互に関連しながら存在していることを、議論と説得によって「人間クモの巣」に表していく。	文字通り毛糸がからみあうので、後片付けなどに時間がかかる。
フォト・ランゲージ (写真は語る)	写真や絵を使い、その中の人の立場に立って考えたり、イメージや偏見・先入観を問い直す。	写真や絵を見ていろいろな観点でグループで話し合う。各人で先入観や価値観の違いがあることに気づく。1枚の写真を2つに分断したものもある。	評価や価値に議論が出やすい題材(写真)がよい。
ゲーム	ルールにそってプレイし、相手や自分を発見したり、コミュニケーションをはかる。	多様な立場や当事者の感情などを共感的に理解できる。「貿易ゲーム」などがわかりやすい。	非競争の原理もあることに気づかせる。
ボード・ゲーム (すごろく)	学習内容をすごろくのコマに記入し、知識や問題について知る。	人生ゲーム的な要素を取り入れたりするとゲーム的な要素が高まる。	問題事象の導入や気づきに適している。
シミュレーション (仮想の世界)	重要であると見なす要素を現実から取り出して、一定の状況を模擬的に設定し、その中で行動する。	言葉で理解しにくい状況を体験的に理解できる。まちづくり教材、多文化教育教材、人権教育教材など多様	現実を単純化しているため、現実との違いを明確に意識する必要がある。
ロールプレイ (役割討論)	役割を決め、それぞれの役になりきって演じる。 ・完成された脚本を利用する場合 ・脚本を使わずその場で演じる場合 ・未完成の脚本をもとにその場で演じる場合	役の立場や考えを共感的に理解できる。社会的論争問題に活用できる。 ・比較的行いやすい。 ・参加者の判断にもとづく発言ができる。 ・学習者自身の調査活動を組み入れられる。 ・発展すれば学習者自らが課題について脚本を創ることができる。	各人の発言の分析が重要 調査の豊富な資料が必要 弱者の立場での扱いに配慮を要する。



形態	方法	特色・ねらい	留意点
ディベート (勝ち負け討論)	あるテーマについてルールを決めて「反対派」「賛成派」の2チームが論争を繰り広げ、「審査員」が勝負を判定する討論ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに対する認識が深まる。</li> <li>・議論の仕方、説得力のある提案の仕方が身に付く。</li> <li>・資料を活用する能力が身につく。</li> <li>・異なる立場に対する共感的理解ができるようになる。</li> </ul>	勝敗そのものよりも、事前の共同作業や事後のふりかえりを含むプロセス全体が大切である。
ランキング (優先順位を決める)	9つの政策カードなどをダイヤモンド型にランキングする。優先順位の理由を明らかにする。	学習者がテーマについて、他の人の意見も配慮しながら、自分自身の考えを述べることができる。	討論を大切にし、譲歩したり、合意を得る能力を引き出す。
ルール・メイキング (規範作り)、ポリシー・メイキング (政策立案)	優先順位を決めるまえに、問題解決のための方針や政策をつくる。	解決策を自分たちで話し合い、決めることができる。それをランキングによって優先順位を決めることもできる。	問題解決能力や合意形成能力が高まる。
リフレクション (ふりかえり)	授業や活動で、感じたことや学んだことを話しあったり、評価シートに記入したりして検証する。	教師や講師が一方向的にまとめをせずに、参加者の学びを引き出すために行う。自己理解や他者理解が深まる。学習に対する参加度なども評価できる。	一人ひとりの学びとしてふりかえりたい。「誘導」に注意する。

### 3 参加型学習の実際

#### (1) アイス・ブレイキング (緊張ほぐし)

##### ① バースデーラインによるグループ分け

###### ・すすめ方：

誕生日を早生まれの順から一列に並んでいく。その際、言葉を発せず手話などで行うとコミュニケーションのスキルが高まる。誕生日というパーソナルな情報であるがゆえに互いの緊張がほぐれる。一列に並んでいるので、グループ分けにすぐに入ることができる。

###### ・時間：10分程度

##### ② 自己紹介カード

###### ・準備：

A4サイズかB4サイズ用の紙。マジックなど

###### ・すすめ方：

用紙を4等分して、それぞれに①名前や②所属、③参加の動機、④趣味・最近考えていることなどを書き、4人1組ぐらいのグループに別れて、自己紹介をする。

###### ・時間：15分程度

③ フルーツバスケット (イス取りゲーム)

・準備:

グループの人数分より1つ少ないイス。ただし、10~20人ぐらいが適切なサイズであろう。これを超える場合はグループを複数にするとよい。

・すすめ方:

イスが1つ足りないので、誰かが「おに」になる。最初は指導者がたって(他は座る)、参加者の特徴(服装、趣味など)を告げ(たとえば「眼鏡をかけている人」)、該当する人数が席を立て、イスを取り合う。負けた人(「おに」)は同様に特徴を告げる。参加者の特徴を指摘するので、どんな人が参加をしているかがよく分かる。

・時間: 15分程度

(2) ブレーン・ストーミング、ウエビング、マッピング

① ブレーン・ストーミング

・準備:

メモ用紙かその大きさの付箋、マジック

・すすめ方:

ブレーン・ストーミングは、課題に関わる事象についてできるだけ思いつくこと、考えていることをメモ用紙や付箋にかいていく。4~5人のグループで行うのが適切である。まず個人で記入し、グループ内で順番に1人ずつ、用紙に書いて出していく。もちろん、いきなりグループで順番に、用紙や付箋を出していくことも可能である。

・時間: 15分程度

② ウエビング(網の目関連図)、マッピング(構造図)

・準備: ポスター大の用紙(模造紙、ポスターの裏紙)、カラーマジック一式

・すすめ方:

‡ ブレーン・ストーミングで収集したデータを整理するために、課題を中心において、用紙や付箋を網の目のように配置し、関連図にして示す。その際、課題に関わる事象や事柄の関連性やつながりの度合いなどを線の太さや種類を使って示すとさらによい。

‡ マッピングの場合は、収集したデータをいくつかのグループに分け、名称をつけ(概念化し)、構造図として示す。ブレーン・ストーミングで出てきたランダムなデータが、関連やつながり、グルーピングによって意味のあるデータに変化することが興味深い。

‡ ウーリー・シンキングは、ウエビングのプロセスを、体験的に行うものといえる。

(3) フォト・ランゲージ(写真は語る)

① 「地球家族」「地球の仲間たち」「切り取られた写真」

・準備:

写真または絵、イラスト。

教材キットとして、「地球家族」\*「地球の仲間たち」\*\*がある。

\*『地球家族-フォトランゲージ版-』ERIC国際理解教育センター、平成7年(1995年)。写真集『地球家族』TOTO出版、平成6年(1994年)を教材化したもの。<http://www.try-net.or.jp/~eric-net/j-main.html>



ごろく)によって、模擬的に体験する。

‡ テレビなどの映像で、ともすれば、支援を受けるだけの存在であるように見られがちな難民であるが、難民となった国内外の状況やキャンプでの日常的な暮らしなどが、「すごろく」のカードに記されていて、知識的な理解も身に付く。

・時間：50分程度

### ③ 「貿易ゲーム」

・準備：

教材「貿易ゲーム」(はさみ、鉛筆、コンパス、三角定規、分度器、紙を含む教材セット。これらを以下の三つのグループのタイプ別に封筒などに入れておく。)

『新しい開発教育のすすめ方』(1998)『新貿易ゲーム』開発教育協会に詳しい。

・すすめ方：

‡ 資源に見立てた紙、生産手段に見立てたはさみ、鉛筆、コンパス、三角定規、分度器をつかって、○や△、□という商品に見立てた製品の生産を競うゲームである。

‡ 通常、20～30人ぐらいの人数で、6グループに分かれて行う。資源は多くあるが生産手段がほとんどないグループ、生産手段は多くあるが資源がほとんどないグループ、その中間のグループという3つのタイプに別れる。

‡ 生産条件が最初から異なっているので、商品の生産競争のなかで、取り引きや交渉が行われる。

‡ 最初のスタートで大きな差がついているので、自由競争の結果、富の不公平が生じてしまう。自由競争の市場経済が、富の格差を生んでしまうことを模擬的に体験できる。世界貿易のシステムの中では、先進国と開発途上国、新興工業国に比すことができ、現在の南北問題が、歴史的に植民地から資源を収奪し、有利な生産条件のもとで、富を蓄積してきた結果に、生じたものであることが体験的に理解できる優れたゲームである。

留意点

‡ 「貿易ゲーム」のねらいは、あくまでも、不公正な条件における自由競争が富の格差を生み、その格差の問題点について考え、その格差を是正するためにはどうしたらよいか、を考えていくものである。しかし、ゲームとしては、格差のあるグループ間の交渉次第では、困難な初期条件を克服して、ゲームに勝利する場合がある。このようなゲーム性そのものを強調して、企業間の競争ゲームとしてすすめる人たちもいる(「トレーディング・ゲーム」という名称をつかっている)。

・時間：50～90分。

## (5) シミュレーション

### ① 「世界がもし100人村だったら」

・準備：

教材キット「世界がもし100人村だったら」(ロープ、食糧に見立てたチョコや水、役割カード)

\*開発教育協会で購入する。

・すすめ方：

「100人村」とは、世界人口63億人を100人に換算して、たとえば以下のように、民族、宗教、富、食糧、教育、医療、紛争など多様な視点から世界の状況を寓話的に語ったもの(『世界がもし100人の村だったら』マガジンハウス、平成13年(2001年))

‡ 「61人がアジア人です。13人がアフリカ人、13人が南北アメリカ人、12人がヨーロッパ人、あとは南太平洋地域の人です。」

‡ 「75人は食べ物の蓄えがあり、雨露をしのぐところがあります。でも、あとの25人はそうではありません。17人は、きれいで安全な水を飲みません。」

30人、50人といった人数でできるようにしたもので、広めの部屋や体育館などで行う。参加者は、「役割カード」をもらって、民族や宗教、富、教育、食糧などの条件をもった、地球人口を代表する一人となる。そうすることで、人口密度の高いアジアや先進国と途上国にある富や食糧、教育の格差などを文字通り体験する。

・時間：50～90分。

## ② 「ひょうたん島問題」

・準備：

「ひょうたん島問題」教材キット

\*藤原孝章原著・監修『CD-ROM ひょうたん島問題～多文化共生をめざして～参加型体験学習シミュレーション教材』ジークス、平成12年（2000年）

・すすめ方：

‡ 「ひょうたん島」という架空の島に、「カチコチ島」と「パラダイス島」という2つの島から移民がやってきて、同質的な社会であった「ひょうたん島」に、挨拶・習慣、祝祭、教育、居住、環境など多様なレベルで、文化的な摩擦や社会問題が起こり、その問題の原因や解決について検証していくシミュレーションである。

‡ 問題をめぐるいくつかの立場はロールプレイ、解決のあり方については政策カードによるランキング、具体的な解決策はポリシー・メイキング、というように参加型学習の多様な手法を導入しているので、討論や合意の形成、意思決定のスキルが身に付く。

‡ ロールプレイは、社会問題を仮構してシナリオをつくり、問題や課題をめぐる議論について調べ、一定の立場を論理的に設定し、問題解決のあり方を追求するものなので、参加者自身が一連の学習プログラムとして作成してもよい。そうすると、ルールや主張の雌雄を決するディベートにも劣らない面白さがある。

・時間：50～180分。

## (6) ふりかえり、評価

・準備：

評価シート

（気づいたこと、わかったこと、身に付いた力、活動への参加度、改善点・意見などの項目をふくむ5段階ないしは3段階の評価）

・すすめ方：

‡ 評価シートに記入してから、参加型学習の3つの契機を中心に、お互いに意見を出し合ったり、参加度の違いについて話し合う。

‡ ふりかえりは、自己ないしは他者、グループの学びを検証し、評価するために、参加者の学びを十分に引き出すために大変重要である。

‡ しかしながらここで注意したいのは、指導者の問題である。せっかくいいアクティビティであっても、指導者はいつのまにか自分の思いや考えに参加者を誘導してしまう場合があるからである。

‡ 参加型学習には、このアクティビティを進めていく力量と参加者の学びを引きだすファシリテーター（学びの支援者）の存在が大きいといえるのである。参加型学習の広がり、深まりとファシリテーションの向上、ファシリテーターの養成とは表裏一体といえよう。

## おわりに

### ー参加型学習から参加型社会へ

参加型学習が目指すのは、第3の契機に見るように、社会が参加型になり、市民が社会の主人公になるような民主主義の世の中である。暮らしやすい社会とは、「開かれた社会」であり、市民参加を可能にする社会であり、参加型学習がこのような社会の形成に貢献できることを期待したい。

(藤原 孝章)

## 参考 2

### 評価項目・指標の設定の視点と方法

#### 1 評価項目—評価の内容—

評価項目（評価の内容）については、ごく一般的な形で評価項目の例をあげておくことにしよう。これらをすべて実施すべきだというのではないし、また、これに限るというものでもない。

##### (1) 開始前の評価項目

- ① PRについて
  - ア 期間の長さ（PRの期間）
  - イ 指導者（講師・助言者など）の明示の有無
  - ウ 全体計画の明示の有無
  - エ 目標・内容・方法の明示の有無
- ② 参加者について
  - ア 参加者の数
  - イ 参加者の年齢分布
  - ウ 参加者の性別
  - エ 参加者の職業分布
  - オ 参加回数（特に新規者に注意）

##### (2) 開始の際の評価項目

- ① 情報が参加者にどう受け取られ、どのように選びとられているか。
- ② 参加者のもっている諸条件や期待・要求、必要感を明らかにするために、何が企てられ、その結果はどうなったか。
- ③ 目標や方法の提示（オリエンテーション）がどのようになされたか。
- ④ 開始の際に与えられた諸情報が、参加者の関心や意欲を高めたか。

##### (3) プログラム準備についての評価項目

- ① プログラムの全体構成について  
内容の選定や配列のしかたが、次の点に関して妥当かどうか。
  - ア プログラムの目的
  - イ 期間
  - ウ 参加者の水準
  - エ 学習方法
- ② プログラムの各コマ毎について（コマが1回の場合もある。）
  - ア 提示された知識・技術の広さと深さがそれでよいか。
  - イ 学習教材、資料のならば方がそれでよいか。
  - ウ 実例を用いての学習活動の可能性を十分いかせるか。
  - エ 問題意識の発展を図ることができるようになっているか。

##### (4) 方法についての評価項目

- ① どの程度の範囲で知識・技術の伝達がなされるか、またなされたか。

- ② 学習内容の習得のために、いかなる援助がなされるか、またなされたか。
- ③ 運営をスムーズにするためにいかなる援助がなされるか、またなされたか。
- ④ 補助手段（たとえば視聴覚的手段など）がいかなる範囲で使用され、いかなる機能を発揮するか、またしたか。
- ⑤ 参加者はどのようにして積極的に学習に参加するようにしむけられるか、またしむけられたか。
- ⑥ 事実の提示と意見の交換はどのような関係になっているか、そしてそれはうまくいったか。
- ⑦ 単位時間相互の関係はどうなっているか。

(5) 指導者と参加者の関係についての評価項目

- ① 指導の形態と方法
- ② 接触の形態
- ③ 参加者の態度

(6) 学習、学習成果に関する評価項目

学習者の側の学習、学習成果の評価については後で具体的に述べるので、ここでは事業を提供する側からの項目のみを挙げておきたい。

- ① 参加者の態度や反応に関して
  - ア 出席が規則的かどうか。もし欠席しがちの場合は、その原因は何か。
  - イ 参加者の学習へのかかわりかたがどのように発展していくか。または発展したか。
  - ウ 学習集団の状況変化がどの程度生じたか。
- ② 知識・技術水準に関して
  - ア どのような知識・技術習得の徴候があらわれたか。
  - イ 応用能力に関してどのような徴候があらわれたか。
  - ウ 応用しうるものとして、いかなる具体的結果が生じたか。
- ③ 理解、意見・態度に関して
  - ア 理解に関してはいかなる徴候があらわれているか。
  - イ 学習開始前の意見・態度がどのように変化したか。
- ④ 一般的な成果に関して
  - ア PR効果、指導者の期待、参加者の期待が、実際の学習過程とどのようにかかわりあっているか。
  - イ 将来の計画に対して
    - 組織編成上、
    - 指導・援助上（教育方法上）、
    - 学習活動上（参加者の学習活動上）、
 いかなる結論が出せるか。



## 2 評価指標の設定の視点と方法

### (1) 評価指標設定の視点

評価項目で評価を行うためには、評価指標が必要である。それについては、評価する各項目につき、たとえば次のような指標のうち当てはまるものを取り出して指標を作る。

- ① 目標の達成度（目標ほどの程度達成できたか。）
- ② 主な成果（現在までに得られた主な成果は何か。）
- ③ 費用対効果（効果的な費用投入をしたか。）
- ④ 主な特色（現在の時点で主な特色といえるのは何か。）
- ⑤ 稀少価値判断（価値がありながら消失したり、消失する恐れのあるものの存続を  
図ってきたか。）

など

### (2) 評価指標による評価資料の分析方法

評価指標が設定されると、集められた評価資料の分析を行うことになるが、その方法には次のようなものがある。

#### ① 定量的分析

(タイプ) (対象)

(分析技法)

A : 数値的な目標値を設定  
しているもの

達成率の利用

$$\text{達成率} = (\text{達成値} / \text{目標値}) \times 100$$

B : 数値的な目標値は設定  
してないが経年的な数量  
がわかるもの

時系列指数の利用

時系列指数の利用

$$= (\text{当該年の数量} / \text{参照基準}) \times 100$$

参照基準：基準とする年の数量

C : 質問紙調査によるデータ  
があるか収集できるもの

調査法の客観性、妥当性などを検討して、1  
の(1)～(4)によってデータを分析

参考

D : 対象機関共通の数量があ  
るもの

レンジ(最大値、最小値の幅)の利用

(最小値－平均値－最大値)の中に当該機関  
を位置付けて参考にする。

#### ② 定性的分析

数値的に対象を把握でき  
ないもの

記述された根拠資料を1の(1)～(4)によっ  
て分析

#### ③ 条件の分析

当該機関・施設等の条件を分析して評価の資料とする。

例

人的規模、施設等の物的条件、自然条件、歴史・伝統など。

④ 効率化係数

事業の効率化については費用対効果で捉えることが多いが、経年的（時系列的）にどの程度の効率化が図られてきたかを明らかにすると、ただ時系列的に毎年の費用対効果を並べるだけではわかりにくいことが多い。そのような場合には、効率化係数を使うことができる。

効率化係数：ある年度のある事業の効率化が、参照基準とした年に比べ、どの程度行われたかを示す数値

それが1であれば、参照基準とした年と変わらず、1より大きければ、効率化が進んだ、あるいは効率がよくなったことを示し、1より小さければ効率が落ちた、あるいは悪くなったことを示している。

例

効率化係数の基準年を平成12年とすると12年の効率化係数は1。もし14年の効率化係数が1.23になったとすると、効率が1.23倍もよくなったことになる。

算出法

効率化係数 a は、

$$a = \frac{y}{x} \quad \begin{array}{l} x : \text{当該年度の事業経費} / \text{参照基準年度の事業経費} \\ y : \text{当該年度の事業数量} / \text{参照基準年度の事業数量} \end{array}$$

で算出できる。

（詳しくは、井内慶次郎監修、山本恒夫・浅井経子・椎廣行編著『生涯学習「自己点検・評価」ハンドブック—行政機関・施設における評価技法の開発と展開—』文憲堂、平16年、を参照）

（山本 恒夫）

---

平成17年度 社会教育主事のための社会教育計画「実践・事例編」

---

平成18年4月

編集・発行 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

〒110-0007 東京都台東区上野公園1-2-43

TEL (03) 3823-0241

FAX (03) 3823-3008

<http://www.nier.go.jp/jissen/index.htm>

---